

静岡県 富士市

富士市内遺跡発掘調査報告書

—平成28年度—

2017年10月

富士市教育委員会

静岡県 富士市

富士市内遺跡発掘調査報告書

—平成28年度—



東平遺跡第83地区
SB201出土土師器

2017年10月

富士市教育委員会

舟久保遺跡 第58地区



1. SB3001 (西から)



2. 1工区全景 (南西から)



3. 出土遺物集合

カラー図版 2

宇東川遺跡 W地区



1. SB2003カマド周辺 (東から)



2. SB2010カマド (東から)



3. 出土遺物集合

東平遺跡 第83地区



1. 調査区全景（北東から）



2. SB201 カマド遺物出土（南東から）



3. 出土遺物 (SB201-4)

カラー図版 4

中吉原宿遺跡 第10地区



1. 3Tr 遺構検出 (南西から)



2. 3Tr 遺構検出 (北西から)



3. 2Tr (SX01) (南東から)



4. 出土物集合

例 言

1. 本書は、静岡県富士市内において富士市教育委員会が平成 28 年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。ただし、一部には平成 28 年度以前に調査された調査成果の報告も含んでいる。
また、調査名については、調査当時の包蔵地範囲に準拠して呼称している。
2. 調査は、富士市教育委員会教育長を主体者として実施し、文化振興課職員がこれにあたった。調査の一部は『国宝重要文化財等保存整備費補助金』及び『静岡県文化財保存費補助金』を得て実施した。調査体制、担当者は第 1 章第 1 節に譲る。
3. 本書の編集・執筆は主に佐藤祐樹（文化振興課主査）が行い、第 1 章第 2 節の執筆、全体の割付は若林美希（文化振興課臨時職員）が担当した。また、第 2 章第 2 節 (2) (3) の執筆は伊藤 愛（文化振興課主事補）が担当した。
4. 本書に掲載した調査に関わる図は、調査担当者および若林・服部孝信・小島利史・稲葉万智子・金田純子（以上、文化振興課臨時職員）が作成した。
遺物は、小田貴子（同）が実測し、稲葉・金田が図版を作成した。
遺物の接合・拓本は井上尚子・石川都久子・渡辺美規子・牧野かおり（同）による。
遺物写真は佐藤・小田が撮影し、調査記録写真は佐藤が撮影した。
5. 本書の作成にあたり、多くの皆様からの御指導、御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。
小崎 晋、篠原 武、堀内秀樹、前嶋秀張、山本 亮（五十音順、敬称略）
6. 本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会にて保管している。

凡 例

1. 確認調査を含め、座標は平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、世界測地系を使用して調査した。調査では、国土地理院による都市再生街区基本調査成果を用いた。

2. 各調査報告の冒頭に示す調査地位置図には、『富士市土地計画基本図』を使用した。

3. 挿図の縮尺は、各図に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺はすべて任意である。

4. 本書における標記は次のとおりである。

Tr: トレンチ SB: 竪穴建物跡 SD: 溝状遺構 SX: 性格不明遺構 SK: 土坑
Pt: ビット P: 土器 S: 石

5. 土器の実測図では、断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。

縄文土器・弥生土器・土師器  須恵器  灰軸陶器・陶器 

6. 土器および土層などの色調は『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修 2000年版）による。

7. 遺構・遺物ともに、法量の（ ）は残存値、[]は推定値である。また、土器の残存率は図示中での残存率を示した。

8. 出土遺物の評価については、主として次の文献に基づいて検討した。

・縄文土器

小林建雄 編 2008『総覧 縄文土器』

・土師器

山梨県考古学協会 1992『甲斐型土器研究グループ第1回研究集会資料 甲斐型土器-その編年と年代-』

木ノ内義昭 2002『須恵器流入以降〜律令時代の土師器の様相』『東平遺跡』富士市教育委員会

佐藤祐樹 2014『澗井川流域における須恵器流入以降の土器様相』『沢東 A 遺跡 第1次』富士市教育委員会

・須恵器

田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店

鈴木敏明 1998『第1章第4節 律令時代土器編年の概要』『梶子北遺跡』遺物編(本文)(財)浜松市文化協会

鈴木敏明 2004『第5章第2節 静岡県下の須恵器編年』『有玉古窯』浜松市教育委員会

・灰軸陶器

斎藤孝正 1989『灰軸陶器の研究Ⅱ-線投室Ⅴ期碗・皿類の型式編年-』『名古屋大学文学部研究論集』104(史学35)

尾野善裕 2008『古代の灰軸陶器生産と米姓古窯跡群』『米姓古窯跡群』豊田市教育委員会

井上喜久男 2015『瓷器』愛知県 別編 窯業Ⅰ 古代 線投系

目次

カラー図版

例言

凡例

目次

第1章 平成28年度の調査	
第1節 調査体制と調査概要	1
第2節 平成28年度の発掘調査報告	4
写真図版 平成28年度	29
第2章 中吉原宿遺跡第10地区の調査	
第1節 中吉原宿遺跡の概要	39
第2節 中吉原宿遺跡第10地区の調査成果	41
第3章 舟久保遺跡第58地区の調査	
第1節 舟久保遺跡の概要	47
第2節 舟久保遺跡第58地区の調査成果	48
第4章 宇東川遺跡W地区の調査	
第1節 宇東川遺跡の概要	59
第2節 宇東川遺跡W地区の調査成果	61
第5章 東平遺跡第83地区の調査	
第1節 東平遺跡の概要	79
第2節 東平遺跡第83地区の調査成果	81
第6章 資料報告	91
第7章 総括	93

写真図版

報告書抄録

挿入目次

第1章 平成28年度の調査

第1節 調査体制と調査概要

第1図 重機掘削の様子	2
第2図 発掘調査の様子	2
第3図 平成28年度調査地点の位置と地形区分	2

第2節 平成28年度の発掘調査報告

第4図 沖田道跡第154次調査地点 位置図	4
第5図 沖田道跡第154次調査地点 トレンチ配置図・セクション図	4
第6図 厚原道跡第7地区 位置図	5
第7図 厚原道跡第7地区 トレンチ配置図・セクション図	5
第8図 東平道跡第79地区 位置図	5
第9図 東平道跡第79地区 トレンチ配置図・セクション図	6
第10図 川取道跡第4地区 位置図	6
第11図 川取道跡第4地区 トレンチ配置図	6
第12図 川取道跡第4地区 セクション図	7
第13図 東平道跡第80地区 位置図	7
第14図 東平道跡第80地区 トレンチ配置図・セクション図	7
第15図 石取3古墳群第4地区 位置図	7
第16図 石取3古墳群第4地区 トレンチ配置図・セクション図	8
第17図 中原道跡第30地区 位置図	8
第18図 中原道跡第30地区 トレンチ配置図・セクション図	8
第19図 沢東A道跡第18次調査地点 位置図	9
第20図 沢東A道跡第18次調査地点 トレンチ配置図	9
第21図 沢東A道跡第18次調査地点 セクション図	10
第22図 中島道跡第11地区 位置図	10
第23図 中島道跡第11地区 トレンチ配置図・セクション図	10
第24図 沢東B道跡第11地区 位置図	11
第25図 沢東B道跡第11地区 トレンチ配置図・セクション図	11
第26図 東平道跡第81地区 位置図	11
第27図 東平道跡第81地区 トレンチ配置図・セクション図	12
第28図 国久保道跡第5地区 位置図	12
第29図 国久保道跡第5地区 出土遺物実照図	12
第30図 国久保道跡第5地区 トレンチ配置図・セクション図	13
第31図 柏原道跡第9地区 位置図	14
第32図 柏原道跡第9地区 トレンチ配置図・セクション図	14
第33図 東平道跡第82地区 位置図	14
第34図 東平道跡第82地区 トレンチ配置図・セクション図	15
第35図 一色2古墳群第4地区 位置図	15
第36図 一色2古墳群第4地区 トレンチ配置図・セクション図	15
第37図 包蔵地外厚原地先 位置図	16
第38図 包蔵地外厚原地先 トレンチ配置図	16
第39図 包蔵地外厚原地先 セクション図	17
第40図 沢東A道跡第19次調査地点 位置図	17
第41図 沢東A道跡第19次調査地点 トレンチ配置図・セクション図	17
第42図 柏原道跡第10地区 位置図	18
第43図 柏原道跡第10地区 4T-P901(北東から)	18
第44図 柏原道跡第10地区 トレンチ配置図	18
第45図 柏原道跡第10地区 セクション図	19
第46図 天間沢道跡第43地区 位置図	19
第47図 天間沢道跡第43地区 トレンチ配置図・セクション図	19
第48図 沖田道跡第155次調査地点 位置図	20
第49図 沖田道跡第155次調査地点 出土遺物実照図	20
第50図 沖田道跡第155次調査地点 トレンチ配置図・セクション図	20
第51図 天間沢道跡第44地区 位置図	21
第52図 天間沢道跡第44地区 トレンチ配置図・セクション図	21

第53図 コーカン畑道跡第3地区 位置図	21
第54図 コーカン畑道跡第3地区 トレンチ配置図・セクション図	21
第55図 東平道跡第84地区 位置図	22
第56図 東平道跡第84地区 トレンチ配置図・セクション図	22
第57図 東平道跡第85地区 位置図	22
第58図 東平道跡第85地区 トレンチ配置図・セクション図	22
第59図 沖田道跡第156次調査地点 位置図	23
第60図 沖田道跡第156次調査地点 トレンチ配置図・セクション図	23
第61図 舟久保道跡第59地区 位置図	23
第62図 舟久保道跡第59地区 トレンチ配置図・トレンチ平面図・セクション図	24
第63図 舟久保道跡第61地区 位置図	24
第64図 舟久保道跡第61地区 トレンチ配置図	24
第65図 舟久保道跡第61地区 セクション図	25
第66図 中野石切畑道跡第3地区 位置図	25
第67図 中野石切畑道跡第3地区 トレンチ配置図・セクション図	25
第68図 柏原道跡第11地区 位置図	26
第69図 柏原道跡第11地区 トレンチ配置図・トレンチ平面図・セクション図	26
第70図 天間代山道跡第4地区 位置図	26
第71図 天間代山道跡第4地区 トレンチ配置図・セクション図	26
第72図 舟久保道跡第62地区 位置図	27
第73図 舟久保道跡第62地区 トレンチ配置図・セクション図	27
第74図 富士岡1古墳群第16地区 位置図	28
第75図 富士岡1古墳群第16地区 トレンチ配置図・セクション図	29

第2章 中古原宿道跡第10地区の調査

第76図 中古原宿道跡 調査歴史図	39
第77図 吉原宿の変遷図	40
第78図 中古原宿道跡第5地区 出土遺物	40
第79図 中古原宿道跡第10地区 位置図	41
第80図 トレンチ配置図・セクション図	42
第81図 2トレンチ・6トレンチ 平面図・セクション図	43
第82図 3トレンチ 平面図・セクション図	44
第83図 出土遺物実照図	45

第3章 舟久保道跡第58地区の調査

第84図 舟久保道跡の位置と周辺地形図	47
第85図 舟久保道跡第58地区 位置図	48
第86図 確認調査トレンチ及び本調査工区配置図	49
第87図 確認調査トレンチ平面図・セクション図	50
第88図 本調査全体図・セクション図	51
第89図 1工区全体図	52
第90図 SB3001	52
第91図 SB3001 出土遺物実照図	53
第92図 SB3002	53
第93図 SB3002 出土遺物実照図	54
第94図 SB3003	54
第95図 SB3003 カマド	55
第96図 SB3003 出土遺物実照図	55
第97図 SB3004	56
第98図 SB3004 出土遺物実照図	56
第99図 PG3001～3004	57
第100図 遺構外出土遺物実照図	58

挿表目次

第4章 宇東川道跡W地区の調査

第101図	宇東川道跡の位置と周辺地形図	59
第102図	宇東川道跡 概要図	60
第103図	宇東川道跡W地区 位置図	61
第104図	確認調査トレンチおよび本調査工区配置図	61
第105図	確認調査トレンチ配置図・セクション図	62
第106図	調査風景	63
第107図	確認調査 出土遺物実測図	64
第108図	1工区全体図	65
第109図	SB2001 平面図・セクション図	65
第110図	SB202・SB203・SB204・SB210 平面図・セクション図	66
第111図	SB2002 カマド 平面図・セクション図	67
第112図	SB2002 出土遺物実測図	67
第113図	SB2003 カマド 平面図・セクション図	68
第114図	SB2003 出土遺物実測図	69
第115図	SB2010 カマド 平面図・セクション図	70
第116図	SB2010 出土遺物実測図	71
第117図	SB2005 平面図・セクション図	71
第118図	2・3・4・5工区全体図	72
第119図	SB2006・SB2007 平面図・セクション図	73
第120図	SB2006 カマド 平面図・セクション図	73
第121図	SB2006 出土遺物実測図	74
第122図	SB2008・SB2009 平面図・セクション図	74
第123図	SB2008 出土遺物実測図	75
第124図	5工区縄文包含層遺物出土状況図	76
第125図	包含層出土遺物実測図	77

第5章 東平道跡第83地区の調査

第126図	東平道跡の位置と周辺地形図	79
第127図	東平道跡第83地区 位置図	81
第128図	確認調査トレンチおよび本調査区配置図	81
第129図	確認調査トレンチ 遺構検出状況図	82
第130図	本調査区全体 平面図・基本土層図	83
第131図	SB201 平面図・セクション図	84
第132図	SB201 カマド 平面図・セクション図	85
第133図	SB201 出土遺物実測図	85
第134図	SB202 平面図・セクション図	86
第135図	SB202 出土遺物実測図	86
第136図	SD201・202・203 平面図・セクション図	87
第137図	SX201 平面図・セクション図	88
第138図	SX201 およびピット 出土遺物実測図	88
第139図	土坑・ピット 平面図・セクション図①	89
第140図	土坑・ピット 平面図・セクション図②	90
第141図	遺構外 出土遺物実測図	90

第6章 資料報告

第142図	資料報告遺物実測図	91
-------	-----------	----

第1章 平成28年度の調査

第1表	平成28年度発掘調査一覧表	3
第2表	国久保道跡第5地区 出土遺物観察表	12
第3表	神田道跡第155次調査地点 出土遺物観察表	20

第2章 沢東A道跡第16次調査地点の調査

第4表	中古塚道跡 調査履歴一覧表	39
第5表	出土遺物観察表	45
第6表	出土遺物組成表	46

第3章 舟久保道跡第58地区の調査

第7表	SB3001 出土遺物観察表	53
第8表	SB3002 出土遺物観察表	54
第9表	SB3003 出土遺物観察表	55
第10表	SB3004 出土遺物観察表	57
第11表	ピット 遺構概要一覧表	57
第12表	遺構外 出土遺物観察表	58

第4章 宇東川道跡W地区の調査

第13表	確認調査出土遺物観察表	64
第14表	SB2002 出土遺物観察表	68
第15表	SB2003 出土遺物観察表	69
第16表	SB2010 出土遺物観察表	71
第17表	SB2006 出土遺物観察表	74
第18表	SB2008 出土遺物観察表	75
第19表	包含層出土遺物観察表	77

第5章 東平道跡第83地区の調査

第20表	SB201 出土遺物観察表	85
第21表	SB202 出土遺物観察表	86
第22表	SX201 およびピット 出土遺物観察表	88
第23表	土坑・ピット 遺構概要一覧表	90
第24表	遺構外 出土遺物観察表	90

カラー図版目次

- カラー図版 1
舟久保遺跡 第58地区
- カラー図版 2
宇東川遺跡 W地区
- カラー図版 3
東平遺跡 第83地区
- カラー図版 4
中古原宿遺跡 第10地区

写真図版目次

- PL.1 中古原宿遺跡 第10地区
1. 3Tr. (北西から)
- PL.2 中古原宿遺跡 第10地区
1. 3Tr. (SX00・SX07・SX08) (南西から)
2. 3Tr. (SA01・SX05) (西から)
- PL.3 中古原宿遺跡 第10地区
1. 3Tr. (SA01・SX07) (北から)
2. 3Tr. 土層地層 (南西から)
- PL.4 中古原宿遺跡 第10地区
1. 調査前 (南東から)
2. 遺構稼働 (南西から)
3. 1Tr. 土層地層 (南から)
4. 2Tr. (SX01) (東から)
5. 2Tr. 完掘 (南東から)
- PL.5 中古原宿遺跡 第10地区
1. 9Tr. 完掘 (南東から)
2. 8Tr. 完掘 (北から)
3. 6Tr. 完掘 (南から)
4. 7Tr. 完掘 (南から)
- PL.6 中古原宿遺跡 第10地区
出土遺物
- PL.7 舟久保遺跡 第58地区
1. 確認調査 重機稼働
2. 1Tr. 東壁土層 (西から)
3. 3Tr. 完掘 (西から)
4. 6Tr. 東壁 SK03 断面 (西から)
5. 6Tr. 完掘 (南西から)
6. 第60地区 1Tr. 完掘 (南西から)
- PL.8 舟久保遺跡 第58地区
1. 1工区全景 (南西から)
- PL.9 舟久保遺跡 第58地区
1. SB3001 (西から)
2. SB3001 遺物出土 (北から)
3. SB3002・SB3003 (南東から)
- PL.10 舟久保遺跡 第58地区
1. 1工区北側 (南西から)
- PL.11 舟久保遺跡 第58地区
1. SB3003 (南東から)
2. SB3001 カマド (南東から)
- PL.12～14 舟久保遺跡 第58地区
出土遺物
- PL.15 宇東川遺跡 W地区
1. 1工区全景 (東から)
- PL.16 宇東川遺跡 W地区
1. 1工区遺構検出 (東から)
2. SB2002 カマド (東から)
3. SB2003 カマド周辺 (東から)
4. SB2010 カマド周辺 (東から)
- PL.17 宇東川遺跡 W地区
1. SB2010 遺物 (4) (北東から)
2. SB2001 (東から)
- PL.18 宇東川遺跡 W地区
1. 2工区から5工区全景 (南東から)
2. SB2006 カマド (南から)
3. 5工区遺物出土 (南東から)
- PL.19～22 宇東川遺跡 W地区
出土遺物
- PL.23 東平遺跡 第83地区
1. 調査区全景 (北西から)
- PL.24 東平遺跡 第83地区
1. SB201 全景 (南東から)
2. SB201 全景 (北東から)
- PL.25 東平遺跡 第83地区
1. SB201 カマド (南東から)
2. SB201 カマド遺物出土状況 (南東から)
3. SB202 全景 (西から)
- PL.26 東平遺跡 第83地区
1. SB202 全景 (北西から)
2. SD201 全景 (北西から)
- PL.27 東平遺跡 第83地区
1. SD202・203 全景 (南西から)
2. SX201 全景 (北西から)
- PL.28 東平遺跡 第83地区
1. Pw201・203 (東から)
- PL.29 東平遺跡 第83地区
出土遺物
- PL.30 資料報告
出土遺物

第1章 平成28年度の調査

第1節 調査体制と調査概要

1. 調査体制

平成28年度の埋蔵文化財発掘調査は、以下の体制で実施した。

〔調査主体〕	富士市教育委員会	教育長	山田 幸男
〔調査担当〕	市民部	部長	加納 孝則
	文化振興課	課長	町田しげ美
	文化財担当	統括主幹	久保田伸彦
		主幹	石川 武男
	埋蔵文化財調査室	主査	佐藤 祐樹
		臨時職員	服部 孝信
			小島 利史
			若林 美希

2. 調査件数

文化財保護法（以下、法という。）第99条に基づき、平成28年度は、確認調査39件、本発掘調査4件を実施した。確認調査費用の一部には『国宝重要文化財等保存整備費補助金』及び『静岡県文化財保存費補助金』を使用している。

3. 届出・通知の周知徹底と件数

富士市教育委員会では、これまでに開発と埋蔵文化財保護の円滑な調整のために、『富士市埋蔵文化財分布地図』（以下、「分布地図」）を作成してきた。平成28年度には『国宝重要文化財等保存整備費補助金』及び『静岡県文化財保存費補助金』を受けて、「分布地図」を修正し印刷した。

また、静岡県行政書士会富士支部会員97名及び、(公財)静岡県宅地建物取引業協会東部支部富士支所の会員286名、ハウスメーカー33社に対して「分布地図」を送付するとともに、埋蔵文化財包蔵地内における土木工事を行う際は、60日前までに届出をするという法第93条を遵守するように依頼した。

加えて、電気（電柱）やガスなどの工事についても法令遵守を徹底し、すべての土木工事について事前に届出

をするよう事業者へ指導した。

その結果、法第93条に基づく届出を静岡県教育委員会へ226件を達した。

一方、公共工事については、前年度の2月に、次年度の公共事業の全リストを文化振興課に提出するように庁内各課に求め、そのリストを基に法第94条の通知の必要な事業、事前に確認調査の実施が必要な事業などを回答している。平成28年度は29件の通知があった。

4. 発掘調査の概要

縄文時代 宇東川遺跡W地区の確認調査において縄文土器が出土し、その後、行われた本発掘調査(第4章参照)においても限られた面積の調査ながら、曾利V式期の土器・石器が出土した。また、旧富士川町域の中野石切場遺跡においても表土下約30cmに存在する遺物包含層から曾利IV～V式期の遺物が確認された。中野石切場遺跡では、周辺でも同時期の遺物が多数出土しており、縄文時代における比較的規模の大きな集落であった可能性が指摘できる。

弥生・古墳時代 沖田遺跡第155次調査地点において表上下2.5mにおいて弥生時代後期の遺物包含層が存在することが明らかとなった。調査地北東側の第116次調査地点においても敷地西側を中心に黒色土（遺物包含層）の存在が認められている。平成28年度は古墳時代に関する調査は行っていない。

奈良・平安時代 前述の宇東川遺跡第W地区の本調査において幅2mのトレンチ調査ながら10軒の竪穴建物跡を調査した。本地区の南側は平成27年度に本発掘調査を行ったU地区にあたる。トレンチにおいて検出された建物跡はU地区において検出された建物跡と軸を同一にしていることから同じまとまりであると認識することができる。

富士郡家とされる東平遺跡では2件の本発掘調査を行った。第41地区では竪穴建物跡19軒を調査し、83地区では竪穴建物跡2軒を調査した。第83地区の

SB201のカマドからは螺旋状暗文をもつ土師器環が出土しており注目される（第5章参照）。第41地区の調査報告書は平成29年度末に刊行される予定である。

舟久保遺跡第58地区の本発掘調査では奈良時代から平安時代の堅穴建物跡4軒を調査した。甲斐型土器の出土などが注目される。

国久保遺跡ではこれまで包蔵地外であった谷部での試掘調査を実施し、奈良時代の集落が広がることを確認し、包蔵地範囲を変更した。国久保遺跡は富士郡家である東平遺跡内に存在したと考えられる法照寺周辺から湧き出る和田川沿いに位置する遺跡である。これまであまり調査されることがなかったが、今回の調査により駿河湾から和田川を使って、東平遺跡を訪れる際に、荷揚げなどの機能を有していた谷部に展開する集落である可能性を

指摘することができる。また、東側の尾根上には舟久保遺跡が展開しており、注目される遺跡となった。

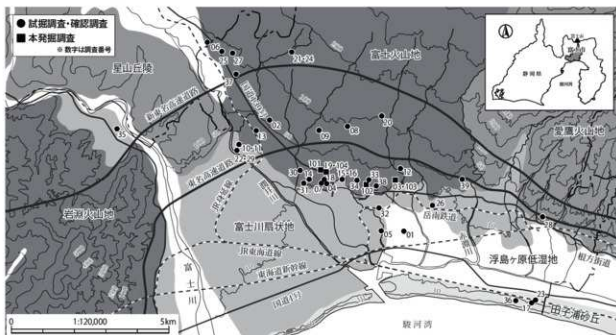
近世 中吉原宿遺跡第10地区の確認調査を実施した。吉原宿は東海道14番目の宿場として知られているが、台風や高潮により被害を絶えず受けて、およそ40年ごとに移転しており、それぞれ、元吉原宿、中吉原宿、新吉原宿と呼ばれている。中吉原宿は寛永16～17年（1639～1640）にかけて元吉原宿より所替され、延宝8年（1680）閏8月6日に襲来した江戸時代最大級の台風による高潮の被害を受け壊滅している。平成11年の確認調査においても17世紀中葉の良好な一括遺物が出土している。平成28年度の調査でも17世紀中葉の陶磁器が遺構に伴って出土した。



第1図 重機掘削の様子



第2図 発掘調査の様子



第3図 平成28年度調査地の位置と地形区分

第2節 平成28年度の発掘調査報告

1. 沖田道跡 第154次調査地点

所在地 今泉612-1 外

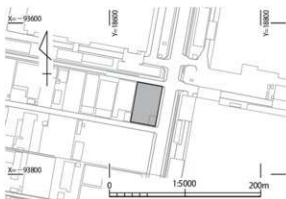
調査面積 39.629㎡ (対象面積 1887.09㎡)

調査期間 平成28年4月4日

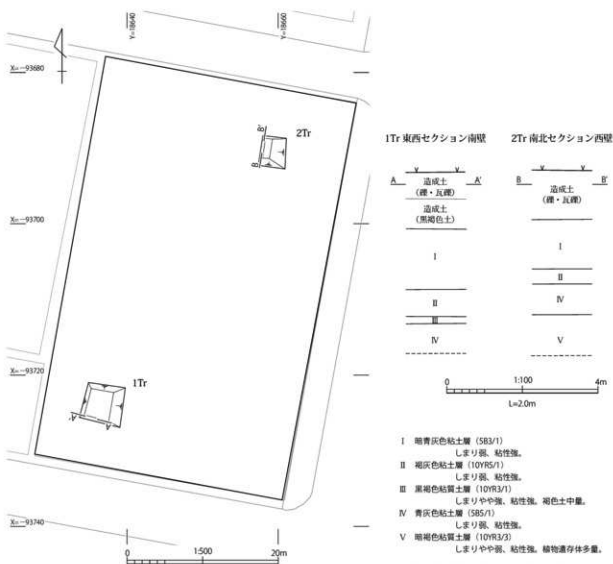
調査の原因 工場新築工事

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 地表下5mまで掘削したものの遺構・遺物は検出されなかった。



第4図 沖田道跡第154次調査地点 位置図



第5図 沖田道跡第154次調査地点 トレンチ配置図・セクション図

2. 厚原遺跡 第7地区 1次調査

所在地 厚原711-1 外

調査面積 18,331㎡ (対象面積 484.34㎡)

調査期間 平成28年4月6日

調査の原因 宅地造成

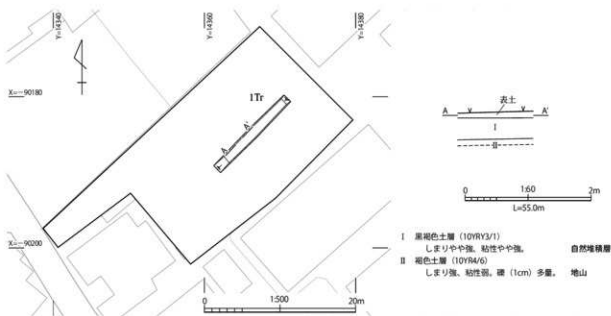
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

しかし、周辺から少量ながら土器が収集されることから周囲に集落が存在する可能性もある。



第6図 厚原遺跡第7地区 位置図



第7図 厚原遺跡第7地区 トレンチ配置図・セクション図

3. 三日市廃寺跡(東平遺跡 第79地区)1次調査

所在地 浅間上町 2896-30

調査面積 11,660㎡ (対象面積 201.56㎡)

調査期間 平成28年4月21日

調査の原因 個人住宅新築

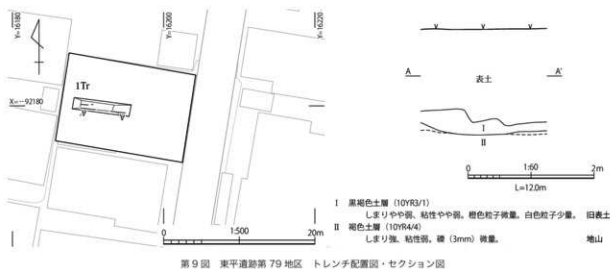
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 上面が大規模に削平を受けており、遺構・遺物は検出されなかった。

また、土層観察からは溶岩流の堆積が認められず周辺とは異なる土層堆積であることから、埋没地形を復元する際に重要な所見が得られた。



第8図 東平遺跡第79地区 位置図



4. 川坂道跡 第4地区

所在地 天間899番2

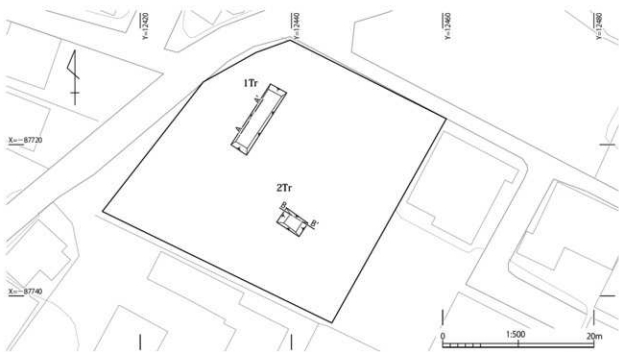
調査面積 31.659㎡ (対象面積 962.86㎡)

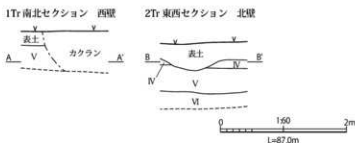
調査期間 平成28年4月18日

調査の原因 宅地分譲

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 土地全体が大規模に削平を受けていることが明らかとなり、遺構・遺物は検出されなかった。





第12図 川坂道跡第4地区 セクション図

(天照沢遺跡 標準土層)

IV 漸移層 (Zn)：暗褐色

褐色味の強い土と黒味が強い土が混ざり合い、
鮮やかな褐色スコリア粒を少量含む。
しまりやや弱、粘性やや強。

V 休耕層 (YL)：明褐色

全体的に赤みが強く、褐色スコリア粒をやや多く含む。
しまりやや弱、粘性やや強。

VI 古富士泥流層上層か：明褐色

巨礫層主体となり粘性が強い。水分を多く含み、
しばらく放置すると礫間に水が溜まる。

5. 三日市廃寺跡 (東平道跡 第80地区)

所在地 浅間上町2983番2外

調査面積 17,681㎡ (対象面積 365㎡)

調査期間 平成28年4月22日

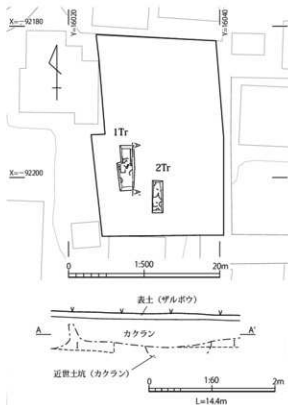
調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 近世土坑が確認されたが、それ以外に明確な遺構・遺物は検出されなかった。



第13図 東平道跡第80地区 位置図



I 明褐色砂質土層 (10YR6/8) しまり弱、粘性弱。地山

第14図 東平道跡第80地区 トレンチ配置図・セクション図

6. 石坂3古墳群 第4地区

所在地 石坂456-5外

調査面積 6.6㎡ (対象面積 3311.1㎡)

調査期間 平成28年5月9日～5月10日

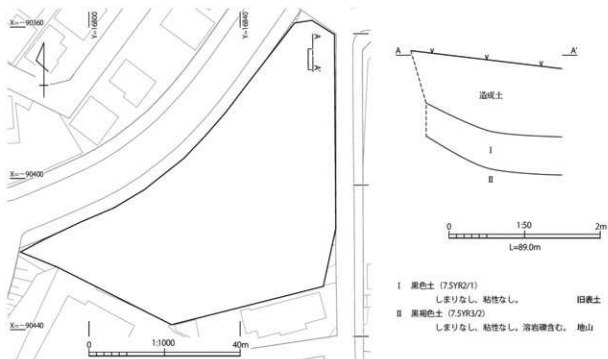
調査の原因 青少年センター解体

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第15図 石坂3古墳群第4地区 位置図



第16図 石坂3古墳群第4地区 トレンチ配置図・セクション

7. 中原道跡 第30地区

所在地 伝法521番8外

調査面積 17.373㎡ (対象面積 1,025.08㎡)

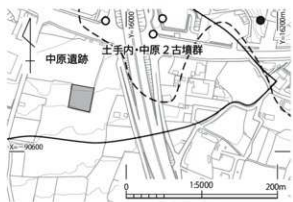
調査期間 平成28年5月16日

調査の原因 大規模流通業務施設敷地造成

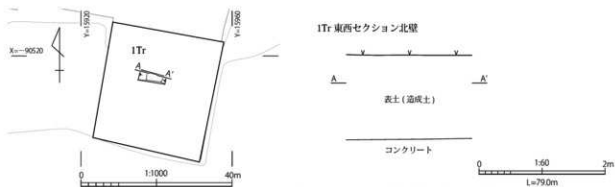
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

土地全体が盛土造成されていることが明らかとなり、地表下約1.4mの深さでコンクリート基礎が張られているため調査不能となった。



第17図 中原道跡第30地区 位置図



第18図 中原道跡第30地区 トレンチ配置図・セクション図

8. 沢東A遺跡 第18次調査地点1次調査・2次調査

所在地 久沢108-1 外

調査面積 114,541㎡ (対象面積 2,398㎡)

調査期間 1次：平成28年5月18日～5月20日

2次：平成28年6月28日



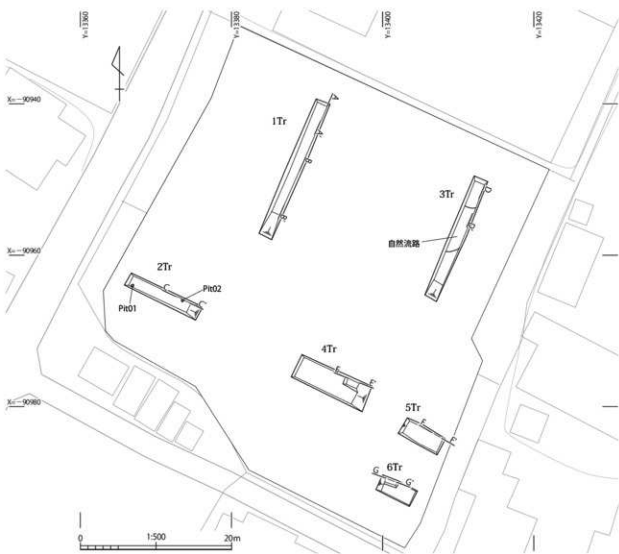
第19図 沢東A遺跡第18次調査地点 位置図

調査の原因 集合住宅新築

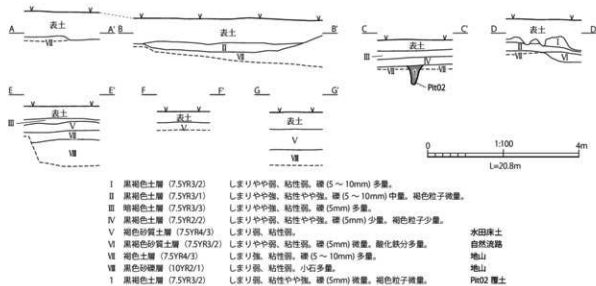
調査の概要 敷地内に6箇所のトレンチを設定し(1次：1～4Tr、2次：5～6Tr)、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 敷地西側の2トレンチにおいて、遺物が伴うピットが検出されたが、出土した土師器片は少量で図示にはいたらなかった。また、他のトレンチでは遺構・遺物は検出されなかった。

平成27年度に行った東側隣接地(第17次調査地点)において遺物が認められていることから、現在田畑となっている敷地内にはかつて遺構が存在したものの、土地改変に伴う削平の結果、遺構はほとんど残存しないと考えられる。



第20図 沢東A遺跡第18次調査地点 トレンチ配置図



第21図 沢東A遺跡第18次調査地点 セクション図

9. 中島遺跡 第11地区

所在地 原田767-1の内 外

調査面積 21.743㎡ (対象面積 999㎡)

調査期間 平成28年7月13日

調査の原因 宅地分譲

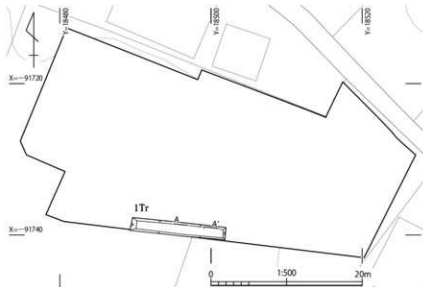
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

敷地西側の第9地区では堀ノ内2式の埋甕が出土しており、本地区に遺構が残存する可能性は否定できないが、今回の調査では確認できなかった。



第22図 中島遺跡第11地区 位置図



第23図 中島遺跡第11地区 トレンチ配置図・セクション図

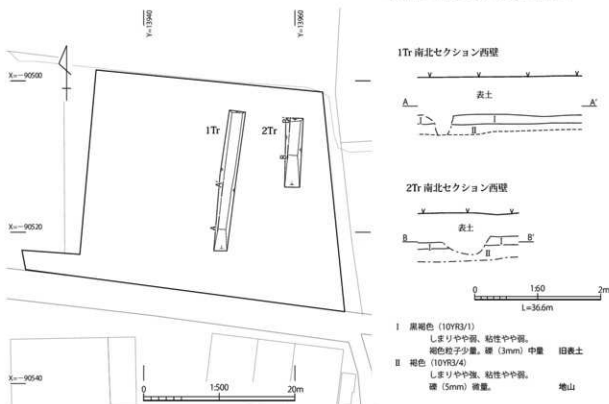
- | | |
|------------------|------------------------------|
| I 黒褐色 (7.5YR3/2) | Lまりや中強、粘性や中強、褐色粒子少量、礫(5mm)中量 |
| II 褐色 (10YR3/4) | Lまり強、粘性やや弱、礫(5cm)少量、地山 |

10. 沢東B遺跡 第11地区

所在地 厚原134-3 外
 調査面積 57,664㎡ (対象面積 937.01㎡)
 調査期間 平成28年7月19日
 調査の原因 集合住宅新築
 調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。
 調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第24図 沢東B遺跡第11地区 位置図



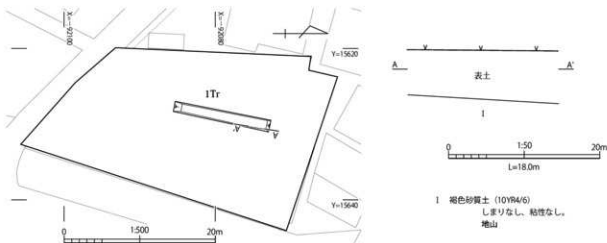
第25図 沢東B遺跡第11地区 トレンチ配置図・セクション図

11. 東平遺跡 第81地区

所在地 伝法2804番3 外
 調査面積 18,846㎡ (対象面積 642.5㎡)
 調査期間 平成28年8月3日
 調査の原因 駐車場整備
 調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。
 調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第26図 東平遺跡第81地区 位置図



第27図 東平道跡第81地区 トレンチ配置図・セクション図

12. 包蔵地外 国久保道跡 隣接地

(国久保道跡 第5地区 1次調査・2次調査)

所在地 国久保一丁目2126番1外

調査面積 1次：76.152㎡

2次：20.129㎡ (対象面積 2,972.30㎡)

調査期間 1次：平成28年8月23日～8月24日

2次：平成28年9月9日

調査の原因 貸店舗敷地造成

調査の概要 敷地内に5箇所のトレンチを設定し(1次：1～2Tr、2次：3～5Tr)、重機による掘削後、人力により精査を行った。



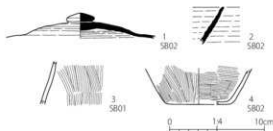
第28図 国久保道跡第5地区 位置図

調査の結果 奈良時代の竪穴建物跡3軒(SB01～03)と、土坑1基(SK01)を検出した。

遺物は土師器・須恵器が出土し、4点図示した(第29図)。1は須恵器摘み蓋の破片である。摘みは高さをもつ。2は箱坯もしくは有台坏身の破片で直線的に広がる。8世紀中葉から後葉と考えられる。3・4は通江系水平口縁甕の胴部片と底部である。やや荒いハケ目調整が施される。胎土には金雲母を含む。8世紀後半から9世紀にかけての遺物と考えられる。

これまで集落域が存在しないと考えられてきた谷部分に比較的大規模な集落が展開している可能性が考えられ、隣接する東平道跡や舟久保道跡との構造的関係について再考する必要がある。

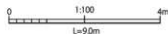
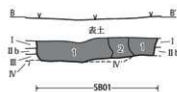
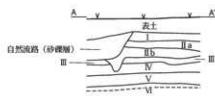
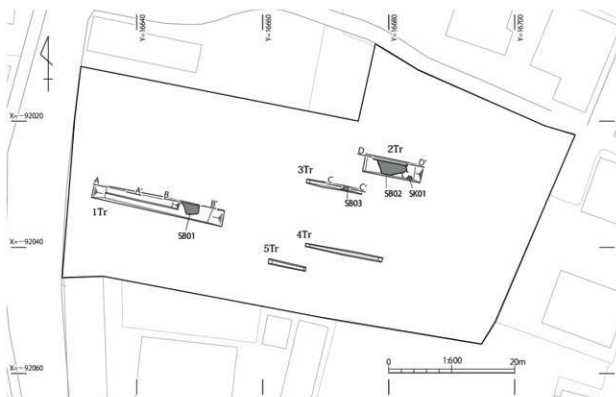
今回の調査結果に基づき、包蔵地の範囲変更を行った。



第29図 国久保道跡第5地区 出土遺物実測図

第2表 国久保道跡第5地区 出土遺物観察表

碑図番号	頁番号	写真 図版	出土 場所	種類	尺貫 (cm)				焼成 残存 率	内面色調	外面色調			
					口徑	底径	高さ	幅み径 幅み高さ						
第29図1	R0003	32頁	SB02	須恵器	摘み蓋	-	-	(2.7)	2.9	1.0	良好	60%	2.5Y6/1 (黄灰)	2.5Y6/1 (黄灰)
第29図2	R0003	32頁	SB02	須恵器	杯	-	-	(3.9)	-	-	良好	-	2.5Y7/1 (灰白)	2.5Y7/1 (灰白)
第29図3	R0002	32頁	SB01	土師器	通江系水平口縁甕	-	-	(4.5)	-	-	良好	10YR6/3 (にぶい黄橙)	10YR6/3 (にぶい黄橙)	
第29図4	R0003	32頁	SB02	土師器	通江系水平口縁甕	-	(6.8)	(3.8)	-	-	良好	30%	10YR4/2 (灰黄褐)	10YR4/2 (灰黄褐)



- | | | | | |
|------|--------|-----------|--|-----------|
| I | 暗褐色 | (10YR3/3) | しまりやや弱、粘性やや弱、礫(1cm)多量。 | |
| II a | 黒褐色 | (10YR2/2) | しまりやや強、粘性やや弱、褐色粒子少量、白色粒子微量、礫(1cm)中量。 | |
| II b | 黒色 | (10YR2/1) | しまりやや強、粘性やや弱、褐色粒子少量、白色粒子微量、礫(1cm)微量。 | |
| III | 黄褐色 | (10YR5/6) | しまりやや強、粘性やや強、黒色土ブロック微量。 | |
| IV | 黒色 | (10YR2/1) | しまりやや強、粘性やや弱、褐色粒子(大沢スコリア?)少量、白色粒子(カワゴ平/ミズ?)微量。 | |
| V | 黒褐色 | (10YR3/2) | しまりやや強、粘性やや強、褐色粒子少量、礫(1cm)少量。 | |
| VI | 褐色 | (10YR4/4) | しまりやや強、粘性やや強、黒色土ブロック少量。 | |
| 1 | 黒褐色 | (10YR3/1) | しまりやや弱、粘性やや強、大沢スコリア中量、粘土多量。 | SB01 覆土 |
| 2 | にじみ黄褐色 | (10YR6/4) | しまりやや弱、粘性やや強、粘土多量、埴土中量。 | SB0119? |
| 3 | 黒褐色 | (10YR3/1) | しまりやや強、粘性やや弱、大沢スコリア少量、粘土少量、礫(1cm)少量。 | SB02 覆土 |
| 4 | 暗褐色 | (10YR3/3) | しまりやや強、粘性やや強、粘土多量、埴土少量、黒色土少量。 | SB0219? |
| 5 | にじみ黄褐色 | (10YR3/1) | しまりやや強、粘性やや弱、黒色土ブロック少量、粘土少量。 | SB02 龍方埋土 |

第30図 国久保遺跡第5地区 トレンチ配置図・セクション図

13. 柏原遺跡 第9地区

所在地 東柏原新田217-1、229

調査面積 23,145.972㎡ (対象面積 971㎡)

調査期間 平成28年9月14日

調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

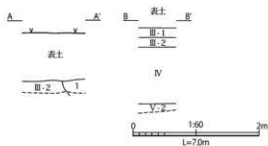
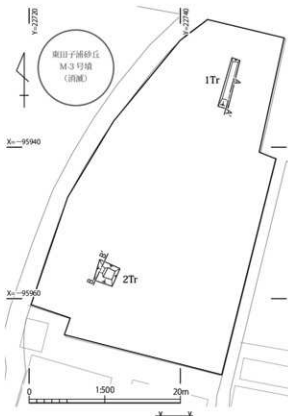
調査の結果 時期を決定できる明確な遺構・遺物は検出されなかった。

1 トレンチでは大淵スコリア層上面において掘り込みを検出したものの、掘り込み中の土は表土と明確に区別できず、また、遺物も出土しないことから時期は明らかにならなかった。近世以降の掘り込みの可能性が考えられる。2 トレンチでは大淵スコリア下層の砂層も掘削したものの遺構・遺物は見つからなかった。

平成22年に行った周辺の確認調査(第6地区2次調査)でも明確な遺構が見つからなかったことから、当該地には遺構は存在しないものと考えられる。



第31図 柏原遺跡第9地区 位置図



Ⅱ-1 暗褐色砂質土層 (5YR3/4) しまりやや弱、粘性なし。大淵コ37種多量。
Ⅱ-2 大淵コ37硬化層 (5YR3/4) しまり強、粘性なし。
Ⅳ 黄褐色砂層 (10YR3/2) しまり強、粘性なし。円礫 (1-10mm) 少量。
Ⅴ-2 褐色砂質土層 (10YR4/4) しまり強、粘性なし。円礫 (1-20mm) 少量。
1 黒色砂層 (7.5YR2/1) しまりなし、粘性なし。性格不明の礫り込み

第32図 柏原遺跡第9地区 トレンチ配置図・セクション図

14. 三日市廃寺跡 (東平遺跡第82地区)

所在地 浅間上町2895-14

調査面積 8,438㎡ (対象面積 82.18㎡)

調査期間 平成28年9月20日～9月21日

調査の原因 不動産売買

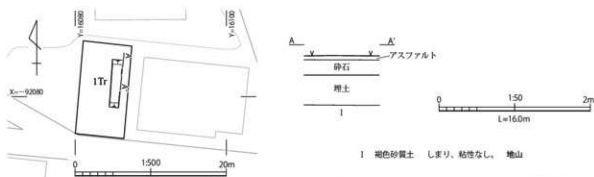
調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。

敷地にはかつて住宅が存在し、その際に地面が大きく削られたと考えられ、旧表土も残存しなかった。



第33図 東平遺跡第82地区 位置図



第34図 東平道跡第82地区 トレンチ配置図・セクション図

15. 一色2古墳群 第4地区

所在地 一色282-1 外

調査面積 256.51㎡ (対象面積 1549.0㎡)

調査期間 平成28年10月11日～10月15日

調査の原因 まちづくりセンター第2駐車場整備工事

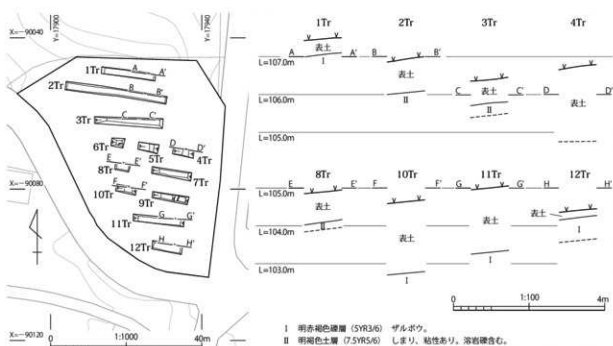
調査の概要 敷地内に古墳が存在する可能性を考慮し、12本のトレンチを設定し、重機掘削の後、人力精査により、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

敷地内は、急傾斜地であることから、これまでの土地造成工事により盛り土工事や切り土工事が繰り返行われており、古墳が立地する地形とは考えられないことも明らかとなった。



第35図 一色2古墳群第4地区 位置図



第36図 一色2古墳群第4地区 トレンチ配置図・セクション図

16. 包蔵地外 厚原地先1次調査・2次調査

所在地 厚原1619番地1外

調査面積 1次:517.78㎡

2次:496.558㎡(対象面積 15987.21㎡)

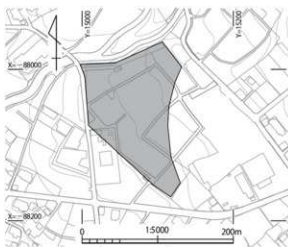
調査期間 1次:平成28年10月17日～10月24日

2次:平成28年11月7日～11月11日

調査の原因 吉原林間学園改築整備事業

調査の概要 敷地内に31本のトレンチを設定し(1次:1～12Tr、2次:13～31Tr)、重機掘削の後、人力精査により、遺構・遺物の検出につとめた。

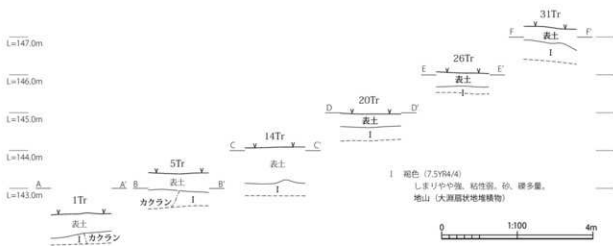
調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。



第37図 包蔵地外厚原地先 位置図



第38図 包蔵地外厚原地先 トレンチ配置図



第39図 包蔵地外厚原地先 セクション図

17. 沢東A遺跡 第19次調査地点1次調査・2次調査

所在地 久沢15-1 外

調査面積 1次:72.16㎡

2次:43.00㎡ (対象面積 9961.94㎡)

調査期間 1次:平成28年10月25日～10月26日

2次:平成28年12月8日

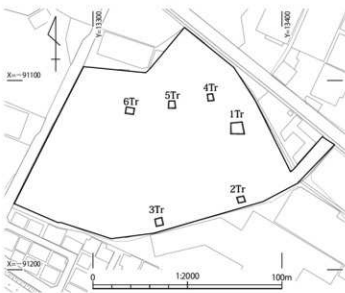
調査の原因 工場新築

調査の概要 敷地内に6箇所のトレンチを設定し(1次:1～3Tr、2次:4～6Tr)、重機による掘削後、遺構・遺物の発見につとめた。

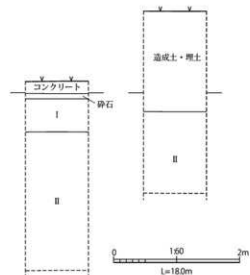
調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第40図 沢東A遺跡第19次調査地点 位置図



2Tr 南北セクション東壁 6Tr 東西セクション南壁



I 黒褐色砂質土 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性なし、腐植地堆積層(地山)
 II 黒色粘質土 (7.5YR2/1) しまりややあり、粘性あり、水成堆積層(濁井川流域の氾濫に伴う地山)

第41図 沢東A遺跡第19次調査地点 トレンチ配置図・セクション図

18. 柏原遺跡 第10地区

所在地 東柏原新田215-1 外

調査面積 51,388㎡ (対象面積 1274㎡)

調査期間 平成28年11月7日～11月8日

調査の理由 個人住宅新築

調査の概要 敷地内に4箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 1Tr、2Trでは遺構・遺物は確認されなかったものの敷地南側では遺物の散布が認められる。

3Trでは地表下105cmにおいて性格不明遺構(SX01)が認められるが、地表下165cmにおいて磁器が出土したことから近世以降のものと考えられる。

4Trでは地表下70cmにおいて古墳時代中期末に富士山の側火山から噴出したと考えられる大淵スコリア層が検出され、ピット1基と土師器片が検出された。

以上の結果から、対象地には僅かながら遺跡が残存するものと考えられる。

出土した遺物は少量で図示にはいたらなかった。



第42図 柏原遺跡第10地区 位置図

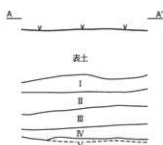


第43図 柏原遺跡第10地区 4TrPit01 (北東から)

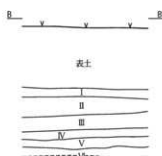


第44図 柏原遺跡第10地区 トレンチ配置図

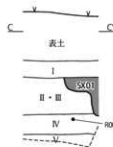
1Tr 南北セクション東壁



2Tr 南北セクション東壁



3Tr 南北セクション東壁

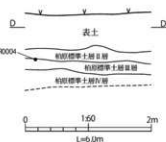


- I 暗褐色 (10YR3/3) しまりややあり、粘性なし。小石 (5～10mm) 多量。
 II 黒褐色 (10YR3/1) しまりややあり、粘性なし。小石 (5～10mm) 多量。
 III 黒褐色 (10YR3/4) しまりややあり、粘性なし。若干土壌化して水分を含む。礫を含まない。
 IV 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性なし。上部に小石 (2cm) を含む層が薄く堆積する。土壌化している。
 V 暗褐色 (7.5YR3/3) しまりややあり、粘性なし。砂層。小石 (5～10mm) 多量。
 VI 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性なし。土壌化した地山 (基盤層)。

(前原標準土層) ※ I層は表土。

- II層 暗褐色砂質土層 (10YR3/4) しまりやや弱、粘性なし。大瀝石中量。
 III層 暗褐色砂質土層 (5YR3/4) しまりやや弱、粘性なし。大瀝石中量多量。
 IV層 黒褐色細砂層 (7.5YR3/1) しまりやや弱、粘性なし。粗粒砂多量。
 V層 黒褐色砂質土層 (10YR3/1) しまり強、粘性弱。砂層。粗粒砂多量。

4Tr 南北セクション東壁



第45図 柏原遺跡第10地区 セクション図

19. 天間沢遺跡 第43地区

所在地 天間590番1外

調査面積 6,523㎡ (対象面積 995.80㎡)

調査期間 平成28年11月14日

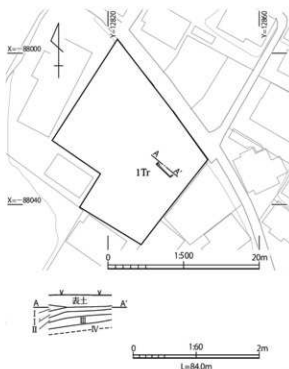
調査の原因 個人住宅及び集合住宅建設

調査の概要 家屋が存在することから、限られた範囲での確認調査となった。敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。



第46図 天間沢遺跡第43地区 位置図



- I 黒色 (7.5Y1.7/1) しまりあり、粘性なし。マサ土少量混入。
 I' 黒色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性なし。マサ土多量混入。
 II 黒色 (7.5YR1.7/1) しまりやや弱、粘性なし。
 III 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりあり、粘性ややあり。3～10cm 礫多量。
 IV 褐色 (7.5YR4/4) しまりあり、粘性なし。吉富士溶砦。

第47図 天間沢遺跡第43地区 トレンチ配置図・セクション図

20. 沖田遺跡 第155次調査地点

所在地 比奈643番1外

調査面積 38.189㎡ (対象面積 4654.4㎡)

調査期間 平成28年11月17日～11月18日

調査の理由 不動産売買

調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、排土中の遺物採集を行った。

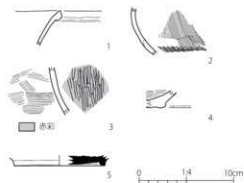
調査の結果 軟弱な地盤と水の影響で明確な遺構を認識することはできなかったが、地表下2.5mに弥生時代、奈良・平安時代の遺物包含層が存在することを確認し、弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器などが出土した。平成12年に確認調査を行った第116次調査地点(比奈938-1ほか)の成果とも一致しており、調査地一帯には遺構が濃密に存在するものと考えられる。

出土した遺物のうち5点を図示した(第49図)。

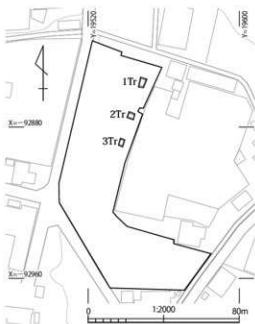
1～4は弥生土器の壺の破片である。1は口縁部、2・3は頸部下半、4は底部である。いずれも弥生時代後期の遺物である。5は須恵器の高台坏身で底部がやや突出する。8世紀後半のものと考えられる。



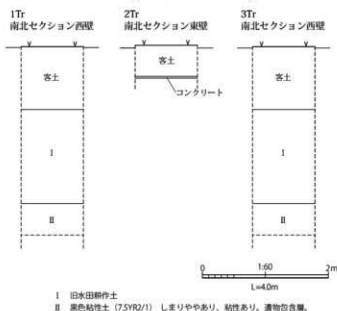
第48図 沖田遺跡第155次調査地点 位置図



第49図 沖田遺跡第155次調査地点 出土遺物実測図



第50図 沖田遺跡第155次調査地点 トレンチ配置図・セクション図



I 旧水田耕作土
II 黒色粘性土(7.5YR2/1) しまりやあり、粘性あり。遺物包含層。

第3表 沖田遺跡第155次調査地点 出土遺物観察表

押戻番号	尺番号	写真回数	出土場所	種類	類別	法量 (cm)			内面色調	外面色調	備考		
						口径	底径	高さ					
第49図1	R0001	35頁	1Tr	弥生土器	壺	-	-	(3.7)	良好	-	10YR6/4 (にぶい黄褐色)	10YR6/3 (にぶい黄褐色)	
第49図2	R0001	35頁	1Tr	弥生土器	壺	-	-	(5.0)	良好	-	10YR6/2 (灰黄褐色)	10YR7/3 (にぶい黄褐色)	
第49図3	R0001	35頁	1Tr	弥生土器	壺	-	-	(5.0)	良好	-	7.5YR6/3 (にぶい黄褐色)	7.5YR7/4 (にぶい黄褐色)	外面赤彩
第49図4	R0001	35頁	1Tr	弥生土器	壺	-	-	(1.8)	良好	-	2.5Y6/1 (黄灰)	10YR6/2 (灰黄褐色)	
第49図5	R0001	35頁	1Tr	須恵器	高台坏	-	-	(1.1)	良好	25%	2.5Y6/1 (黄灰)	2.5Y6/1 (黄灰)	

21. 天間沢遺跡 第44地区

所在地 天間1159番1外
 調査面積 12,338㎡ (対象面積 454.34㎡)
 調査期間 平成28年11月21日
 調査の原因 集合住宅建設
 調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。
 調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。



第51図 天間沢遺跡第44地区 位置図



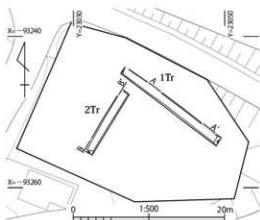
第52図 天間沢遺跡第44地区 トレンチ配置図・セクション図

22. コーカン畑遺跡 第3地区

所在地 江尾732-1
 調査面積 31,640㎡ (対象面積 481㎡)
 調査期間 平成28年11月25日
 調査の原因 個人住宅建設
 調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。
 調査の結果 敷地は大規模に削平されており、遺構・遺物は確認されなかった。



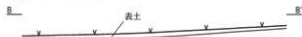
第53図 コーカン畑遺跡第3地区 位置図



1Tr 東西セクション北壁



2Tr 南北セクション西壁



I 明黄褐色 (7.5YR5/6) しまり強、粘性弱。黄色・赤色粒子多量、小礫少量。地山

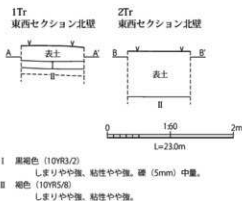
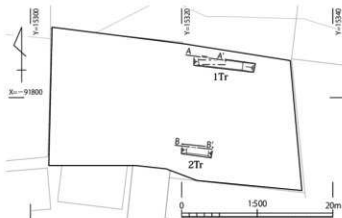
第54図 コーカン畑遺跡第3地区 トレンチ配置図・セクション図

23. 東平遺跡 第84地区

所在地 伝法2723番1の内 外
 調査面積 15,906㎡ (対象面積 554.21㎡)
 調査期間 平成28年12月14日
 調査の原因 個人住宅新築
 調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。
 調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第55図 東平遺跡第84地区 位置図



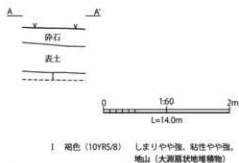
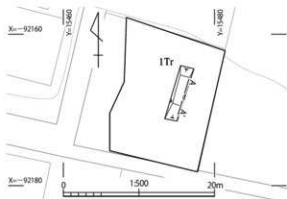
第56図 東平遺跡第84地区 トレンチ配置図・セクション図

24. 東平遺跡 第85地区

所在地 伝法3122-3
 調査面積 12,767㎡ (対象面積 281㎡)
 調査期間 平成28年12月15日
 調査の原因 個人住宅新築
 調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。
 調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第57図 東平遺跡第85地区 位置図



第58図 東平遺跡第85地区 トレンチ配置図・セクション図

25. 沖田道跡 第156次調査地点

所在地 新橋町227-1

調査面積 78.45㎡ (対象面積 2676㎡)

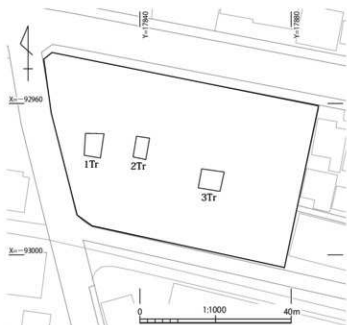
調査期間 平成28年12月19日～12月21日

調査の原因 店舗建設

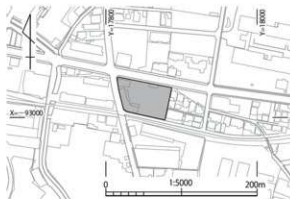
調査の概要 敷地内に3箇所のトレンチを設定し、重機による掘削後、排土中の遺物採集を行った。

調査の結果 これまでの調査成果から、敷地内での大畦畔の検出が想定されたが、軟弱な地盤と水の影響で明確な遺構を認識することはできなかった。

地表下4mにおいて弥生時代の遺物包含層が存在することが明らかとなった。弥生土器・土師器が出土したが、少量で図示にはいたらなかった。



第60図 沖田道跡第156次調査地点 トレンチ配置図・セクション図



第59図 沖田道跡第156次調査地点 位置図

26. 舟久保道跡 第59地区2次調査

所在地 今泉1958-1

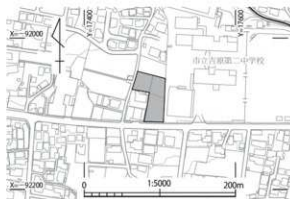
調査面積 15,037㎡ (対象面積 約1728㎡)

調査期間 平成29年1月16日～1月18日

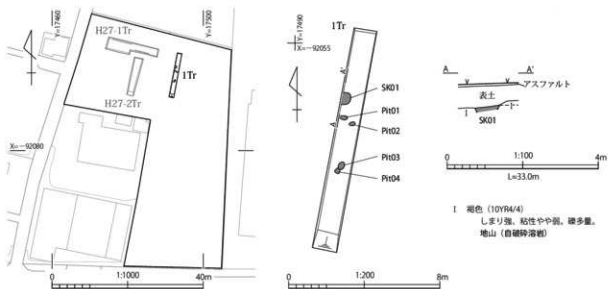
調査の原因 店舗建設

調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 土坑1基 (SK01)、ピット4基 (Pit01～04) が検出されたが、遺物は出土しなかった。



第61図 舟久保道跡第59地区 位置図



第62図 舟久保遺跡第59地区 トレンチ配置図・トレンチ平面図・セクション図

27. 舟久保遺跡 第61地区

所在地 今泉八丁目2046-1

調査面積 26.10㎡ (対象面積 約1,269㎡)

調査期間 平成29年1月24日～1月25日

調査の原因 店舗建設

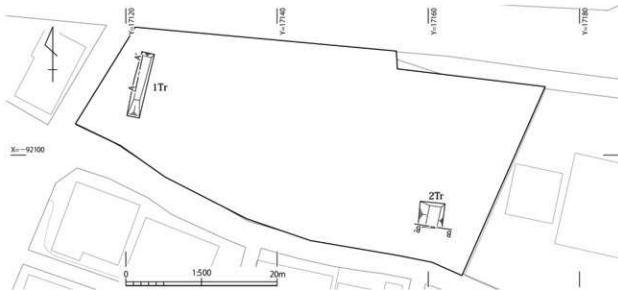
調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構、遺物とも検出されなかった。

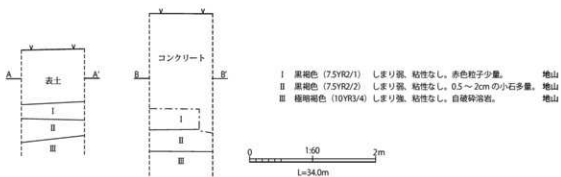
北側に位置する県立吉原高等学校における確認調査(第10地区、第17地区)の成果も合わせると、周辺には遺構は広がらないものと考えられる。



第63図 舟久保遺跡第61地区 位置図



第64図 舟久保遺跡第61地区 トレンチ配置図



第65図 舟久保遺跡第61地区 セクション図

28. 中野石切場遺跡 第3地区

所在地 南松野2482番1外

調査面積 31,670㎡ (対象面積 約660㎡)

調査期間 平成29年1月30日～1月31日

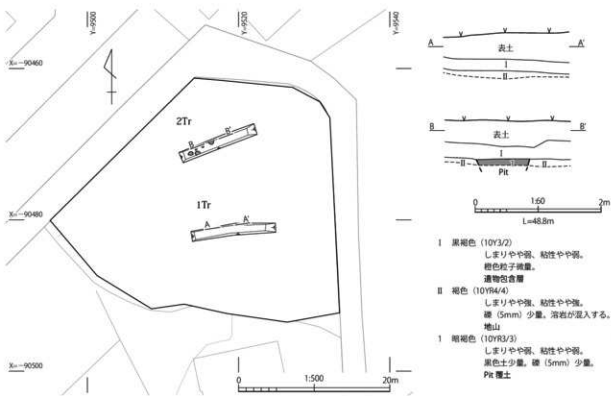
調査の原因 不動産売買

調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 敷地内には遺物包含層が良好に残存し、銅文土器とともにビッドが検出された。遺物は銅文土器・石器が出土したが図示にはいかなかった。



第66図 中野石切場遺跡第3地区 位置図



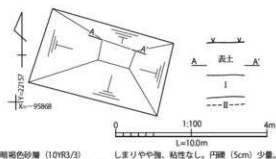
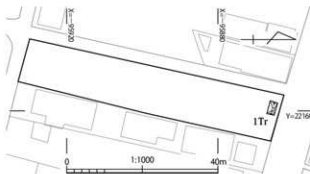
第67図 中野石切場遺跡第3地区 トレンチ配置図・セクション図

29. 柏原遺跡 第11地区

所在地 沼田新田24-1 外
 調査面積 6.874㎡ (対象面積 約827.50㎡)
 調査期間 平成29年2月1日～2月6日
 調査の原因 不動産売買
 調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。
 調査の結果 遺構、遺物とも検出されなかった。



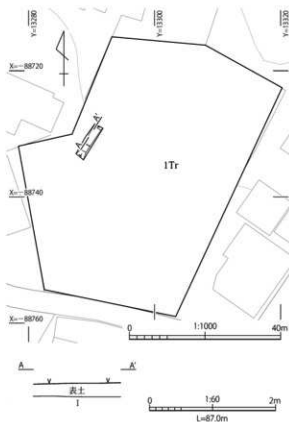
第68図 柏原遺跡第11地区 位置図



第69図 柏原遺跡第11地区 トレンチ配置図・トレンチ平面図・セクション図

30. 包蔵地外 天間代山遺跡隣接地 第4地区

所在地 天間字代山1450-6、-8、-9
 調査面積 8.154㎡ (対象面積 1107.43㎡)
 調査期間 平成29年2月22日
 調査の原因 宅地造成
 調査の概要 敷地内に1箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。
 調査の結果 遺構、遺物とも検出されなかった。



第71図 天間代山遺跡第4地区 トレンチ配置図・セクション図



第70図 天間代山遺跡第4地区 位置図

31. 舟久保遺跡 第62地区

所在地 今泉五丁目1161-1 外

調査面積 15,828㎡ (対象面積 1542.27㎡)

調査期間 平成29年2月28日

調査の原因 集合住宅及び個人住宅建設

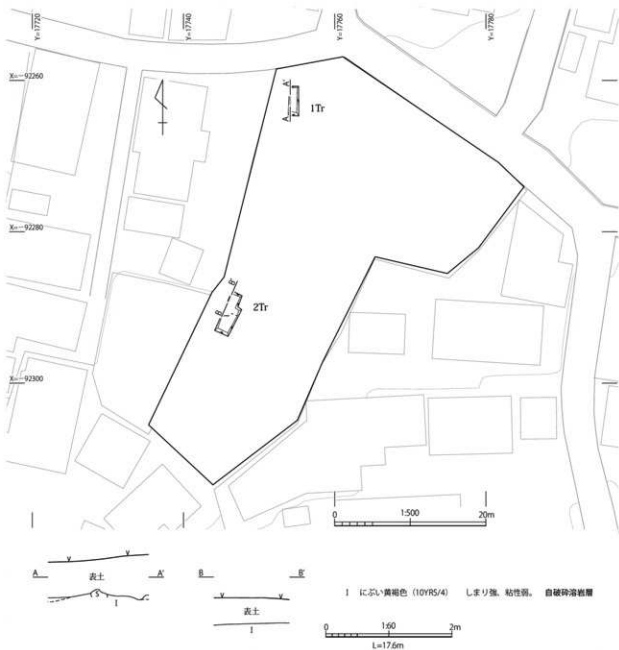
調査の概要 敷地内に2箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

調査の結果 遺構は検出されなかった。

遺物は2トレンチの掘削中から土師器1点が出土したが、図示にはいたらなかった。



第72図 舟久保遺跡第62地区 位置図



第73図 舟久保遺跡第62地区 トレンチ配置図・セクション図

32. 富士岡1古墳群 第16地区

所在地 比奈1745-1 外

調査面積 223.068㎡ (対象面積 2024.28㎡)

調査期間 平成29年3月6日～3月8日

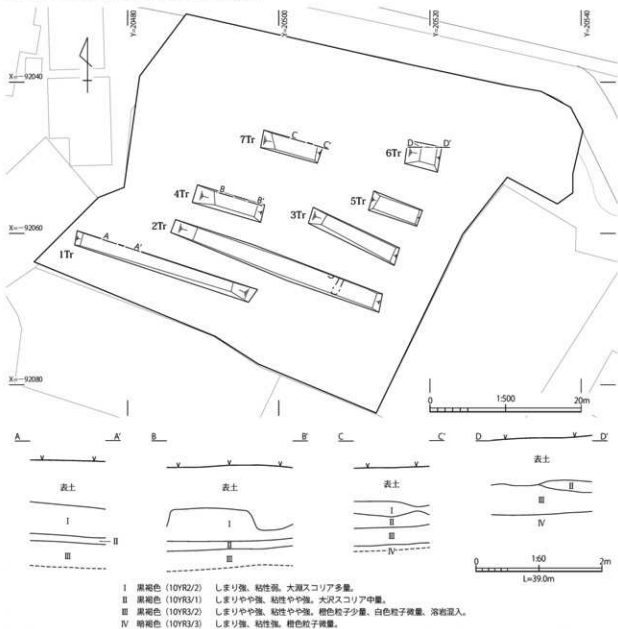
調査の理由 宅地分譲造成

調査の概要 敷地内に7箇所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見につとめた。
調査の結果 遺構は検出されなかった。1トレンチで須恵器片2点が出土したが、図示にはいらなかった。

敷地は東西両側から傾斜する谷地形上に位置し、大淵スコリア層が厚く堆積していた。そのため、地形上、古墳を築造する場所ではなかったものと考えられる。



第74図 富士岡1古墳群第16地区 位置図



第75図 富士岡1古墳群第16地区 トレンチ配置図・セクション図

1. 沖田遺跡 第154次調査地点



1. 2Tr (南より)

4. 川坂遺跡 第4地区



1. 2Tr (南西より)

2. 厚原遺跡 第7地区



1. 1Tr (南西より)

3. 東平遺跡 第79地区



1. 1Tr (北東より)



2. 1Tr セクション (東より)



2. 1Tr 南壁セクション (北東より)

5. 東平遺跡 第80地区



1. 1Tr (南東より)

7. 中原遺跡 第30地区



1. 1Tr (南西より)

6. 石坂3古墳群 第4地区



1. 1Tr (南西より)

8. 沢東A遺跡 第18次調査地点



1. 2Tr (東より)



2. 2Tr セクション CC' (南より)



3. 3Tr (南より)

9. 中島遺跡 第11地区



1. 1Tr (西より)



2. 1Tr 北壁セクション (南より)

10. 沢東B遺跡 第11地区



1. 1Tr (南より)

11. 東平遺跡 第81地区



1. 1Tr (南西より)

13. 柏原遺跡 第9地区



1. 1Tr (南西より)



2. 1Tr 東壁セクション AA' (西より)



3. 2Tr (東より)

12. 国久保遺跡 第5地区



1. 1TrSB01 (南東より)



2. 1Tr 北壁セクション AA' (南より)



3. 2TrSB02 (南東より)



4. 3Tr (西より)



1



2

3

4

出土遺物

14. 東平遺跡 第82地区



1. 1Tr (南西より)

17. 沢東A遺跡 第19次調査地点



1. 2Tr 南壁 (北より)



2. 4Tr

15. 一色2古墳群 第4地区



1. 全景 (南東より)



2. 1Tr (南東より)



3. 7Tr (南東より)



4. 12Tr (南東より)

16. 包蔵地外 厚原地先



1. 1Tr (北西より)



2. 10Tr (南より)



3. 23Tr (北より)



4. 31Tr (北より)

18. 柏原遺跡 第10地区



1. 1Tr, 2Trと庚申塚古墳 (南より)



2. 2Tr (北西より)



3. 3Tr (北東より)



4. 4Tr (南東より)

19. 天間沢遺跡 第43地区



1. 1Tr (西より)



2. 1Tr 北壁セクション (南より)

20. 神田遺跡 第155次調査地点



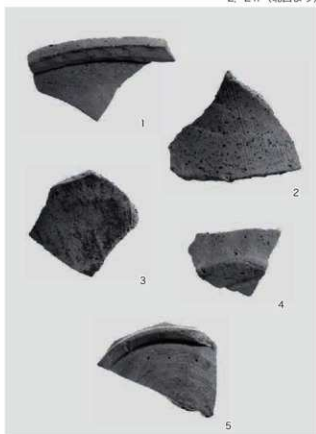
1. 重機掘削の様子



2. 2Tr (北西より)



3. 3Tr 西壁セクション (東より)



出土遺物

21. 天間沢遺跡 第44地区



1. 1Tr (南西より)



2. 1Tr 東壁 (西より)

22. コーカン畑遺跡 第3地区



1. 1Tr (東より)



2. 2Tr (北東より)

23. 東平遺跡 第84地区



1. 1Tr (南西より)



2. 2Tr (南西より)

24. 東平遺跡 第85地区



1. 1Tr (南西より)

25. 神田遺跡 第156次調査地点



1. 2Tr北壁(南より)

26. 舟久保遺跡 第59地区



1. 1Tr(南西より)



2. 1Tr西壁セクション(東より)

28. 中野石切場遺跡 第3地区



1. 2Tr(南西より)



2. 1Tr(東より)



3. 2Tr北壁セクション(南より)

27. 舟久保遺跡 第61地区



1. 1Tr (南より)



2. 1Tr西壁セクション(東より)

29. 柏原遺跡 第11地区



1. 1Tr (西より)

30. 天間代山遺跡 第4地区



1. 1Tr (南東より)

31. 舟久保遺跡 第62地区



1. 1Tr (南東より)



2. 2Tr (南東より)

32. 富士岡1古墳群 第16地区



1. 4Tr (南西より)



2. 7Tr (南西より)

第2章 中吉原宿遺跡第10地区の調査

第1節 中吉原宿遺跡の概要

現在、富士市の中心市街地の一つである吉原は、東海道原宿と蒲原宿の間に位置し、東海道14番目の宿場として栄えた。しかし、その場所は、台風と高潮による被害を絶えず受けて、元吉原宿、中吉原宿、新吉原宿と、およそ40年ごとに転移してきた。

元吉原宿自体も、田子の浦港東側の「阿字神社」北側にあった「見附」の宿が、風波の被害を受けて今井と呼ばれる場所に作られ、慶長6年(1601)に徳川幕府から東海道の宿場に指定された場所である。しかし、砂丘上に立地するため、砂山が駅舎を埋めてしまい、寛永16～17年(1639～1640)にかけて中吉原宿に所替をした。中吉原宿は元吉原宿から依田原村、左富士をすぎた場所に当たる。しかし、これまでよりも内陸に移動

したものの安定した宿場経営をすることが出来ず、延宝8年(1680)閏8月6日に襲来した江戸時代最大級の台風による高潮の被害を受け壊滅した。

平成11年の中吉原宿跡における発掘調査では、延宝8年に近い年代を示す遺物は見られなかったものの、17世紀中葉における良好な廃棄資料を得ることができ、土層検討からも高潮の存在を考古学的に証明する事が出来た(富士市教育委員会2002)。

天和元年(1681)、吉原宿は現在の場所(新吉原宿跡)に所替され、現在まで続いている。しかし、その後、高潮などの被害に全くあわなかったわけではなく、元禄12年(1699)にも町の一部が浸水被害を受けている。



第76図 中吉原宿遺跡 調査履歴図

第4表 中吉原宿遺跡 調査履歴一覧表

調査年度	地区・区	調査種別	調査の経緯	調査期間	時代	遺構	遺物	備考
1804	1地区	試掘	八代町63-1 倉庫建設	19930306	なし	なし	なし	
1806	2地区	試掘	八代町28-外 倉庫・事務所建設	19940812	なし	なし	なし	
1808	3地区	試掘	伝説3691-46 井 工場建設	19940920～19940922	なし	なし	なし	
1811	4地区	試掘	八代町64 事務所・倉庫建設	19990827	なし	なし	なし	A
1811	5地区	試掘	伝説3872-2 井 事務所・倉庫建設	19990903～19990925	近世	溝状遺構・土坑状遺構	陶磁器、土製品・金銅製品	B
1812	6地区	試掘	伝説3752-3 井 事務所建設	20001221～20001222	なし	なし	なし	C
1824	7地区	試掘	八代町185-1 6内 表音倉庫建設	20121206～20121207	なし	なし	なし	D
1826	8地区	確認	八代町212-2 外 防災施設等整備	20140512～20140515	近世	なし	陶磁・銅類	E
1826	9地区	確認	八代町12 事務所建設	20140529	なし	なし	なし	E
1828	10地区	確認	八代町204-2 外 事務所建設	20160425～20160428	江戸	溝列・ドット・性格不明遺構	陶磁器	F

報告書 A 「富士市内遺跡発掘調査報告書 平成11・12年度」- 富士市埋蔵文化財調査報告 第53集 (2012)

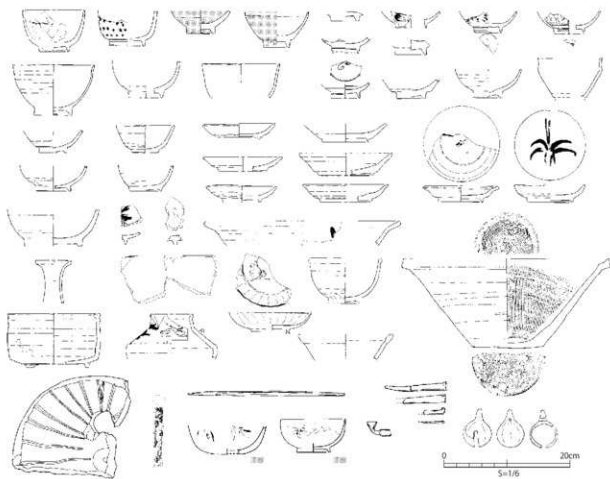
B 「中吉原宿跡 第3地区(中継建設)発掘調査報告書」(2002) D 「富士市内遺跡発掘調査報告書 平成24・25年度」- 富士市埋蔵文化財調査報告 第57集 (2015)

C 「平成21年度 富士市内遺跡発掘調査報告書」(2011)

E 「富士市内遺跡発掘調査報告書 平成26・27年度」- 富士市埋蔵文化財調査報告 第60集 (2017)



第77図 吉原駅の変遷図



第78図 中吉原街道跡第5地区 出土遺物

第2節 中吉原宿遺跡第10地区の調査成果

1. 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

株式会社東邦エステート（以下、事業者）は、富士市八代町 204-2 外 11 筆（対象面積 6404.76㎡）の不動産売買を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「中吉原宿遺跡」に該当することから、埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

平成 28 年 4 月 13 日、事業者は市教育委員会教育長宛（文化振興課）に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」・「発掘調査承諾書」を提出し、これを受け、4 月 25 日から文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

(2) 確認調査

確認調査は平成 28 年 4 月 25 日から 28 日にかけて行った。調査地内にトレンチを 9 箇所（409.602㎡）設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、延宝八年（1680）に台風による高潮（断面図 II a 層）の被害を受け壊滅した吉原宿に伴うと考えられる遺構・遺物を検出した。遺物は、陶器がコンテナ 1 箱分出土し、5 月 2 日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第 127 号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富市文発第 127-2 号）を提出した。これは、5 月 13 日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第 300 号）。

5 月 16 日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第 166 号）を提出した。また、事業者と、埋蔵文化財の保護に対する対応についての協議を開始した。

平成 29 年 3 月 30 日、イデシゴロー株式会社 代表取締役井出芳則より文化財保護法第 93 条に基づき「埋蔵文化財発掘の届出」が提出され、市教育長は 4 月 7 日、これを県教育長に進達した（富市文発第 20 号）。4 月 24 日、県教育長は、埋蔵文化財確認面と工事掘削面との間に 30 センチメートルの保護層が確保され、かつ、工事により埋蔵文化財が破壊されない場合、工事対象区域が狭小な場合に該当すると判断し、工事立会い実施を指示した（教文第 177 号）。

2. 調査成果

(1) トレンチ調査成果

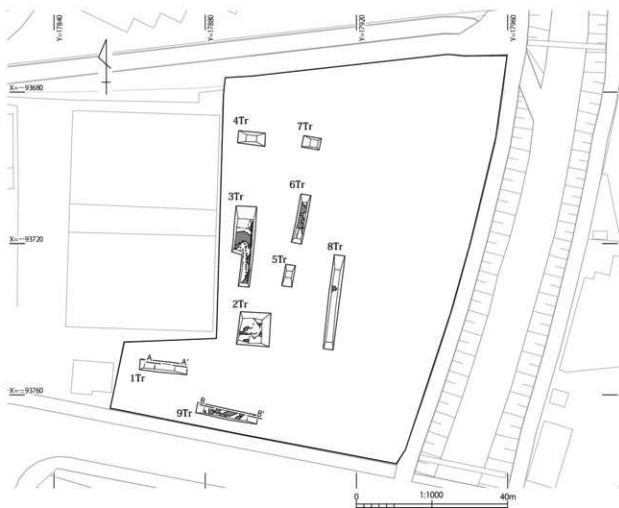
対象地において包蔵地の範囲と考えられているのは敷地南西部である。また、北東部分には工場解体時のコンクリートが集積されていたため、敷地南西部を対象に 9 箇所のトレンチを設定し、掘削を行った。その結果、標高 2m 付近において、吉原宿に伴うと考えられる遺構・遺物を検出した。敷地北側部分の 4Tr と 7Tr 周辺では遺構・遺物が認められないことから、敷地北側は宿場の範囲からは外れることが明らかとなった。

2Tr では視乱で一部が壊されているものの、明確な遺構プランを検出した。この SX01 からは 17 世紀の陶磁器が共存している。また、検出面からは同時期の遺物がまともに出土している（第 83 図-1～3）。また、検出面の上層は I c 層とした水田耕作土に覆われている。

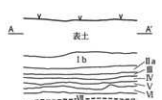
一方、3Tr では、II a 層とした円礫を含む暗灰黄色砂質土層（2.5Y4/2）に覆われるように遺構を検出した。その層は、海由来と考えられる円礫を含むこと、砂層であることなどから、延宝八年（1680）閏 8 月 6 日に襲来した高潮の痕跡の可能性を考えている。検出された遺構（SX05～SX08）はいずれも不整形ではあるものの掘りこみは明確であり、また、17 世紀の陶磁器も共存することから、吉原宿の遺構であることは間違いない。今後、宿場のどの部分に該当するのか明らかにする必要があろう。



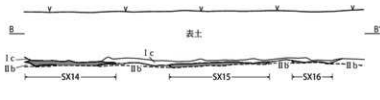
第 79 図 中吉原宿遺跡第 10 地区 位置図



1Tr 東西セクション北壁



9Tr 東西セクション北壁

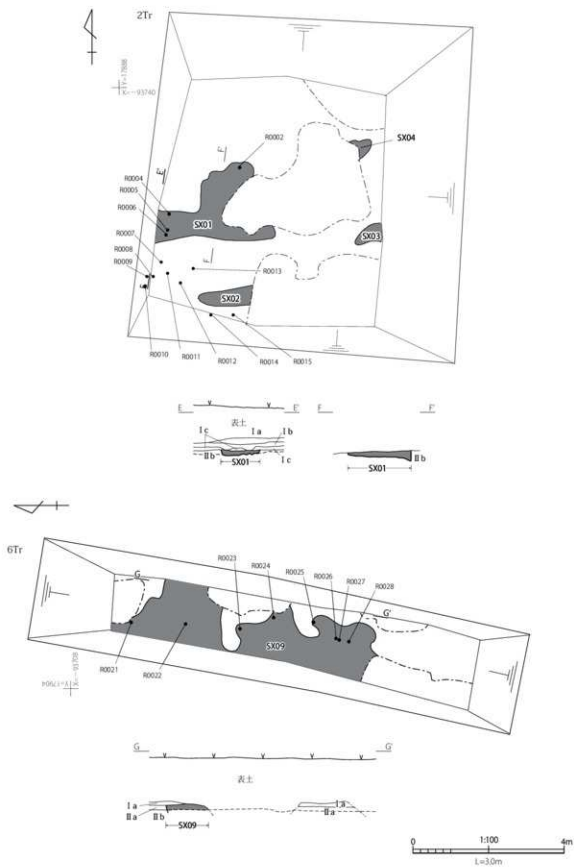


- | | | |
|-----|--------------------|-------------------------------------|
| 0a | 褐色砂礫層 (10YR6/1) | しまり弱、粘性弱、円礫 (3~5cm) 多量。 |
| 0b | 灰黄褐色土層 (10YR4/2) | しまりやや強、粘性やや強、礫 (5~10mm) 少量。 |
| 1a | 暗褐色土層 (10YR3/4) | しまりやや強、粘性やや強、礫 (5mm) 微量。酸化鉄分少量。 |
| 1b | 黒褐色土層 (10YR2/3) | しまりやや強、粘性やや強、礫 (5mm) 微量。酸化鉄分少量。 |
| 1c | 黒褐色土層 (7.5YR3/2) | しまりやや強、粘性やや強、礫 (5mm) 微量。酸化鉄分少量。 |
| IIa | 暗灰色砂質土層 (2.5Y4/2) | しまりやや強、粘性やや強、円礫 (5~10mm) 少量。酸化鉄分少量。 |
| IIb | 褐色砂質土層 (10YR4/4) | しまりやや強、粘性やや強、円礫 (5~10mm) 微量。金雲母少量。 |
| III | 黄灰色砂層 (2.5Y5/1) | しまりやや弱、粘性弱、円礫 (5~10mm) 微量。酸化鉄分中量。 |
| IV | 黄灰色砂質土層 (2.5Y5/1) | しまりやや弱、粘性弱、酸化鉄分中量。金雲母中量。 |
| V | 灰黄褐色砂層 (10YR5/2) | しまり弱、粘性弱。酸化鉄分少量。金雲母中量。 |
| VI | 灰黄褐色粘質土層 (10YR4/2) | しまりやや弱、粘性強。酸化鉄分中量。 |
| VII | 青灰色粘土層 (5B5/1) | しまりやや弱、粘性強。円礫 (5~10mm) 微量。 |

水田耕作土

高潮による堆積層の可能性
近世遺物包査層

第80図 トレンチ配置図・セクション図



第81図 2トレンチ・6トレンチ 平面図・セクション図

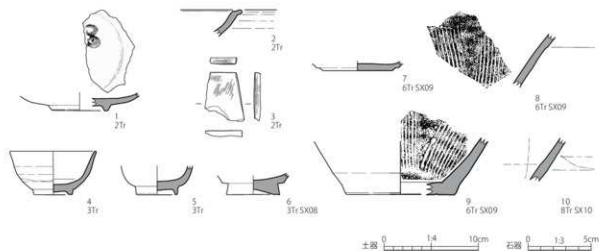
また、木枕が列状に検出されたが (SA01)、これは吉原宿に伴うものなのか、調査前にあった製紙場の機械が沈まないようにする改良工事によるものなのか、判断できなかったが、後者の可能性が高い。

(2) 出土遺物

陶磁器を中心に 104 点の遺物が得られた。内訳は陶磁器 98 点、土器 4 点、石器 1 点で、胎質・器種不明の焼物が 1 点である。このうち 10 点を図示した。

1 は肥前系の初期伊万里の皿である。幅広の椀付で砂目積みの痕跡がみられ、高台断面は逆台形を呈する。時期は東大福年 II 期の 1630～1640 年代にあたる。2 は瀬戸美濃系の鉢で、内外面ともに灰釉が施軸されている。17 世紀後半に位置づけられるものである。3 は砥石の端部で、使用中か破棄後に欠損したものとみられる。砥面は表面、右側面、上面の 3 面で、裏面は未使用面となっている。4 は瀬戸美濃系の碗である。外面は口縁から胴下半部にかけて、内面は全面的に鉄軸が施されている。17 世紀前葉～中葉の所産であろう。5 は肥前系

の磁器碗で、底部の器厚は厚く、高台は断面が U 字に近い逆三角形を呈している。胴部表面には絵付けが施してあったとみられる。時期は東大福年の III a 期にあたり、年代は 1650 年～1660 年代と考えられる。6 は瀬戸美濃産の天目茶碗の底部で、内面は鉄軸を施軸している。16 世紀後葉の所産とみられる。7 は瀬戸美濃の志野皿である。底部は脇を削って段を形成しており、明確な高台は設けられていない。内面には志野軸が施軸され、外面は一部底面まで釉葉が及ぶが、無軸部分もみられる。帰属時期は 17 世紀前葉である。8～10 は瀬戸美濃系の磁鉢である。8 は胴部で、内外面に鉄軸を施す。刷り目の単位は 10 条みられる。9 は胴下半部から底部で、内外面に鉄軸が施されるが、外面はまだらに施軸され、底面にも軸が及んでいる。刷り目は 10 条で 1 単位をなし、見込み部分にも刷り目がみられる。8、9 はともに 17 世紀後半に位置づけられるものである。10 は胴部片であるが、内面に刷り目はみられない。内外面に鉄軸の施軸がまだらにみられる。16 世紀～17 世紀前半の所産である。



第 83 図 出土遺物実測図

第 5 表 出土遺物観察表

調査番号	R 番号	遺物名/トレンチ	層位	時代	産地	器種	胎質	備考
第 83 図 1	R0008	ZTr	II 層上面	1630-40 年代	肥前	皿	磁器	初期伊万里
第 83 図 2	R0001-13	ZTr	一括	17 世紀後半	瀬戸・美濃	鉢	陶器	
第 83 図 3	R0007	ZTr	II 層上面	不明	不明	砥石	石器	
第 83 図 4	R0019-1	3Tr	一括	17 世紀前・中葉	瀬戸・美濃	碗	陶器	
第 83 図 5	R0019-17	3Tr	一括	1650-60 年代	肥前	碗	磁器	
第 83 図 6	R0016	SX08 3Tr		16 世紀後葉	瀬戸・美濃	碗	陶器	天目茶碗
第 83 図 7	R0025	SX09 6Tr		17 世紀前葉	瀬戸・美濃	志野皿	陶器	
第 83 図 8	R0028	SX09 6Tr		17 世紀後半	瀬戸・美濃	磁鉢	陶器	
第 83 図 9	R0021-1	SX09 6Tr		17 世紀後半	瀬戸・美濃	磁鉢	陶器	
第 83 図 10	R0029	SX10 8Tr		16 世紀-17 世紀後半	瀬戸・美濃	磁鉢	陶器	

(3) 出土遺物の組成分析

今回の調査で出土した陶磁器 98 点のうち、磁器は 25 点、陶器は 73 点にのぼり、陶器の出土量が磁器を圧倒的に上回る。これに対し、土器は僅か 4 点に留まり、出土遺物全体でみると 4% に満たない。こうした在り方は、平成 11 年におこなった中吉原宿遺跡第 5 地区確認調査（平成 14 年報告）で出土した陶磁器の傾向と近似している。すなわち陶器の割合が磁器を上回ること、なかでも瀬戸美濃系の陶器が圧倒的に多いこと、土器がきわめて少ないことなどは本遺跡の普遍的な特徴といえる。

産地を見ると、磁器はすべて肥前系であり、陶器は肥前系、瀬戸美濃系、志戸呂系、常滑系、丹波系からなる。なかでも瀬戸美濃系陶器は 51 点に及び、陶器全体の 70% を占める。次いで肥前系陶器と常滑系陶器が同量得られ、志戸呂系陶器、丹波系陶器と続く。なお、中吉原宿遺跡平成 14 年度報告では、備前系の陶器も出土している。

器種の内訳は、碗、皿、瓶、小坏、仏花器、播鉢、鉢、香炉、甕、火鉢である。このうち皿、碗などの食膳具や鉢、甕といった調理具や貯蔵具などの日常生活用具が大半を占め、全体の約 8 割がこれにあたる。本遺跡が宿場町であることを鑑みると、この結果は妥当なものであるといえる。肥前系のは磁器・陶器ともに碗が多く、特に磁器碗は磁器全体の半数以上にのぼる。一方、瀬戸美濃系陶器は志野 10 点を含む 21 点が皿であり、碗 10 点を上回る結果となった。常滑系陶器は出土した 7 点すべてが甕である。播鉢は瀬戸美濃系 9 点、志戸呂系 1 点、丹波系 3 点が確認されているが、本器種の産地がこの三地域に依っている点や数量の割合なども、平成 11 年度調査と同じ傾向にあるといえる。また、香炉や仏花器などの仏具が一定量得られることも、ひとつの特徴となる。

以上のように、中吉原宿遺跡第 10 地区確認調査の出土遺物の傾向について分析を行った。本遺跡の遺物はいまだ十分な量を得られていないのが現状であるが、これまでの傾向から、遺跡の性格をあらわす結果が得られていることはひとつの成果であるといえる。今後の調査による資料の増加が待たれるところである。

第 6 表 出土遺物組成表

材質	生産地	器種	器用名	個体数		
磁器	肥前	碗	初期伊万里	15		
			その他	1		
			その他	5		
			小坏	2		
			小坏	1		
			不明	1		
			磁器合計	25		
陶器	肥前	碗	大目	4		
			その他	2		
			仏花器	1		
			肥前合計	7		
			瀬戸・美濃	碗	天目	2
					志野	1
					その他	7
	志野	10				
	その他	11				
	播鉢	9				
	鉢	2				
	香炉	5				
	不明	4				
	瀬戸美濃合計	51				
	志戸呂	播鉢			大目	1
					香炉	1
					甕	1
					瓶	1
					志戸呂合計	4
	常滑	甕			大目	7
			播鉢	3		
			不明	1		
			不明	1		
土器		大鉢	1			
		不明	3			
		土器合計	4			
他物		不明	1			
		磁石	1			
近世遺物合計				104		

第2節 舟久保遺跡第58地区の調査成果

1. 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

ダイチ株式会社（以下、事業者）は富士市今泉6丁目1634-1外5筆（817m²）において、宅地分譲工事を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「舟久保遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

当該地の北に位置する舟久保遺跡第4次地区では、スポーツプラザ建設工事に伴って昭和61年に行われた本発掘調査で、奈良・平安時代の竪穴建物跡が5軒検出・調査されている。そのため、当該地においても遺構・遺物が残存している可能性があることから、工事に先立って確認調査を実施する必要があることを事業者に伝えた。

平成27年10月26日、事業者から「発掘調査承諾書」「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。

これを受けて文化振興課は、11月17日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第814号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

(2) 確認調査

【第1次調査】確認調査は平成27年11月24日から27日にかけて行った。調査では、焼土を含む黒色土の堆積が認められたものの造成土が厚く地山まで確認することができなかった（富士市教育委員会2017）。

【第2次調査】第1次調査では耕作の関係から敷地南側の確認調査を実施することができず、改めて確認調査を実施することとなった。そのため、平成28年1月13日、事業者から「発掘調査承諾書」「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が市教育長宛に提出された。これを受けて文化振興課は、2月10日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第814号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとな



第85図 舟久保遺跡第58地区 位置図

た。確認調査は平成28年2月15日から18日にかけて行った。なお、確認調査は第4地区2次調査及び第60地区2次調査も兼ねている。

第58地区では 調査地内に新たにトレンチを3本（56.8m）設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、奈良・平安時代のものとみられる土坑・ピットを検出した。遺物は、土師器や須恵器、灰輪陶器がコンテナ1箱分出土し、2月19日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第965号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富市文発第965-2号）を提出した。これは、2月26日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1787号）。なお、60地区に設定した1Trからは縄文土器1点が出土したものの遺構は確認されなかった。

3月9日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第1056号）を提出した。また、事業者と、埋蔵文化財の保護に対する対応についての協議を開始した。

(3) 本発掘調査

平成28年5月6日、県教育委員会から、遺跡の保護が図れない部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知された(教文第238号)。これを受けて、事業者と文化振興課は協議を行い、事業者からの委託により市教育委員会が本発掘調査を実施することとなった。

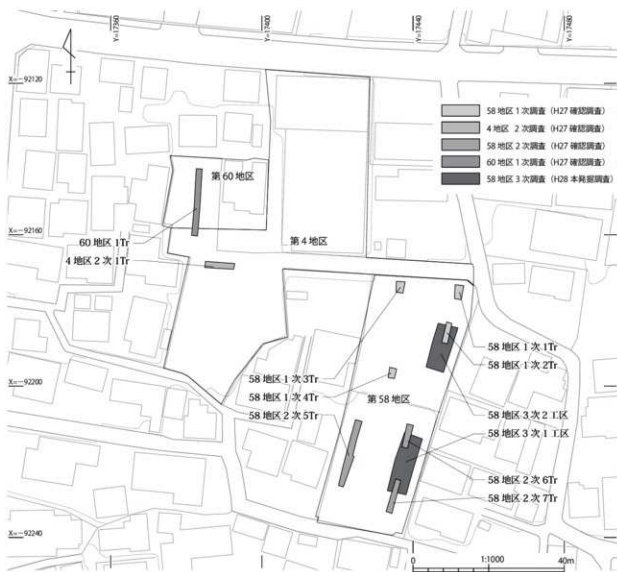
5月18日、事業者から「埋蔵文化財本発掘調査依頼書」「発掘調査承諾書」が市教育長宛に提出された。5月23日、事業者と富士市長、市教育長の3者間で文化財調査に関する協定が締結され、これに基づいて、事業者と富士市長の2者間で発掘作業に関わる業務委託契約が締結された。5月27日、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を県教育長に提出し(富市文発第211号)、文化振興課職員による記録保存のための本発掘

調査を実施することとなった。

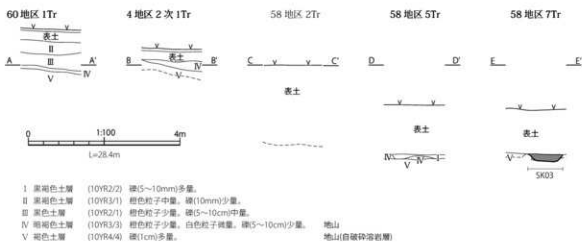
調査は平成28年6月6日から7月1日にかけて行った。

まず、工事計画に基づき、2ヶ所の調査工区(1工区～2工区、総面積146㎡)を設定し、調査を行った。その結果、1工区で4軒(SB3001～SB3004)の竪穴建物跡や、土坑、溝状遺構などを完掘し、測量・写真撮影・観察等による記録保存を行った。2工区では、造成土が2.5m存在し、一部地山を確認したものの遺構・遺物は確認されなかった。

本発掘調査では、コンテナ3箱分の土師器・須恵器が出土し、7月26日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富市文発第352号)を、県教育長宛に「埋蔵文化



第86図 確認調査トレンチ及び本調査工区配置図



第87図 確認調査トレンチ平面図・セクション図

財保管証」(富市文発第352-2号)を提出した。これは、7月14日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第709号)。

平成28年7月5日、事業者に対し、発掘作業に関わる業務の完了報告を行い(富市文発第354号)、7月12日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第381号)を提出した。その後、業務委託金の精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。

(4) 整理作業

現地調査の終了後、平成29年4月5日、事業者と富士市長の2者間で整理作業に関わる業務委託契約が締結され、調査記録および出土遺物の整理作業が開始された。遺構測量図面の整理・編集、遺物の洗浄・注記・接合・復元・実測・写真撮影、文章執筆などの作業をすすめ、これらを編集して報告書を作成した。

平成29年8月31日、舟久保遺跡第58地区3次調査の埋蔵文化財発掘調査に関わる一連の作業は、本書の刊行をもって終了した。

本書にて報告する図面・発掘記録・出土遺物等の資料は、すべて市教育委員会にて保管している。

(5) 調査の体制

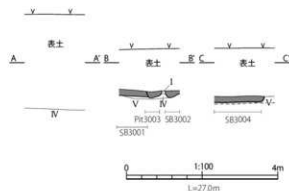
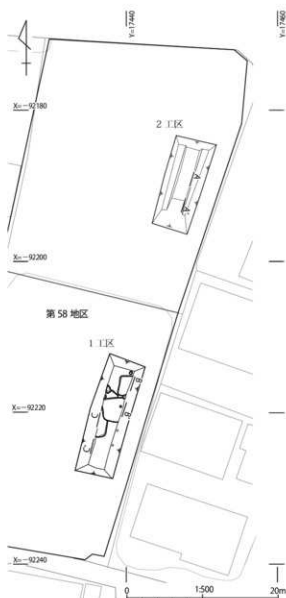
舟久保遺跡第58地区3次調査に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

(調査主体)

富士市教育委員会 教育長 山田 幸男

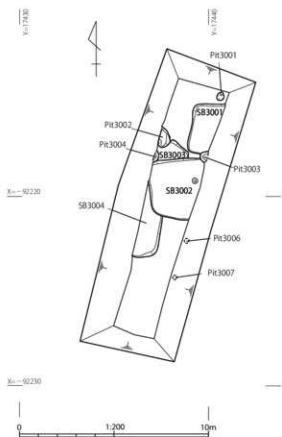
(調査担当)

市民部	部長	加納 孝則(平成28年度)
		高野 浩一(平成29年度)
文化振興課	課長	町田しげ美(平成28年度)
		久保田伸彦(平成29年度)
文化財担当	統括主幹	久保田伸彦(平成28年度)
		植松 良夫(平成29年度)
	主幹	石川 武男
埋蔵文化財調査室	主査	佐藤 祐樹
	主事補	伊藤 愛(平成29年度)
	臨時職員	服部 孝信
		小島 利史
		若林 美希

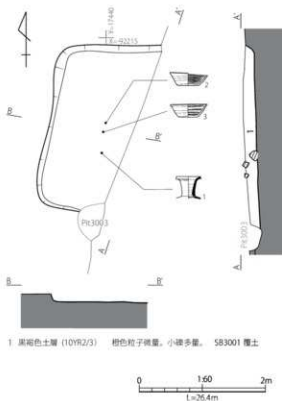


- I 黒褐色土層 (10YR2/2) 礫5~10mm)多量。
 IV 暗褐色土層 (10YR3/3) 橙色粒子少量、白色粒子微量。地山
 礫5~10cm)少量。
 V 褐色土層 (10YR4/4) 礫(1cm)多量。地山(自破砕溶岩層)

第88図 本調査全体図・セクション図



第89図 1工区全体図



第90図 SB3001

2. 調査の成果

本発掘調査では、工事計画に基づき、2ヶ所の調査工区(1工区～2工区、総面積146m)を設定し、調査を行った。その結果、1工区で4軒(SB3001～SB3004)の竪穴建物跡や6基のピットなどを完掘した。

竪穴建物跡

SB3001

重複関係 (古) SB3001 → Pit3003 (新)

主軸方位 N-11°-E

残存状況 南端をPit3003に切られ、東側は調査区外のため、建物跡の一部を検出したのみである。主軸幅(南北)2.65m、直交幅(東西)1.3m(残存)を測り、平面形は隅丸方形を呈する。検出面からの深さは20cmである。

覆土 橙色粒子を微量に含む黒褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されない。

柱穴 検出されない。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されない。

出土遺物 3点図示した(第91図-1～3)。1は長頸壺の頸部から口縁部である。口径は小さく、頸部も短い。頸部から口縁部に移行する部分で明確に屈曲する。口縁部はあまり揃い上げない。2、3は鞍車型坏である。いずれも底径が小型化傾向にある段階のものである。内面は横方向のヘラミガキが施される。

所見(時期) 出土遺物より9世紀後半の竪穴建物跡と考えられる。

SB3002

重複関係 (古) SB3003 → SB3004

→ SB3002 → Pit3003・3004 (新)

主軸方位 N-3°-W

残存状況 北西コーナーおよび東側は調査区外のもの、全形を推定することができる。主軸幅(南北)3.25m、直交幅(東西)2.95m(残存)を測り、平面形は隅丸方形を呈する。検出面からの深さは15cmである。

覆土 橙色粒子を少量含む黒褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されない。

柱穴 2基検出(SB2002Pit01は調査区壁面からの検出)

床 掘り方を床面とする。SB3002の床面よりも

SB3003の床面のほうが低いため、SB3002の床面下にSB3003の覆土が検出された。

カマド 明確な燃焼施設は検出されなかったものの、北側やや東側において焼土の広がりが見られ遺物もまわって出土したため、本来北側にカマドが存在した可能性が高い。

出土遺物 5点図示した(第93図-1~5)。1は駿東型長胴甕の口縁部片、2は小型甕である。口唇部内面を

若干摘み上げている。内面調整はハケ目調整である。3は皿と考えられる。底径、口径ともに大きく高さはない。底部は糸切り後ヘラケズリを施している。4は駿東型坏である。底面に「中」の墨書が認められる。5は尖根三角形の鉄鍬である。刃部が片丸造りである。

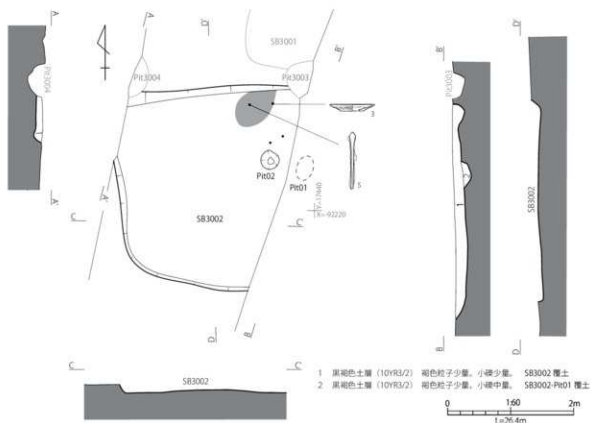
所見(時期) 時期の分かる明確な出土遺物に乏しいが、10世紀頃の聚穴建物跡と考えられる。



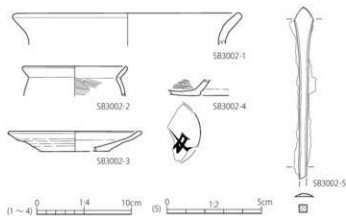
第91図 SB3001出土遺物実測図

第7表 SB3001 出土遺物観察表

神田番号	R番号	写真 図版	出土場所	種類	組別	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調
						口径	底径	淵高				
SB3001-1	0030	PL.13	SB3001	須志甕	甕	7.7	-	(7.7)	良好	90%	2.5Y4/2 (暗灰黄)	2.5Y5/2 (暗灰黄)
SB3001-2	0022 0028	PL.13	SB3001	土師器	坏	11.8	6.6	3.9	良好	90%	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)
SB3001-3	0029 0041	PL.13	SB3001	土師器	坏	11.5	5.4	4.1	良好	90%	2.5YR4/3 (にお・赤褐)	2.5YR4/3 (にお・赤褐)



第92図 SB3002

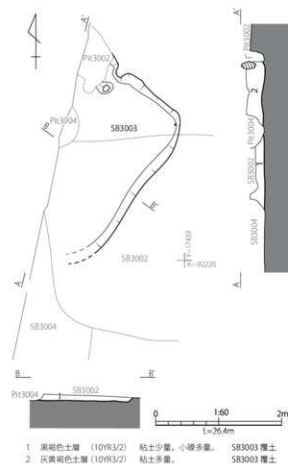


第93図 SB3002出土物実測図

第8表 SB3002 出土物観察表

神図番号	R番号	写真 図版	出土場所	種類	説明	法量 (cm)		焼成	残存 率	内面色調	外面色調
						口径	胴径				
SB3002-1	0023	-	SB3002	土師器	甕	(23.4)	(3.5)	良好	25%	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)
SB3002-2	0050	-	SB3002	土師器	甕	(10.8)	(3.2)	良好	20%	5YR4/3 (にぶい赤褐)	5YR5/4 (にぶい赤褐)
SB3002-3	0032	PL.13	SB3002	土師器	坏	(13.6)	(7.0)	良好	25%	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)
SB3002-4	0023	PL.13	SB3002	土師器	坏 (指書)	-	(1.7)	良好	-	2.5YR6/6 (粉)	5YR5/6 (明赤褐)

神図番号	R番号	写真 図版	出土場所	種類	説明	法量 (cm)						重量 (g)	
						長さ	胴身部長	胴身部幅	胴身部厚	頸部長	頸部幅		頸部厚
SB3002-5	0031	PL.13	SB3002	鉄製品	鉄鏃 (尖根型箭式)	(9.00)	(0.65)	(0.9)	(0.15)	(8.35)	(0.4)	(0.4)	10.30



第94図 SB3003

- 1 黒褐色土層 (10YR3/2) 粘土少量、小礫多量。 SB3003 覆土
- 2 灰黄褐色土層 (10YR3/2) 粘土多量。 SB3003 覆土

SB3003

重複関係 (古) SB3003 → SB3004 (新)

主軸方位 N - 38° - E

残存状況 建物跡の西側は調査区外で、北壁および東壁の一部を検出した。主軸幅(南北)3.2m、直交幅(東西)1.5m(残存)を測り、平面形は隅丸方形を呈する。検出面からの深さは25cmである。

覆土 小礫を多量に含む黒褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されない。

柱穴 検出されない。

床 掘り方を床面とする。SB3002の床面よりもSB3003の床面のほうが低いため、SB3002の床面下にSB3003の覆土が検出された。

カマド 北壁において検出したため、西半分は調査区外であった。検出時は粘土が広く認められたものの粘土中に黒色土が多く混ざることや土器片を多く含むことから、それらを除去した結果、右袖の一部が残存するのみであった。加えて燃焼室はPit3002により破壊されていた。

出土遺物 3点図示した(第96図-1~3)。1、2は戦東型長胴甕の口縁部である。いずれも口縁部が胴部よりも厚く若干反する。外面は細かなハケ目調整の後、口縁部ヨコナデを施す。3は小型甕である。外面はナデ調整、内面はヨコナデが施される。

所見(時期) 時期の分かる明確な出土遺物に乏しいが、9世紀前半頃の竪穴建物跡と考えられる。

SB3004

重複関係(古) SB3003 → SB3004

→ SB3002(新)

主軸方位 N-8°-E

残存状況 建物跡の西側は調査区外で、北側はSB3002に切られているため、南東コーナーの一部を検出したのみである。主軸幅(南北)3.2m(残存)、直交幅(東西)1.3m(残存)を測り、平面形は隅丸方形を呈する。検出面からの深さは15cmである。

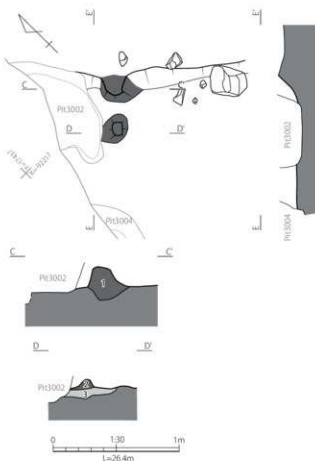
覆土 褐色粒子を少量含む黒褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されない。

柱穴 検出されない。

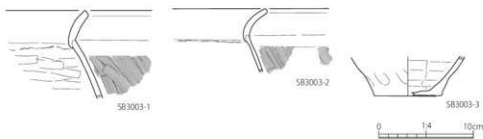
床 掘り方を床面とする。SB3002の床面よりもSB3004の床面のほうが低いため、SB3002の床面にSB3004の覆土が検出された。

カマド 明確な燃焼施設は検出されなかったものの、東側において粘土の広がりが見られ遺物もまとまって出土したため、本来東側にカマドが存在した可能性が高い。



- 1 にぶい黄褐色粘土層 (10YR7/4) 褐色粒子少量。
- 2 にぶい黄褐色粘土層 (10YR5/4) 褐色粒子少量。黒色土少量。
- 3 褐色土層 (10YR4/4) 褐色粒子少量。粘土中量。小礫少量。以上、3003カマド掘方

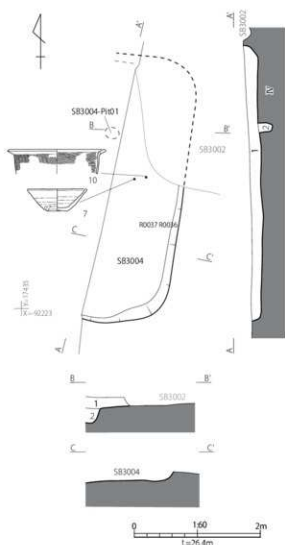
第95図 SB3003カマド



第96図 SB3003出土遺物実測図

第9表 SB3003 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	出土場所	種類	形状	法量 (cm)				形状	残存 率	内面色調	外面色調
						口径	口径	高さ	その他				
SB3003-1	0011 0024	PL.13	SB3003	土師器	甕	-	-	(9.3)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐)	5YR5/4 (にぶい赤褐)
SB3003-2	0012 0046	PL.13	SB3003	土師器	甕	-	-	(6.7)		良好	-	5YR4/4 (にぶい赤褐)	5YR5/6 (明赤褐)
SB3003-3	0046	PL.13	SB3003	土師器	甕	-	7.1	(4.2)		良好	40%	5YR5/4 (にぶい赤褐)	5YR5/4 (にぶい赤褐)



- 1 黒褐色土層 (10YR3/1) 褐色粒子少量、小礫微量。SB3004 覆土
 2 黒褐色土層 (10YR3/1) 褐色粒子少量、小礫微量。SB3004-Pw01 覆土

第97図 SB3004

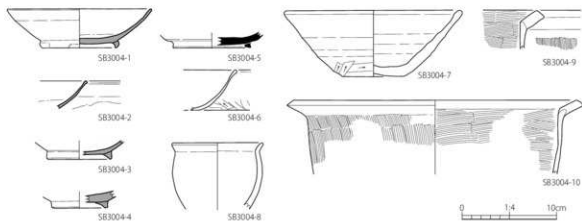
出土遺物 10点図示した(第98図-1~10)。1から4は灰軸陶器の碗である。1は高さか低く、腰も張らない。高台は内面が強クナデられ、強く内湾して低い三日月高台である。施軸はハケ塗りと観察されるが明確ではない。2は口縁部片である。口唇部が玉縁状に肥厚する。施軸は漬け掛けである。3、4は1、2に比べて作り、焼成ともに粗雑な碗である。3の高台は内外面に弱いナデを施し、低く高台端部が尖っている。一方4は高台端部が丸く若干面を持つ。

5は須恵器の有台坏身である。底部は突出しない。6は甲斐型土器の坏、もしくは皿とされるものである。器壁が非常に薄く作られている。口縁部が肥厚し外反する。底部外面にはヘラケズリが認められる。7は大型の坏である。甲斐型の大型坏の可能性がある。胎土は駿東型の土器と共通する。8は全面ヨコナデ調整が施される。口縁部は短く外反する。9、10は甲斐型の甕である。口縁部が肥厚し外方へ広がる。内外面ともに粗いハケ目調整が施される。胎土には金雲母を多量に含む。

所見(時期) 灰軸陶器の一部にやや古い様相を残すものの灰軸陶器、駿東型土器、甲斐型土器の良好一括資料である。出土遺物から10世紀前半の竪穴建物跡と考えられる。

ビット

3001から3007(3005は欠番)の6基のビットを検出し完掘した。土層や出土遺物からいずれも平安時代の遺構と捉えることができる。



第98図 SB3004 出土遺物実測図

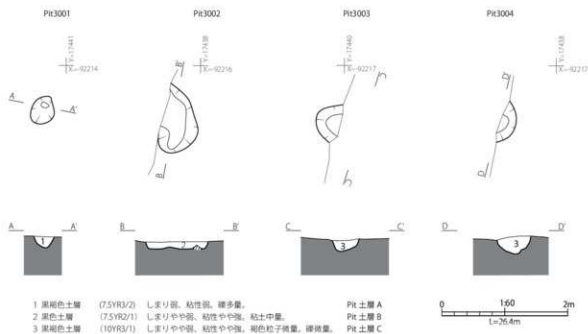
第10表 SB3004 出土遺物観察表

神田番号	R番号	写真 撮影	出土場所	種類	組別	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調	外面色調	
						口径	底径	器高					
SB3004-1	0014 0043	PL.14	SB3004	灰釉陶器	甕	[15.0]	-	4.1	高台径 (7.6)	良好	20%	2.5Y7/2 (灰黄)	2.5Y7/2 (灰黄)
SB3004-2	0025 0043	PL.13	SB3004	灰釉陶器	甕	-	-	(2.9)		良好	-	2.5YR7/2 (灰黄)	2.5YR7/2 (灰黄)
SB3004-3	0043	PL.14	SB3004	灰釉陶器	甕	-	-	(1.9)	高台径 (6.6)	良好	40%	2.5Y6/2 (灰黄)	2.5Y6/2 (灰黄)
SB3004-4	0043	PL.13	SB3004	灰釉陶器	甕	-	-	(1.8)	高台径 [5.4]	良好	40%	2.5Y6/3 (にぶい黄)	2.5Y6/3 (にぶい黄)
SB3004-5	0043	PL.13	SB3004	須恵器	坪	-	-	(1.6)	高台径 (8.1)	良好	30%	2.5Y7/2 (灰黄)	2.5Y6/1 (黄灰)
SB3004-6	0040	PL.14	SB3004	土師器	坪 (甲斐)	-	-	(4.2)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR4/4 (にぶい赤褐)
SB3004-7	0037 0011 0018	PL.14	SB3004	土師器	坪	[18.4]	-	7.0		良好	25%	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)
SB3004-8	0018	PL.14	SB3004	土師器	甕	(9.3)	-	(7.0)		良好	20%	7.5YR7/6 (橙)	10YR7/4 (にぶい黄褐)
SB3004-9	0018	PL.14	SB3004	土師器	甕 (甲斐)	-	-	(4.2)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐)	2.5YR6/6 (にぶい赤褐)
SB3004-10	0011 0036	PL.14	SB3004	土師器	甕 (甲斐)	[29.9]	-	(7.7)		良好	20%	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)

第11表 ビット 遺構概要一覧表

遺構 番号	遺構 種類	縦長 (cm)	縦幅 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	遺物	土層
3001	Ph	48	40	16	楕円形	丸底 (U字形)		A
3002	Ph	(94)	63	17	長方形	平底 (逆台形)	R0017	B
3003	Ph	(48)	66	23	楕円形	平底 (逆台形)	R0019	C
3004	Ph	(69)	60	19	円形	丸底 (U字形)	R0016	C
3005	欠番							
3006	Ph	(13)	24	24	不明	丸底 (U字形)		C
3007	Ph	(20)	20	32	不明	丸底 (U字形)		C

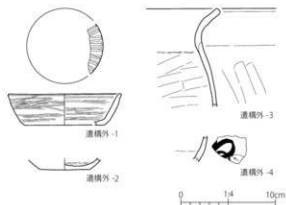
A 黒褐色 (7.5YR3/2) しまり泥、粘性泥、礫多量
 B 黒色 (7.5YR2/1) しまりやや泥、粘性や中強、粘土中量
 C 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや泥、粘性や中強、褐色粒子微量、礫微量
 ※ () 数字は、最大計測値



第99図 Pit3001～3004

遺構外出土遺物 (第100図1~3)

1は駿東型坏である。底径が大きく古い形態を示す。内外面、見込み部ともにヘラミガキが施される。8世紀末頃から9世紀始め頃の遺物である。2は1と同じ駿東型坏であるが、底径が小さい。9世紀後半頃と考えられる。3は駿東型長胴甕で、内外面ともにヘラナデ調整が施される。長胴化が著しく10世紀前半頃と考えられる。4は駿東型坏の破片で墨書が認められるが判読できない。9世紀頃と考えられる。



第100図 遺構外出土遺物実測図

第12表 遺構外 出土遺物観察表

神図番号	R番号	写真 図取	出土場所	種類	副型	法量 (cm)				地成	残存 率	内面色調	外面色調
						口径	底径	胴高	その他				
遺構外-1	0013	PL.14	一話 SE3002- SE3004	土師器	坏	(11.8)	(8.4)	3.3		良好	25%	5YR6/6 (橙)	5YR6/6 (橙)
遺構外-2	0011	-	1工区	土師器	坏	-	(5.3)	(1.1)		良好	30%	2.5YR4/6 (赤褐)	2.5YR4/6 (赤褐)
遺構外-3	0011	PL.14	1工区	土師器	甕	-	-	(13.3)		良好	-	5YR5/6 (明赤褐)	5YR5/4 (濃い赤褐)
遺構外-4	0011	PL.14	1工区	土師器	坏 (破片)	-	-	(2.7)		良好	-	2.5Y5/6 (明赤褐)	2.5Y5/6 (明赤褐)

第4章 宇東川遺跡W地区の調査

第1節 宇東川遺跡の概要

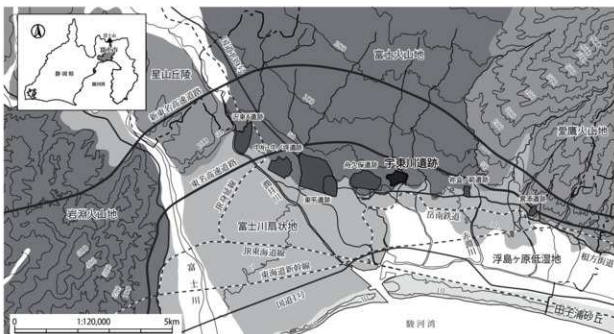
宇東川遺跡は富士山南麓に広がる新富士火山噴出物を基盤とする丘陵の末端部分の松原川西岸に立地する。南北約500m、東西650mの範囲に展開する縄文時代から平安時代にかけての複合集落である。

縄文時代では、早期(押型文)、前期(諸磯B式)の遺物も少数ながら認められるものの、その主体は中期後葉から後期前葉(曾利IV式期から堀ノ内I式期)にかけてである。平成元年から2年まで行われたA地区第2次調査では竪穴建物跡6軒(内、2軒が柄鏡形敷石住居跡)、埋蔵23基が検出されている(富士市教育委員会1991)。また、近年行われた3～6次調査においても建物跡2軒、埋蔵4基が検出されているが、いずれも中期後葉から後期前葉に取まるものと考えられている(富士市教育委員会2012)。後期前葉以降は、松原川の対岸に立地する中島遺跡において集落が展開することも集落展開を考える上で注目される。

弥生時代においては後期終末期(庄内式期)において、北陸地方南西部系の甕が比較的多量に出土して

おり、集落の眼下の浮島ヶ原低地西端に展開する沖田遺跡を玄関口とした他地域との地域間交流の存在と浮島ヶ原低地周辺の集落同士の有機的・構造的つながりの存在を想定させる。その列島規模の地域間交流は、沼津市高尾山古墳を始めとした古墳時代という新たな時代の幕開けへの胎動と捉えることができる。

古墳時代に入り前期から中期初頭まで集落展開が認められるものの、中期の遺構はほとんど見つかっていない。これは東日本全体としての特徴であることから低地部へのヒトの移動など多角的な検討を要する。中期末のTK23・47型式期に入り、再び集落展開が確認されるが、根方街道沿いに展開する宮添遺跡などとも共通しており、倭王権を中心とする新たな流れの中に東駿河も参画していったことがうかがえる。しかし、古墳時代後期や7世紀にいたっては、宇東川遺跡での集落展開は低調であり、これは西方の澗井川流域における集落展開が活発になったことと対照的である。

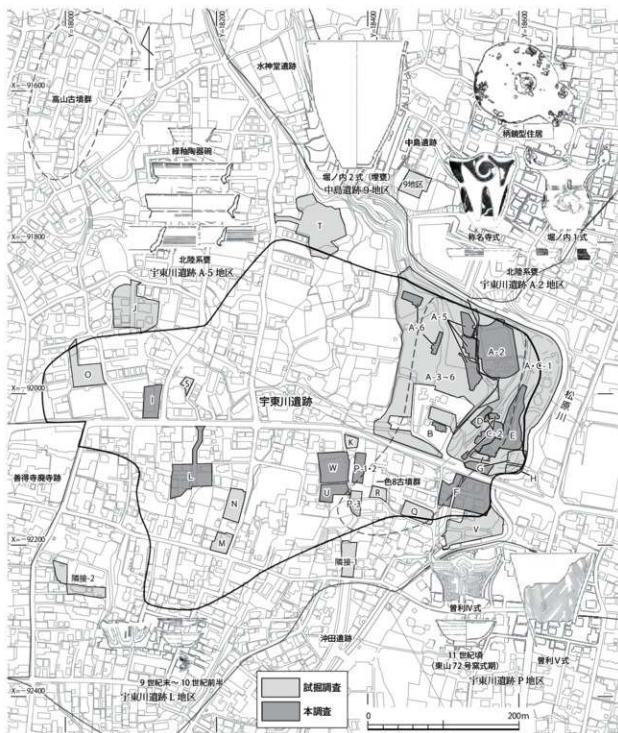


第101図 宇東川遺跡の位置と周辺地形図

しかし、8世紀にはいり、東平遺跡において戦河国富士郡家が設置されると、同じ根方街道沿いの舟久保遺跡や祢宜ノ前遺跡、宮添遺跡などとともに主要街道沿いの拠点的存在として機能しはじめる。これは富士郡家を中心とした体制のもと、周辺集落がその体制の中に取り込まれ、維持し始めたことを示している。

宇東川遺跡は平安時代に入り10世紀ころまでは継続的な展開を見せるもののその後、考古学的な成果では集落活動は見られなくなる。

しかし、今後、中世遺物などの再検討を行うことにより、現在考えられている活動以上のことが明らかになる可能性が高い。



第102図 宇東川遺跡 概要図

第2節 宇東川遺跡W地区の調査成果

1. 調査の概要

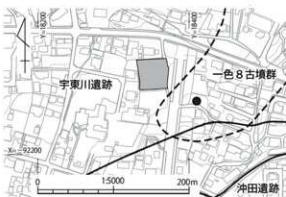
(1) 調査に至る経緯

医療法人財団 百葉の会（以下、事業者）は富士市宇東川西町579-2外5筆（1803㎡）において、特定有料老人ホーム建設を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「宇東川遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

平成27年に計画地南側（宇東川西町585-1ほか5筆）の宇東川遺跡U地区においても本発掘調査を実施し竪穴建物跡16軒を検出したことから、当該地においても遺構・遺物が残存している可能性が高く、工事に先立って確認調査を実施する必要があることを事業者に伝えた。

平成28年1月21日、事業者から「発掘調査承諾書」「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。

これを受けて文化振興課は、4月8日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第46号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。



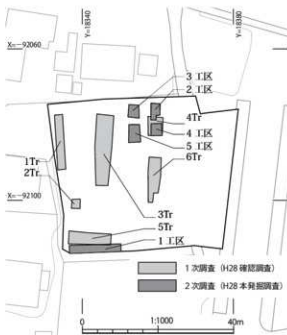
第103図 宇東川遺跡W地区 位置図

(2) 確認調査

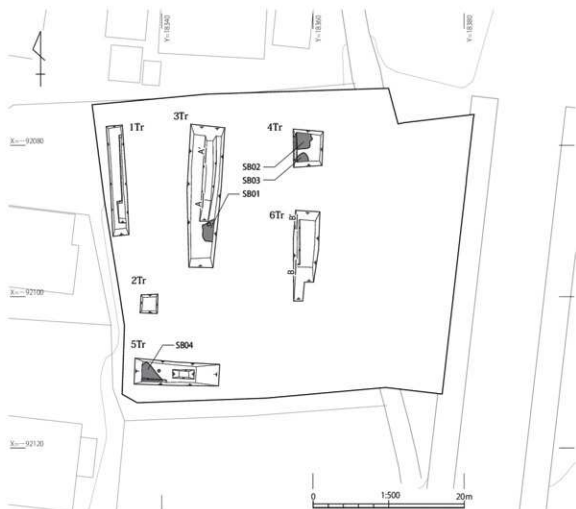
確認調査は平成28年4月11日から13日にかけて行った。調査地内にトレンチを6本(201.018㎡)設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、奈良・平安時代のものと思われる竪穴建物跡4軒を検出したほか弥生時代後期、縄文時代後期の遺物包含層の存在が明らかとなった。遺物は、土師器や須恵器、灰釉陶器に加え包含層から縄文土器・石器・弥生土器がコンテナ1箱分出土し、4月15日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第88号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富市文発第88-2号）を提出した。これは、5月6日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第241号）。

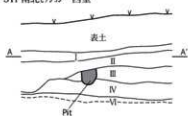
4月21日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第101号）を提出した。また、事業者と、埋蔵文化財の保護に対する対応についての協議を開始した。



第104図 確認調査トレンチおよび本調査工区配置図

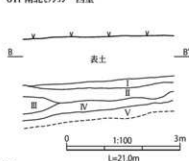


3Tr 南北方向 西壁



- | | | |
|-----|------------------|-------------------------------|
| I | 栗色土層 (10YR1.2/1) | 大溜スコリア多量。褐色粒子Q~3mm)少量 |
| II | 栗色土層 (10YR1.2/1) | 褐色粒子Q~3mm)少量。大Rスコリア混入。 |
| III | 栗褐色土層 (10YR2/3) | 褐色粒子Q~3mm)微量。礫(1~5cm)少量。 |
| IV | 栗色土層 (10YR1.2/1) | 褐色粒子少量(1~2mm)少量。褐色粒子Q~3mm)微量。 |
| V | 黄褐色土層 (10YR2/3) | |
| VI | 暗褐色土層 (10YR3/4) | 礫(3~40cm)少量 |

6Tr 南北方向 西壁



- | |
|-----------|
| 弥生遺物包含層 |
| 下部に縄文遺物出土 |
| 縄文遺物包含層 |
| 縄文遺物包含層 |
| 白磁碎渣層 |

第105図 確認調査トレンチ配置図・セクション図

(3) 本発掘調査

事業者より提出された文化財保護法第93条に基づく届出に対して、平成28年6月30日、県教育委員会から、遺跡の保護が図れない部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知された(教文第609号)。これを受けて、事業者と文化振興課は協議を行い、事業者からの委託により市教育委員会が本発掘調査を実施することとなった。

7月11日、事業者と富士市長、市教育長の3者間で文化財調査に関する協定が締結され、これに基づいて、7月15日、事業者と富士市長の2者間で発掘作業に関わる業務委託契約が締結された。7月15日、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を県教育長に提出し(富市文発第408号)、文化振興課職員による記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。

調査は平成28年7月19日から8月18日にかけて行った。

まず、工事計画に基づき、擁壁設置部分の調査工区(1工区)を設定し、調査を行った。その結果、1工区で6軒(SB2001～SB2005、SB2010)の竪穴建物跡を発掘し、測量・写真撮影・観察等による記録保存を行った。また、建物基礎の掘削により保護層の確保が難しい3m四方の4箇所(2工区～5工区)の調査区を設定し、調査を行った。その結果、さらに4軒の竪穴建物跡を発掘した。第5工区では奈良・平安時代の遺構は確認されなかったものの縄文時代後期の遺物包含層から土器・石器が出土した。

本発掘調査では、コンテナ3箱分の縄文土器・石器・土師器・須恵器が出土し、8月9日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富市文発第468号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富市文発第468-2号)を提出した。これは、8月19日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第855号)。

平成28年8月18日、事業者に対し、発掘作業に関わる業務の完了報告を行い(富市文発第497号)、8月23日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第506号)を提出した。その後、業務委託金の精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。

(4) 整理作業

現地調査の終了後、平成29年4月5日、事業者と富士市長の2者間で整理作業に関わる業務委託契約が締結され、調査記録および出土遺物の整理作業が開始された。遺構測量図面の整理・編集、遺物の洗浄・注記・接合・復元・実測・写真撮影、文章執筆などの作業をすすめて、これらを編集して報告書を作成した。

平成29年8月31日、宇東川遺跡第W地区2次調査の埋蔵文化財発掘調査に関わる一連の作業は、本書の刊行をもって終了した。

本書にて報告する図面・発掘記録・出土遺物等の資料は、すべて市教育委員会にて保管している。

(5) 調査の体制

宇東川遺跡第W地区2次調査に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

〔調査主体〕

富士市教育委員会 教育長 山田 幸男

〔調査担当〕

市民部	部長	加納 孝周(平成28年度)
		高野 浩一(平成29年度)
文化振興課	課長	町田しげ美(平成28年度)
		久保田伸彦(平成29年度)
文化財担当	統括主幹	久保田伸彦(平成28年度)
		植松 良夫(平成29年度)
	主幹	石川 武男
埋蔵文化財調査室主	査	佐藤 祐樹
	主事補	伊藤 愛(平成29年度)
	臨時職員	服部 孝信
		小島 利史
		若林 美希



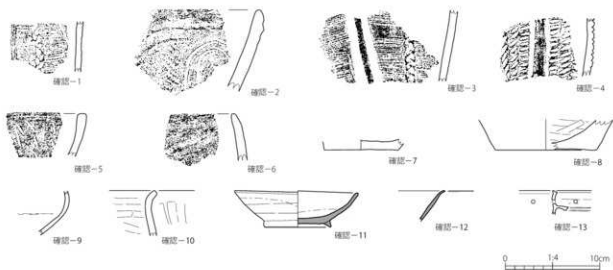
第106図 調査風景

2. 調査の成果

(1) 確認調査出土遺物

1は曾利Ⅳ式、2から5は曾利Ⅴ式の土器である。1は櫛条工具による条線文の後、縦位に結節縄文を施文している。2には地文縄文に楕円のモチーフが残る。3は柳歯状条線を地文とし、縦位の隆帯がつく。4,5は「ハ」の字文及びその崩れたものを地文とする。6は時期不明の破片だが、縄文時代中期から後期と考えられる。7、8は縄文土器の底部で時期は明らかでない。

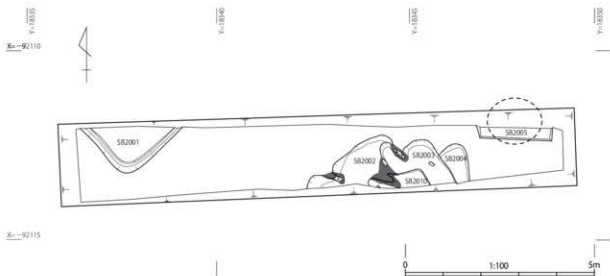
9は弥生時代後期の壺の胴部下半の破片である。10は弥生時代終末期(庄内式併行期)の甕の口縁部と考えられる。口縁部がしっかりと面取りされている。11は灰軸陶器の碗である。器高は低く高台は弱いナデによって仕上げられている。底部には回転糸切り後、高台貼付け時の弱いナデが認められる。施軸は濃け掛けと推測される。10世紀頃と考えられる。12は羽釜の口縁部である。



第107図 確認調査 出土遺物実測図

第13表 確認調査出土遺物観察表

確認番号	R番号	写真 図版	遺構名	種別 説明	法量 (cm)				焼成 率	残存 率	内面色調 外面色調	備考
					口径	底径	器高	その他				
確認-1	0020	PL-20	6Tr	縄文土器 曾利Ⅳ	-	-	(5.3)		良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	
確認-2	0010	PL-20	3Tr	縄文土器 曾利Ⅴ	-	-	(8.6)		良好	-	10YR4/2 (灰黄褐) 10YR3/2 (黒褐)	
確認-3	0019	PL-20	6Tr	縄文土器 曾利Ⅴ	-	-	(7.5)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
確認-4	0019	PL-20	6Tr	縄文土器 曾利Ⅴ採録	-	-	(8.6)		良好	-	5YR4/1 (黄灰) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
確認-5	0020	PL-20	6Tr	縄文土器 曾利Ⅴ	-	-	(4.5)		良好	-	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	
確認-6	0020	PL-20	6Tr	縄文土器 不明	-	-	(4.9)		良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 5YR6/6 (橙)	
確認-7	0019	PL-20	6Tr	縄文土器 底部	-	[7.7]	(1.1)		良好	98%	10YR7/4 (にぶい黄橙) 5YR6/6 (橙)	
確認-8	0015	PL-20	5Tr	縄文土器 採録	-	[10.8]	(3.1)		良好	25%	10YR4/2 (灰黄褐) 2.5YR6/6 (橙)	
確認-9	0009	PL-20	3Tr	弥生 壺	-	-	(4.6)		良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 5YR6/6 (橙)	
確認-10	0003	PL-20	3Tr, SB01	土師器 小型甕	-	-	(4.8)		良好	-	7.5YR4/2 (灰褐) 7.5YR3/1 (黒褐)	
確認-11	0002	PL-20	3Tr, SB01	灰軸陶器 碗	13.0	-	6.8 6.8	高台径	良好	100%	2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y7/1 (灰白)	つけ掛け
確認-12	0015	PL-20	5Tr	灰軸陶器 碗	-	-	(3.2)		良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 10YR7/1 (灰白)	
確認-13	0016	PL-20	5Tr, SB04	土師器 羽釜	-	-	(2.5)		良好	-	5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	



第108図 1工区全体図

(2) 本発掘調査

本発掘調査では、工事計画に基づき、5ヶ所の調査工区(1工区～5工区、総面積70.739m²)を設定し、調査を行った。その結果、10軒の竪穴建物跡を完掘した。

竪穴建物跡

SB2001

重複関係 なし

主軸方位 N - 39° - W

残存状況 第1工区西端において検出。大部分が調査区外の建物跡の一部を検出したのみだが、確認調査時の5Trにて検出したSB04に続く遺構の可能性が高い。全体の規模は不明ながら、検出された部分より推定すると平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。壁溝が回る。検出面からの深さは30cmである。

覆土 大濶スコリアを微量含む黒褐色土層。覆土中に粘土を少量含むもの多くはない。

壁溝 幅23cm、深さ7cmの壁溝が検出された。

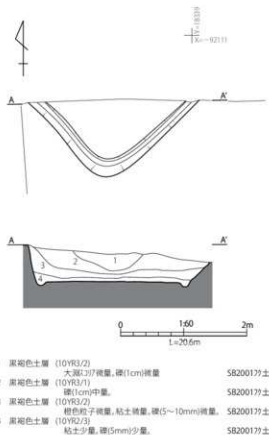
柱穴 検出されない。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されない。

出土遺物 図示できた遺物はない。

所見(時期) SB2001が確認調査時の5Trにて検出したSB04と同一遺構であれば、第107図13の遺物より16世紀頃と考えることも出来る。



第109図 SB2001 平面図・セクション図

SB2002

重複関係 (古) SB2002 → SB2003

→ SB2010 (新)

主軸方位 N-48°-W

残存状況 第1工区中央において検出。大部分が調査区外の建物跡の一部を検出したのみで、しかも、東コーナー部分をSB2003に切られ、さらに南側をSB2010に切られている。全体の規模は不明ながら、検出された部分より推定すると平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは64cm。

覆土 大溜スコリアを中量含む黒褐色土層。

壁溝 検出されない。

柱穴 検出されない。

床 土層観察により、SB2010に切られるように部分的に存在するものの詳細は明らかではない。

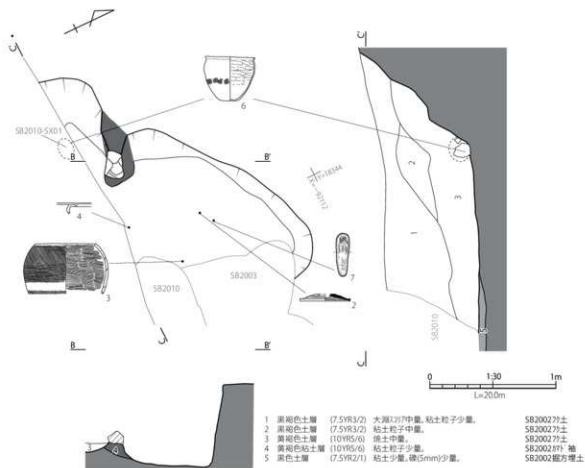
カマド 北壁に右袖のみ検出され、左袖は調査区外のため不明である。粘土は比較的多く検出されたものの焼土や炭化材がほとんど検出されず、使用された痕跡がほとんどない。ただし、右袖には袖石が存在し、加えて支脚の石に小型の甕が被さるように伏せられて出土した。こ

のようにカマド鎮めの行為をしているにもかかわらず、使用された痕跡があまりない理由は明らかではない。

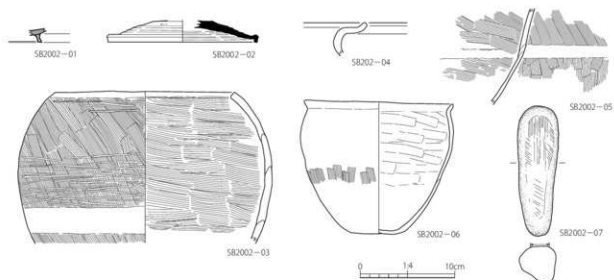
出土遺物 7点図示した(第112図-1~7)。灰軸陶器の底部、高台部分である。焼成が不良のためざつついた質感をもつ。高台は薄く高さをもつ。2は須恵器の積み蓋である。内外面のノタ目は弱いものの口縁端部の反りは明瞭である。3は腹東型球脚甕である。ただし、頸部までの造作であり、口縁部に相当する部位はもたら作られておらず深い鉢のような形態を示す。内外面の調整は一般的な球脚甕と共通している。4は胎土に雲母粒子を多く含むことから遠江系水平口縁甕と考えられるが、全体的に器壁が厚く、他の地域で作られた可能性を残す。5は腹東型長脚甕の脚部である。内外面は細かなハケ目調整が施される。6は小型甕である。口縁部が短く器面には凹凸が目立つ。外面や口縁部内面の一部にハケ目調整が観察されるが器面荒れのため明確ではない。7は磨り蔽き石である。上面と側面に磨りの痕跡が認められる。所見(時期) 出土遺物より8世紀の堅穴建物跡と考えられる。



第110図 SB2002・SB2003・SB2004・SB2010 平面図・セクション図



第111図 SB2002カマド 平面図・セクション図



第112図 SB2002出土遺物実測図

第14表 SB2002 出土遺物観察表

種目番号	R番号	写真 回数	遺構名	種別 類別	法量 (cm)			焼成	残存 率	内面色調 外面色調	備考
					口径	底径	高さ その他				
SB2002-1	0060	-	SB2002	灰釉陶器 甕	-	-	(1.4)	良好	-	7.5Y5/1 (灰) 7.5Y5/1 (灰)	
SB2002-2	0084	PL.20	SB2002	須恵系 陶器	(15.6)	-	(2.3)	良好	20%	10YR6/1 (褐色) 10YR6/1 (褐色)	
SB2002-3	0137, 0138, 0139	PL.20	SB2002	土師器 埴輪製	(18.9)	-	(16.0)	良好	40%	5YR4/3 (にじみ赤陶) 5YR3/3 (明赤陶)	口縁なし
SB2002-4	0066	-	SB2002	土師器 縄文水平口鉢	-	-	(3.5)	良好	-	7.5YR5/3 (にじみ陶) 7.5YR5/3 (にじみ陶)	
SB2002-5	0060, 0133	PL.20	SB2002 SB2003	土師器 長頸甕 (腹束)	-	-	(10.2)	良好	-	7.5YR6/6 (橙) 2.5YR5/6 (明陶)	
SB2002-6	0146	PL.20	SB2002-SB01	土師器 小型甕	15.6	5.8	14.0	良好	90%	7.5YR6/3 (にじみ陶) 10YR6/3 (にじみ黄橙)	
SB2002-7	0085	PL.20	SB2002	石 磨石	-	-	-	-	-	-	

SB2003

重複関係 (古) SB2002・SB2004

→ SB2003 → SB2010 (新)

主軸方位 N-43°-E

残存状況 第1工区中央において検出した。大部分が調査区外で建物跡の東壁と北壁の一部を検出したのみである。カマド前面部分がSB2010に切られているものの、残存部分では土師器製の破片が大量に出土した。カマド鎮めに伴う土器の可能性が高い。全体の規模・形は不明。検出面からの深さは60cmを測る。

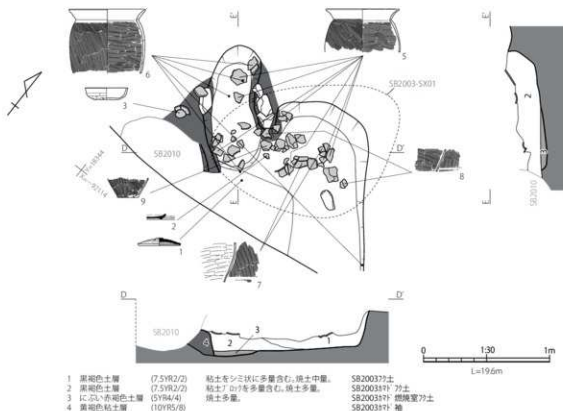
覆土 大溜スコリアを中量含む黒褐色土層。

壁溝 検出されない。

柱穴 検出されない。

床 掘り方を床面とする。

カマド 北壁に存在し、粘土が多量に検出された。左袖の一部はSB2010に切られて失われているが、右袖と燃焼室は比較的良好に遺存した。袖に芯材が使用されており、長さをもつのが特徴である。残存部分で全長99cm、中央外寸幅100cm、中央内寸幅35cmを測る。

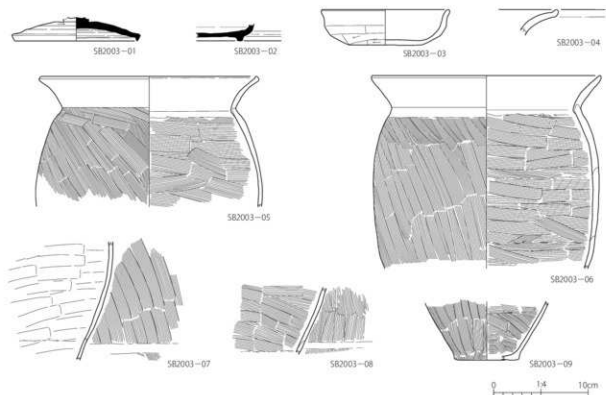


- 1 黄褐色土層 (7.5YR2/2) 粘土をシミ状に多量含む。焼土中量。 SB2003??土
- 2 黄褐色土層 (7.5YR2/2) 粘土? (??)を多量含む。焼土多量。 SB2003??土
- 3 にじみ赤褐色土層 (5YR4/4) 焼土多量。 SB2003??土
- 4 黄褐色粘土層 (10YR5/6) SB2003??土

第113図 SB2003 カマド 平面図・セクション図

出土遺物 9点図示した(第114図-1~9)。1は須恵器の摘み蓋の破片である。摘みの一部が欠損するものの低く扁平な摘みである。2は須恵器の有台坏身の破片である。高台は低く厚い。3は土師器の平底坏である。広い底部から緩やかに立ち上がり口縁部がヨコナデによりわずかに外反する。口縁部のヨコナデ以外の部位は手持ちヘラケズリにより調整されている。4は駿東型長胴甕

の口縁部である。口縁部内面が摘み上げられている。5、6も駿東型長胴甕である。口縁部は薄くわずかに外反するものの遠江系のように水平方向には向かない。内外ともに細かなハケ目調整が施される。7から9も駿東型長胴甕の胴部から底部片である。調整も5、6と共通する。所見(時期) カマドより出土した土師器坏(3)より8世紀前半頃の竈穴建物跡と考えられる。



第114図 SB2003出土遺物実測図

第15表 SB2003出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺物名	類別 細別	法風 (cm)			焼成 率	内面色調 外面色調	備考
					口径	底径	高さ			
SB2003-1	0031	PL-20	SB2003	須恵器 摘蓋	12.8	-	2.5	良好	50%	5Y5/1 (灰) 5Y5/1 (灰)
SB2003-2	0103	PL-22	SB2003-SX01	須恵器 高台坏	-	-	1.8	良好	-	7.5YR6/1 (灰) 7.5YR8/1 (灰)
SB2003-3	0136, 0061	PL-21	SB2003	土師器 内湾坏	(13.2)	-	3.7	良好	40%	5YR5/6 (明赤陶) 5YR5/4 (によい赤陶)
SB2003-4	0030	-	SB2003 SB2004	土師器 長胴甕	-	-	(2.2)	良好	-	5YR5/6 (明赤陶) 5YR5/6 (明赤陶)
SB2003-5	0044, 0057, 0058, 0059, 0061, 0088, 0091, 0095, 0109, 0115, 0121, 0123, 0126, 0133, 0139	PL-21	SB2003	土師器 長胴甕 (駿東)	22.7	-	(13.8)	良好	60%	5YR5/6 (明赤陶) 5YR5/6 (明赤陶)
SB2003-6	0124, 0056, 0111, 0125, 0128, 0133, 0136, 0140, 0141	PL-21	SB2003-SX01	土師器 長胴甕 (駿東)	[24.0]	-	(20.5)	良好	40%	7.5YR5/4 (によい赤) 5YR6/0 (橙)
SB2003-7	0090, 0093	PL-21	SB2003-SX01	土師器 長胴甕 (駿東)	-	-	(12.5)	良好	-	2.5YR5/6 (明赤陶) 2.5YR5/6 (明赤陶)
SB2003-8	0061, 0086, 0106	-	SB2003	土師器 長胴甕 (駿東)	-	-	(7.1)	良好	-	5YR5/6 (明赤陶) 5YR5/6 (明赤陶)
SB2003-9	0104, 0133	PL-21	SB2003-SX01	土師器 長胴甕 (駿東)	-	(6.6)	(6.1)	良好	25%	7YR4/2 (灰陶) 2.5YR5/6 (明赤陶)

SB2004

重複関係 (古) SB2004 → SB2003 (新)

主軸方位 N-17°-W

残存状況 第1工区中央において検出。大部分が調査区外で西側はSB2003、SB2010に切られて失われているため、建物の北東コーナー付近を検出したのみである。全体の規模・形は不明。検出面からの深さは45cmを測る。

覆土 大溜スコリアを多量に含む黒色土層。

壁溝 検出されない。

柱穴 検出されない。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されない。

出土遺物 遺物の出土なし。

所見(時期) 遺構の切りあいより8世紀以前の竪穴建物跡と考えられる。

SB2010

重複関係 (古) SB2002・SB2004

→ SB2003 → SB2010 (新)

主軸方位 N-27°-W

残存状況 第1工区中央において検出した。大部分が

調査区外で建物跡の北壁の一部を検出したのみ。カマド前面部分から土師器甕の破片がまとまって出土した(SB2010SX01)。検出面から床面までの深さは50cm。

覆土 大溜スコリアを少量含む黒褐色土層。

壁溝 検出されない。

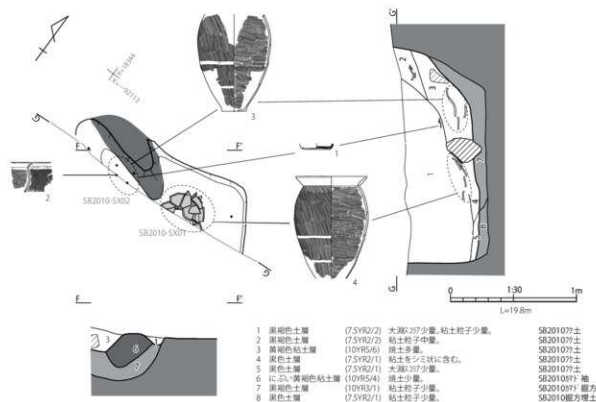
柱穴 検出されない。

床 掘り方を床面とする。

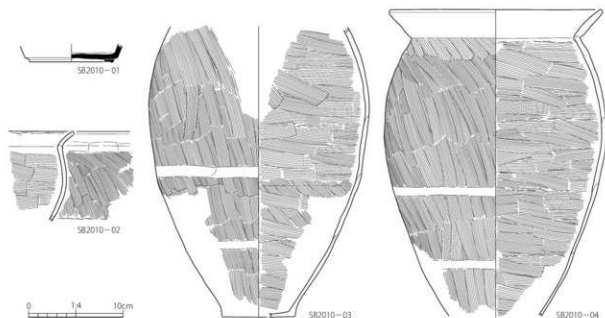
カマド 北壁に存在し、粘土が多量に検出された。右袖の一部が検出されたのみで大部分が調査区外。燃焼室と考えられる部分の土層精査中に土師器片が断面よりまとまって出土した(SB2010SX02)。調査区の壁際で一部分のみの検出という制約もあり、形態など明らかでない部分が多い。

出土遺物 4点図示した(第116図-1~4)。1は須恵器の有台坏身である。高台は低く扁平。2は駿東型長胴甕系の小型甕と共通する。3、4は駿東型長胴甕である。胴部は張らずに全体的に細い。胴下半に二箇所乾燥工程に伴う外面ヨコナデが認められる。その他は外面タテ・ナメハケ目調整、内面はヨコナデが施される。

所見(時期) 出土遺物より8世紀末から9世紀前半頃の竪穴建物跡と考えられる。



第116図 SB2010カマド 平面図・セクション図



第116図 SB2010出土遺物実測図

第16表 SB2010出土遺物観察表

標記番号	R番号	写真回数	遺構名	種類 類別	法量 (cm)			焼成 残存率	内面色調 外面色調	備考
					口径	底径	胴高 その他			
SB2010-1	0143	PL.22	SB2010	須恵器 高台坪	-	-	(1.0) 高台坪 (R.7)	良好 20%	5Y5/1 (黄) 5Y5/1 (黄)	
SB2010-2	0145	PL.22	SB2010	土師器 小型埴	-	-	(0.5)	良好	5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/6 (明赤褐)	
SB2010-3	0130, 0145	PL.21	SB2010	土師器 長胴埴 (駿東)	-	(7.6)	(30.6)	良好 30%	10YR5/3 (にぶい黄褐) 7.5YR4/2 (灰褐)	
SB2010-4	0135, 0142, 0129	PL.21	SB2010-SX01	土師器 長胴埴 (駿東)	22.2	-	(32.5)	良好 70%	5YR6/6 (橙) 5YR4/2 (灰褐)	

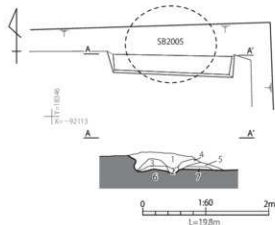
SB2005

重複関係 なし

主軸方位 不明

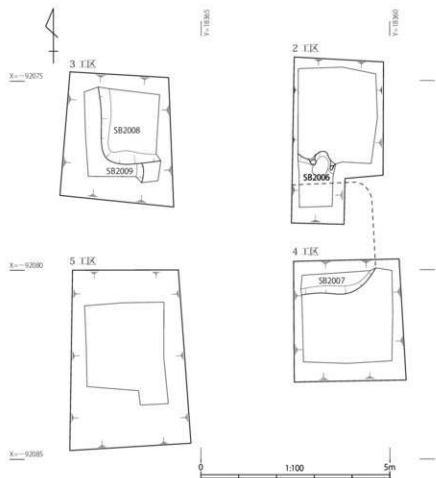
残存状況 第1工区東において検出。重機掘削により上面の大部分を削ってしまっており平面的情報は不明である。大部分が調査区外で西側はSB2003、SB2010に切られて失われているため、建物の北東コーナー付近を検出したのみである。全体の規模・形は不明。検出面からの深さは45cmを測る。

覆土 大瀝スコリアを中量に含む黒色土層。下層部分では粘土少量と焼土が多量に観察されたため、カマドの痕跡と考えられる。



- 1 黒色土層 (10YR2/1) 大瀝スコリア中量。7の付状の粘土を含む。SB2005粘土
- 2 黒色土層 (10YR2/1) 粘土少量。下層に焼土を多量含む。SB2005粘土
- 3 にぶい黄褐色粘土層 (10YR7/4) 焼土少量。黒色土ブロック少量。SB2005粘土
- 4 にぶい黄褐色粘土層 (10YR5/4) 焼土少量。黒色土少量。SB2005粘土
- 5 黒色土層 (10YR2/1) 粘土少量。礫(1~2cm)微量。SB2005粘土
- 6 黒褐色土層 (10YR3/7) 粘土少量。
- 7 褐色土層 (7.5YR7/6) 粘土少量。焼土多量。炭化物少量。SB2005粘土

第117図 SB2005 平面図・セクション図



第118図 2・3・4・5工区全体図

SB2006

重複関係 (古) SB2006 → SB2007 (新)

主軸方位 N - 15° - E

残存状況 第2工区南端において検出。大部分が調査区外で南側は第4工区で一部検出されたSB2007に切られて失われており、カマド周辺部分を検出したのみである。

覆土 大溜スコリアを多量に含む黒色土層。

壁溝 検出されない。

柱穴 検出されない。

床 掘り方を床面とする。

カマド 袖部、燃焼室ともに検出された。袖部には芯材として石を使用している。粘土はほとんど検出されない。燃焼室の覆土は明確に認められる。残存部分で全長71cm、中央外寸幅72cm、中央内寸幅35cmを測る。

出土遺物 3点図示した(第121図-1~6)。1は須恵

器の摘蓋である。外面のノタ目は明瞭で端部が立ち上がる。2は有台坏身の底部、3は載車型球胴甕の胴部である。外面はハケ目調整の後、ヘラミガキ。内面は荒いハケ目調整が施される。

所見(時期) 出土遺物より8世紀前半の竪穴建物跡と考えられる。

SB2007

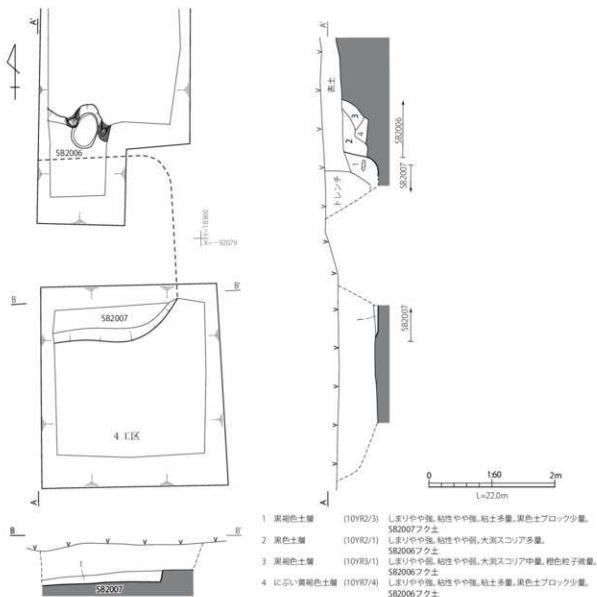
重複関係 (古) SB2006 → SB2007 (新)

主軸方位 不明

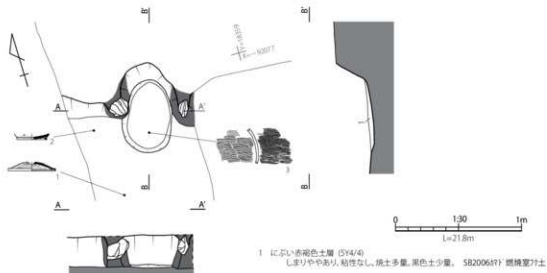
残存状況 第4工区北端において一部分を検出。第2工区の土層観察において確認された落ち込みがSB2005に繋がる可能性が高い。

出土遺物 遺物は出土しない。

所見(時期) 遺構の切り合い関係から8世紀以降の竪穴建物跡と考えられる。



第119図 SB2006・SB2007 平面図・セクション図



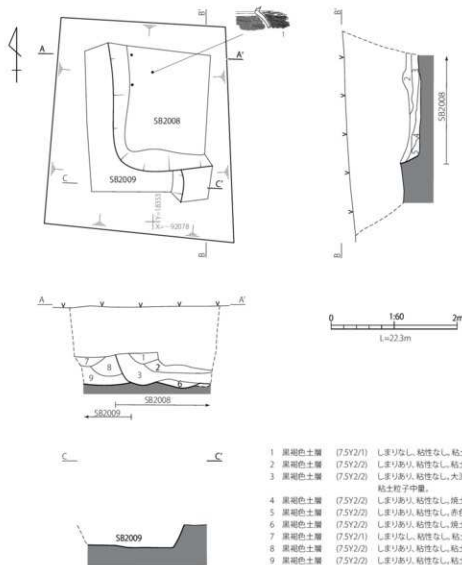
第120図 SB2006 カマド 平面図・セクション図



第 121 図 SB2006 出土遺物実測図

第 17 表 SB2006 出土遺物観察表

神田番号	R 番号	写真 図版	遺構名	種類 説明	法尺 (cm)			焼成	残存 率	内面色調 外面色調	備考
					口径	底径	高さ その他				
SB2006-1	0035	PL.22	SB2006	須恵窯 楕円 鉢蓋	-	[7.6]	(2.8)	良好	20%	10YR6/2 (灰青褐) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB2006-2	0033	PL.22	SB2006	須恵窯 高台杯	-	-	(1.8)	高台径 良好	20%	2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	
SB2006-3	0036, 0048	PL.22	SB2006	土師窯 腹車形球脚甕	-	-	(11.1)	良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	



第 122 図 SB2008・SB2009 平面図・セクション図

- | | | | | |
|---|-------|-----------|---------------------------------|----------|
| 1 | 黒褐色土層 | (7.5Y2/1) | しまりなし、粘性なし、粘土粒子少量。 | SB2008?土 |
| 2 | 黒褐色土層 | (7.5Y2/2) | しまりあり、粘性なし、粘土ブロック少量。 | SB2008?土 |
| 3 | 黒褐色土層 | (7.5Y2/2) | しまりあり、粘性なし、大割スコリア少量。
粘土粒子中量。 | SB2008?土 |
| 4 | 黒褐色土層 | (7.5Y2/2) | しまりあり、粘性なし、粘土粒子・粘土粒子中量。 | SB2008?土 |
| 5 | 黒褐色土層 | (7.5Y2/2) | しまりあり、粘性なし、赤色粒子少量。 | SB2008?土 |
| 6 | 黒褐色土層 | (7.5Y2/2) | しまりあり、粘性なし、粘土粒子・粘土粒子中量。 | SB2008?土 |
| 7 | 黒褐色土層 | (7.5Y2/1) | しまりなし、粘性なし、粘土粒子少量。 | SB2009?土 |
| 8 | 黒褐色土層 | (7.5Y2/2) | しまりあり、粘性なし、粘土粒子中量。 | SB2009?土 |
| 9 | 黒褐色土層 | (7.5Y2/2) | しまりあり、粘性なし、粘土粒子多量。 | SB2009?土 |

SB2008

重複関係 (古) SB2009 → SB2008 (新)

主軸方位 N-4°-W

残存状況 第3工区南端においてSB2009を切るように検出された。大部分が調査区外のため詳細は明らかではない。

覆土 大澱スコリアを少量に含む黒色土層。粘土を比較的多く含む。

壁溝 検出されない。

柱穴 検出されない。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されない。

出土遺物 2点図示した(第123図-1、2)。1は腕車型球胴甕の肩部である。2は縄文土器と考えられるが不明。口唇部直下に棒状工具による刺突がある。その下位には羽状縄文が認められる。弥生時代後期の土器の可能性を残す。

所見(時期) 出土遺物より8世紀の竪穴建物跡と考えられる。

SB2009

重複関係 (古) SB2009 → SB2008 (新)

主軸方位 不明

残存状況 第3工区南端においてSB2008に切られるように検出された。大部分が調査区外のため詳細は明らかではない。

覆土 大澱スコリアを少量に含む黒色土層。粘土を比較的多く含む。

壁溝 検出されない。

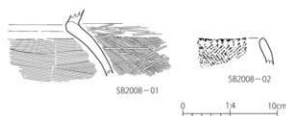
柱穴 検出されない。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されない。

出土遺物 遺物の出土はない。

所見(時期) 遺構の切り合い関係から8世紀以前の竪穴建物跡と考えられる。



第123図 SB2008 出土遺物実測図

第18表 SB2008 出土遺物観察表

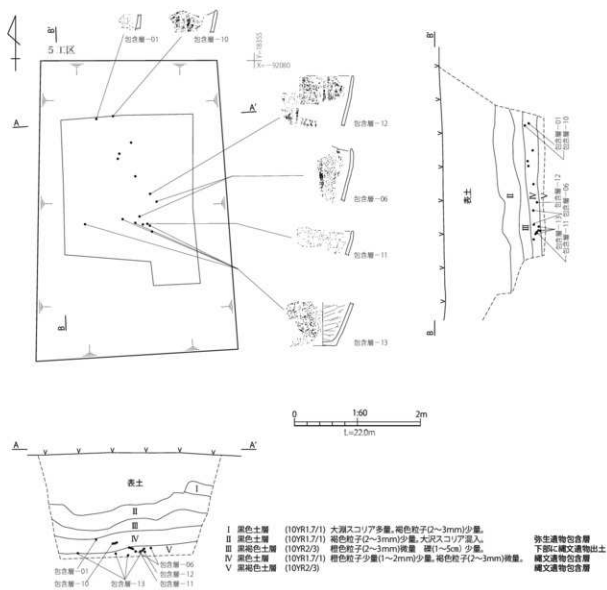
検出番号	R番号	写真 図版	遺構名	種類 説明	法長 (cm)			焼成	残存 率	内面色調 外面色調	備考
					口径	底径	器高				
SB2008-1	0055	PL.22	SB2008	土器 腕車型球胴甕	-	-	(7.0)	良好	-	2.5YR4/4 (にぶい赤陶) 2.5YR4/4 (にぶい赤陶)	
SB2008-2	0062	PL.22	SB2008	? 不明	-	-	(3.1)	良好	-	5YR6/6 (惣) 7.5YR7/6 (惣)	

包含層の調査

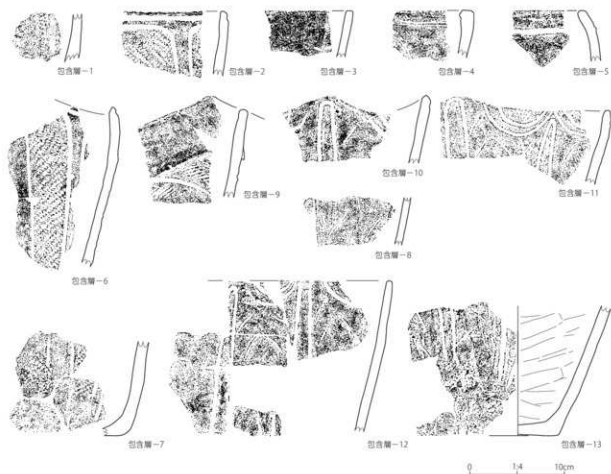
第5工区のIV層～V層中より縄文土器や石器が出土したものの、遺構の存在は明らかとならなかった。

Iは曾利IVからV式、他の2から13はいずれも曾利V式の土器である。2は半葦竹管状工具の沈線で区画された中に縄文が施される。3から5は水平な口縁部をもつ。

一方6、8、10は波状口縁から半葦竹管状工具により縦位に沈線を付け、縄文やへら状工具による沈線を施す。8、10から12にはへら状工具によるハの字、逆ハの字の沈線が施される。他にも黒曜石の破片が出土しているものの、図化できない。



第124図 5工区縄文包含層遺物出土状況図



第125図 包合層出土遺物実測図

第19表 包合層出土遺物観察表

標記番号	R番号	写真 回数	遺構名	種類 類別	法量 (cm)			地蔵	残存 率	内面色調 外面色調	備考
					口径	直径	器高 その他				
包合層-1	0032	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅳ-V	-	-	(5.0)	良好	-	7.5YR5/4 (にぶい-紺) 7.5YR5/4 (にぶい-紺)	
包合層-2	0079	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅴ	-	-	(6.8)	良好	-	7.5YR4/2 (灰濁) 7.5YR4/2 (灰濁)	
包合層-3	0079	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 不明	-	-	(4.0)	良好	-	10YR4/2 (灰黄濁) 5YR6/6 (橙)	
包合層-4	0065	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅴ	-	-	(5.0)	良好	-	7.5YR6/4 (にぶい-橙) 7.5YR7/6 (橙)	
包合層-5	0065	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅴ	-	-	(5.4)	良好	-	5YR5/4 (にぶい-赤濁) 10YR4/2 (灰黄濁)	
包合層-6	0069, 0070	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅴ	-	-	(16.9)	良好	-	5YR4/6 (赤濁) 5YR4/6 (赤濁)	
包合層-7	0079	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅴ	-	-	(9.8)	良好	-	5YR4/4 (にぶい-赤濁) 7.5YR5/4 (にぶい-紺)	
包合層-8	0079	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅴ	-	-	(5.0)	良好	-	7.5YR6/4 (にぶい-橙) 5YR6/6 (橙)	
包合層-9	0082, 0083	PL.22	1 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅴ深鉢	-	-	(11.0)	良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR5/4 (にぶい-赤濁)	
包合層-10	0039	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅴ深鉢	-	-	(7.0)	良好	-	2.5YR5/4 (にぶい-赤濁) 5YR3/2 (暗赤濁)	
包合層-11	0071, 0079	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅴ深鉢	-	-	(7.8)	良好	-	5YR5/4 (にぶい-赤濁) 5YR4/1 (濁灰)	
包合層-12	0065, 0075, 0079	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅴ深鉢	-	-	(16.0)	良好	-	5YR4/3 (にぶい-赤濁) 5YR3/1 (黒濁)	
包合層-13	0072, 0076, 0077, 0078, 0079	PL.22	5 Ⅰ区	織文土器 管形Ⅴ深鉢	-	8.4	13.7	良好	-	7.5YR5/4 (にぶい-紺) 5YR5/4 (にぶい-赤濁)	

第5章 東平遺跡第83地区の調査

第1節 東平遺跡の概要

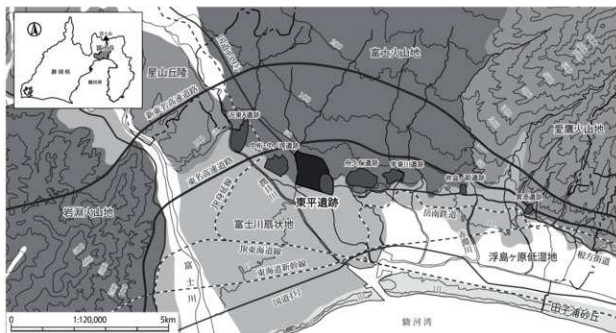
東平遺跡・三日市廃寺跡は、富士山南麓の緩斜面の大淵扇状地上に立地し、その広がりも東西南北ともに約1.2km程度の範囲が登録されている。東側の三日市廃寺跡と東平遺跡は、文化財保護法上は別の遺跡として登録されているが、切り離して考えることは出来ない。東平遺跡からは古墳時代前期から7世紀の遺構・遺物も検出されているが、小規模で、遺跡の主体は8世紀から9世紀にかけてと考えられている。

近年、東平遺跡の概要がまとめられているので(藤村・佐藤 2013)、それに沿って東平遺跡が大規模に発展する8世紀の前後の状況を述べていきたい。

東平遺跡隆盛前夜 富士山の南西麓から駿河湾に注ぎ込む潤井川流域には、東平遺跡が発展する以前の5世紀後半から6世紀にかけて、「王権との関連を有した先進性の高い文物を積極的に利活用した集団によって」開発が進められたと考えられている(藤村 2012)。潤井川流域に限らず、富士山南麓では弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構が確認される一方で、中期には継

続しないことが多い。中期前半の空白期を挟んで集落が確認されるようになるのが中期後半のことである。潤井川流域では、沢東A遺跡の発展に見ることが出来る。潤井川下流に立地する東平遺跡から中桁・中ノ坪遺跡、沢東A遺跡と通るように位置している。沢東A遺跡からは初期須恵器や手持ち勾玉など新たな知識・考え方を背景にした文物が出土している。古墳時代後期初頭前後にそれまでの首長墓空白期への終わりを告げる記念碑的な伊勢塚古墳が、東平遺跡の西側に築造されたことも、王権との関わりを考える上で重要になってくる。

古墳時代後期から7世紀にかけて東平遺跡を見ていくと、遺跡東側の第16・28地区にその広がりを確認することが出来る。これらの遺構が和田川の始点付近に位置するのは、東方の沼津市・三島市方向への路の出発点に位置すること、和田川をくだり駿河湾に出ることができることなど、流通の利便性が背景にある。一方、前述の伊勢塚古墳を初めとして、遺跡を取り囲むように東平第1号墳や西平第1号墳、伊勢塚古墳周辺の石室墳など



第126図 東平遺跡の位置と周辺地形図

が存在することは集落遺跡と墓域が明確に区分されていることを示している。

古墳時代後期から7世紀にかけて大規模に発展する沢東A遺跡が8世紀に入ると規模を縮小し、それと相對するように東平遺跡が一気に拡大を見せる。

東平遺跡の隆盛 8世紀に入るとそれまで墓域と考えられていた遺跡内の緑辺部(第2・3・15地区)において大規模な集落が突如出現する。この計画的な集落化は、中央政權の地方支配の一貫として捉えられている。方形配列の掘立柱建物群や銅製腰帯具・輪羽口・鉄屑・土馬・「布白」墨書須臾器の出土等を総合的に考えれば、このエリアが8世紀の富士郡衙の中樞付近と考えることが出来よう。

一方、それまで集落域として捉えられてきた、遺跡東側では8世紀前半の布目瓦が半径100m程度の範囲にまとまって出土しており、郡衙周辺寺院として機能転換が行われた可能性が考えられる。これまでに寺院の存在を直接的実証する遺構は検出されていないものの、『日本三代実録』貞観5年(863)6月2日にある「以駿河国富士郡法照寺預之定額」がこのエリアと考えられる。

東平遺跡の変容・衰退 9世紀に入ると富士郡衙中樞域と推定した地区(第2・3地区)において遺構がほとんど継続しないという現象を示す。その一方で、8世紀の寺域として推定した地区(第16地区周辺)では、竪穴建物跡のカマド芯材に布目瓦を転用するなどの現象からも、再度、集落化が認められるようになる。

さて、9世紀は集落内において墨書土器が認められ始める時期であり、東平遺跡(三日市廃寺跡)でも、130点以上の墨書・刻書土器が見つかっているが、そのほとんどが9世紀に入ってからのものである。これは沼津・三島方面への当時の東海道「根方街道」沿いの舟久保遺跡・宇東川遺跡・祢宜ノ前遺跡・宮添遺跡や潤井川流域の中樞・中ノ坪遺跡と同様の状況を示す。

その後、『扶桑略記』延喜2年(902)9月26日には「駿河国云上富士郡官舎為群盜被焼亡之由」という記事がみられ、郡司支配からのひずみから10世紀初頭には終焉を迎える。近年では、郡司支配に対する歪みと富士山の度重なる噴火という自然災害史的側面からも遺跡の消長を捉える意見もある(佐藤・藤村2013)。

参考文献

- 佐藤 祐樹・藤村 翔 2013 「考古学からみた富士山の噴火と地域社会の変動—古墳時代・平安時代を中心に—」『考古学からみた静岡の自然災害と復興』静岡県考古学会 2012年度シンポジウム
- 藤村 翔 2012 「古墳時代後期初頭における2つの首長墓とその評価」『富士市内遺跡発掘調査報告書—平成11・12年度—』富士市教育委員会
- 藤村 翔・佐藤 祐樹 2013 「富士市東平遺跡の概要と現状の課題」『県内の官衙遺跡と最近の調査成果』(平成24年度 静岡県考古学会東・中・西合同例会資料)

第2節 東平遺跡第83地区の調査成果

1. 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

事業者（個人）は富士市伝法2370番1外（320㎡）において、敷地造成工事を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「東平遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

平成28年9月15日、事業者から「発掘調査承諾書」「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。

これを受けて文化振興課は、9月30日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第628号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

(2) 確認調査

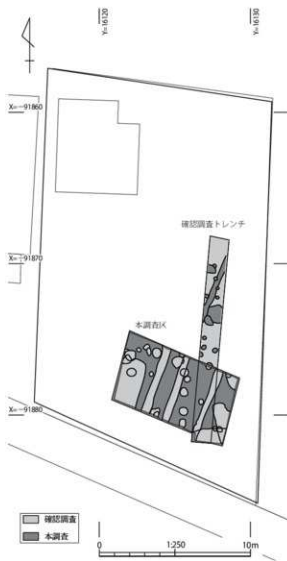
確認調査は平成28年10月3日から4日にかけて行った。調査地内にトレンチを1本（17.59㎡）設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、奈良・平安時代のものとみられる竪穴建物跡1軒や溝状遺構等を検出した。遺物は、土師器や須恵器がコンテナ1箱分出土し、10月6日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第656号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富市文発第656-2号）を提出した。これは、10月28日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1190号）。

10月11日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第669号）を提出した。また、事業者と、埋蔵文化財の保護に対する対応についての協議を開始した。



第127図 東平遺跡第83地区 位置図



第128図 確認調査トレンチおよび本調査区配置図

(3) 本発掘調査

事業者より提出された文化財保護法第93条に基づく届出に対して、平成28年11月9日、県教育委員会から、遺跡の保護が図れない部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知された(教文第1304号)。これを受けて、事業者と文化振興課は協議を行い、事業者からの委託により市教育委員会が本発掘調査を実施することとなった。

平成28年11月18日、事業者と富士市長、市教育長の3者間で文化財調査に関する協定が締結され、これに基づいて、同日、事業者と富士市長の2者間で発掘作業に関わる業務委託契約が締結された。さらに同日、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を県教育長に提出し(富市文発第792号)、文化振興課職員による記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。

調査は平成28年11月22日から12月7日にかけて行った。

本発掘調査では、コンテナ1箱分の土師器・須恵器・灰釉陶器・石器・鉄製品が出土し、12月7日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富市文発第852号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富市文発第852-2号)を提出した。これは、12月16日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第1509号)。

平成28年12月7日、事業者に対し、発掘作業に関わる業務の完了報告を行い(富市文発第851号)、12月9日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第856号)を提出した。その後、業務委託金の精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。

(4) 整理作業

現地調査の終了後、平成29年4月5日、事業者と富士市長の2者間で整理作業に関わる業務委託契約が締結され、調査記録および出土遺物の整理作業が開始された。遺構測量図面の整理・編集、遺物の洗浄・注記・接合・復元・実測・写真撮影、文章執筆などの作業をすすめ、これらを編集して報告書を作成した。

平成29年8月31日、東平遺跡第83地区2次調査の埋蔵文化財発掘調査に関わる一連の作業は、本書の刊行をもって終了した。

本書にて報告する図面・発掘記録・出土遺物等の資料は、すべて市教育委員会にて保管している。

(5) 調査の体制

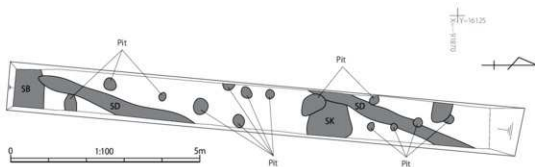
東平遺跡第83地区2次調査に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

[調査主体]

富士市教育委員会 教育長 山田 幸男

[調査担当]

市民部	部長	加納 孝則(平成28年度)
		高野 浩一(平成29年度)
文化振興課	課長	町田しげ美(平成28年度)
		久保田伸彦(平成29年度)
文化財担当	統括主幹	久保田伸彦(平成28年度)
		植松 良夫(平成29年度)
	主 幹	石川 武男
埋蔵文化財調査室	主 査	佐藤 祐樹
	主事補	伊藤 愛(平成29年度)
	臨時職員	服部 孝信
		小島 利史
		若林 美希



第129図 確認調査トレンチ 遺構検出状況図

2. 調査の成果

(1) 確認調査

確認調査では敷地内に南北方向のトレンチを1本設定した。

重機による表土掘削後、人力により精査を行った結果、竪穴建物跡(SB)1軒、溝状遺構(SD)2条、土坑(SK)・ピット(Pit)15基が検出された。このうち、トレンチの南端で検出されたSBは本発掘調査のSB202と、南側のSDはSD201と同一遺構と認められ、北側のSDはSD202と同一遺構の可能性ある。遺物は土師器片・須恵器片が出土したが、図示には至らなかった。

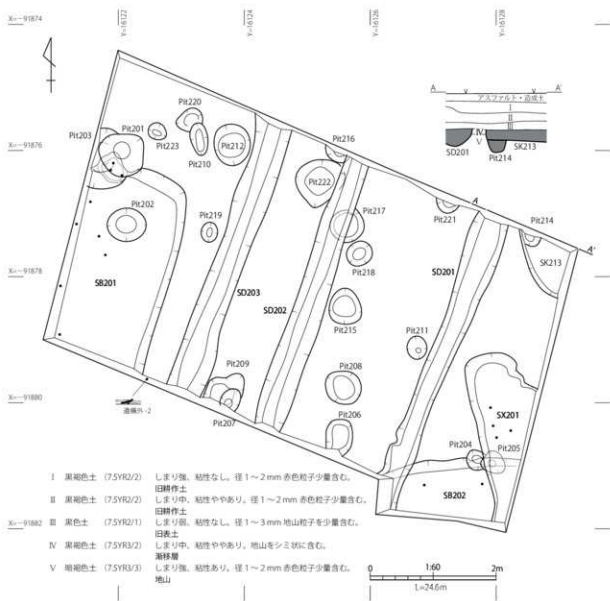
敷地内には奈良時代から平安時代にかけての遺構が存在することが明らかとなった。

(2) 本発掘調査

本発掘調査では、道路から敷地内へ乗り入れるための掘削が必要なため遺跡の保護が図れない敷地南側に、東西幅約7.8m、南北幅約4.5mの調査区を設定した。

重機により遺構確認まで掘削した後、人力により遺構および遺物の検出につとめた。

その結果、竪穴建物跡2軒(SB201～202)、溝状遺構3条(SD201～203)、土坑・ピット23基(Pit201～223)、性格不明遺構1基(SX201)を検出・完掘し、測量や写真撮影等による記録保存を行った。



第130図 本調査区全体 平面図・基本土層図

竪穴建物跡

SB201

位置 調査区の南西角に位置する。

重複関係 (古) SB201 → Pit201・202・203 (新)

主軸方位 N-17°E

残存状況 西半分と南壁が調査区外に位置するが、カマドが位置する北壁と東壁が確認できる。検出部分で、主軸幅3.00m、直交幅1.60m、深さ50cmを測り、平面形は方形を呈すると推定できる。

本調査終了後の工事立会時に南壁が確認され、その結果、主軸幅は3.6m程になるとみられる。

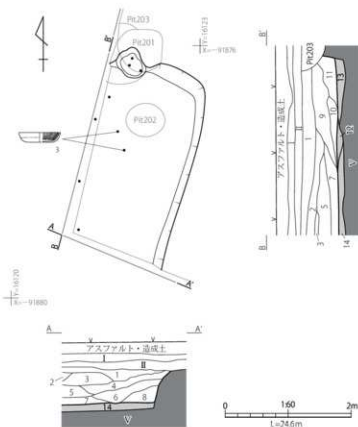
覆土 ロームブロックを含む黒色土・黒褐色土。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

床 検出部分では全体的に厚さ10cmほどの貼り床が施されている。

カマド 北壁につくられている。上面をPit201・203によって削られ、袖も残っていないが、煙道と燃焼室、支脚石が残存する。支脚石の上から土師器環(第133図4)が出土した。支脚石を据える部分のみ掘り方に黒褐色土を入れ、燃焼室から煙道にかけては掘り方をそのまま使用している。残存部で全長47cm、幅38cmを測



- | | | |
|----------------------|--|-------------|
| 1 黒褐色土層 (75YR2/2) | しまり中、粘性なし。径2~3cmのロームブロックを少量含む。 | SB201 覆土 |
| 2 黒褐色土層 (75YR2/2) | しまり中、粘性なし。径5~7cmのロームブロックを少量含む。 | SB201 覆土 |
| 3 黒褐色土層 (75YR2/2) | しまり強、粘性ややあり。径0.5~1cmのローム粒子を少量含む。 | SB201 覆土 |
| 4 黒褐色土層 (75YR2/2) | しまり強、粘性ややあり。径2~3cmのロームブロックを中量含む。 | SB201 覆土 |
| 5 黒色土層 (75YR2/1) | しまり中、粘性ややあり。径5~7cmのロームブロックを少量含む。 | SB201 覆土 |
| 6 黒色土層 (75YR2/1) | しまり中、粘性ややあり。径5~7cmのロームブロックを少量含む。 | SB201 覆土 |
| 7 黒色土層 (75YR2/1) | しまり中、粘性ややあり。径2~3cmのロームブロックを少量含む。 | SB201 覆土 |
| 8 黒色土層 (75YR2/1) | しまり強、粘性ややあり。粘土粒子中量。黒色土をブロック状に中量含む。 | SB201 覆土 |
| 9 黒褐色土層 (75YR2/2) | しまり中、粘性あり。粘土粒子・粘土ブロックを中量。黒色土をブロック状に中量含む。 | SB201 覆土 |
| 10 にごい黒褐色土 (10YR4/3) | しまり中、粘性あり。粘土を主体的に含む。(カマドを構成していた土を由来とする) | SB201 覆土 |
| 11 にごい黒褐色土 (10YR5/3) | しまり中、粘性あり。粘土を主体的に含む。(カマドを構成していた土を由来とする) | SB201 覆土 |
| 12 黒褐色土層 (10YR3/3) | しまり強、粘性あり。粘土粒子を中量含む。 | SB201 掘り方覆土 |
| 13 黒褐色土層 (75YR3/1) | しまり強、粘性あり。粘土粒子を中量含む。 | SB201 掘り方覆土 |
| 14 黒褐色土層 (75YR3/1) | しまり強、粘性あり。換土を含まない。黒色土をシミ状に含む。 | SB201 掘り方覆土 |

第131図 SB201 平面図・セクション図

る。

出土遺物(第133図)1は須恵器の有台杯身である。高台は精細さに欠け、端部が丸をもつ。底部がやや突出する。2は丸底の坏である。口縁部がヨコナデによりやや外反する。体部外面はヘラナデ、内面はヘラミガキが施される。胎土は駿東のもの共通する。3・4は畿内系土師器の坏と考えられる。3は平底で底部が広く、垂直気味に口縁部に至る。外面はナデ調整によって仕上げられる。内面は放射状暗文状のヘラミガキが明確に認められる。色調が橙色を呈し、駿東産ではないものの周辺で生産された可能性を残す。4は平底の坏で見込み部にヘラミガキによる丁寧な螺旋暗文をもつ。外面は手持ちヘラケズリが施される。色調は明赤褐色で、胎土も駿東とは共通しない。畿内産の可能性をもつ。5は駿東型埴の口縁部の破片である。

所見(時期) 土師器坏などから8世紀前半の建物跡と考えられる。

SB202

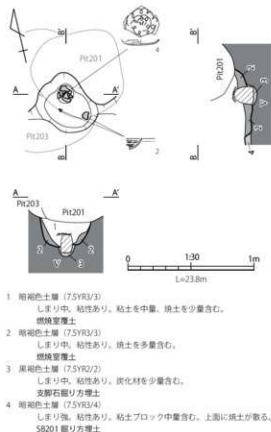
位置 調査区の南東角に位置する。

重複関係(古) SB202

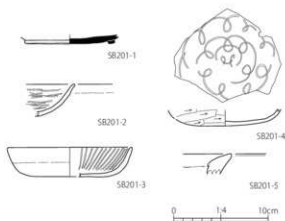
→ SD201、SX201、Pit204・205(新)

主軸方位 N-6.5°-W

残存状況 西側、南側、東側の大部分が調査区外にあり、北壁の一部のみ確認できる。検出部分で、南北幅1.10m、東西幅2.30m、深さ60cmを測る。平面形は不明だが確認される北壁は直線的である。



第132図 SB201カマド 平面図・セクション図



第133図 SB201 出土遺物実測図

第20表 SB201 出土遺物観察表

神田番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種類 期層	法量 (cm)		焼成	残存 率	内面色調 外面色調	備考
					口径	底径				
SB201-1	R0018	PL.29	SB201	須恵器 有台杯身	-	(1.0) [9.4]	良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB201-2	R0033、0035	PL.29	SB201	土師器 内湾杯	-	(3.4)	良好	-	2.5YR4.3 (にぶい赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	カマド出土
SB201-3	R0015、0020	PL.28	SB201	土師器 (畿内) 坏	(13.0)	- 3.1	良好	25%	7.5YR8/6 (浅黄橙) 7.5YR8/6 (浅黄橙)	畿内産
SB201-4	R0034	PL.28	SB201	土師器 (畿内) 坏	-	(1.7)	良好	60%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	螺旋暗文 カマド出土
SB201-5	R0018	PL.29	SB201	土師器 甕車型埴	-	(2.1)	良好	-	2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR4/2 (灰黄)	

覆土 黒色土・黒褐色土が堆積する。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

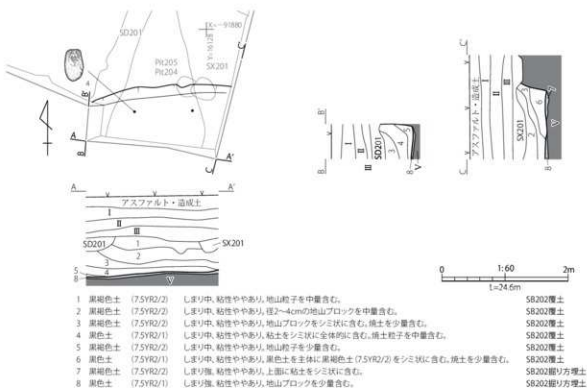
床 検出部分では全体に厚さ2～4cmほどの貼り床が施されている。

カマド 確認されない。調査区東壁寄りに粘土が比較的多く認められる部分があり、東壁あるいは北壁にカマド

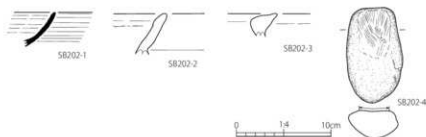
がつくられていた可能性がある。

出土遺物(第135図) 1は須恵器の椀形坏身の破片である。内外面にノタ目を明瞭に残す。内湾しながらもやや広がる形態を示す。2は鞍東型埴輪系の口縁部、3は鞍東型埴輪系の塙の口縁部である。4は磨り石で、上面に痕跡が認められる。

所見(時期) 8世紀代の建物跡か。



第134図 SB202 平面図・セクション図



第135図 SB202 出土遺物実測図

第21表 SB202 出土遺物観察表

標記番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種別 細目	法量 (cm)			地成	残存 率	内面色調 外面色調	備考
					口径	口径	高さ				
SB202-1	R0047	PL.29	SB202	須恵器 椀形坏身	-	-	(3.6)	良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB202-2	R0027	PL.29	SB202	土師器 鞍東型埴輪	-	-	(4.3)	良好	-	2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	
SB202-3	R0027	PL.29	SB202	土師器 鞍東型埴輪	-	-	(2.5)	良好	-	2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	
SB202-4	R0031	PL.29	SB202	石磨 磨石	長さ	幅	厚さ				
					10.1	5.9	3.6				

溝状遺構

SD201

位置 調査区の東寄りに位置する。

重複関係 (古) SB202 → SD201 (新)

主軸方位 N-22°-E

残存状況 調査区内を南北に縦断し、確認される部分で南北長4.85m、東西幅60cm、深さ20~28cmを測る。

覆土 黒色土と黒褐色土が堆積する。

所見 時期は不明である。

SD202

位置 調査区の中央に位置する。

重複関係 (古) Pit216・217・222 → SD202 (新)

主軸方位 N-19°-E

残存状況 調査区を南北に縦断し、確認される部分で南北長4.43m、東西幅50cm、深さ23~29cmを測る。

る。確認調査で検出された北側のSDがSD202につながる遺構であるならば、南北長は11.6mほどになる。

SD201から1.8mほど西に位置する。

覆土 黒色土が堆積する。

所見 時期は不明である。

SD203

位置 調査区の西寄りに位置する。

重複関係 なし

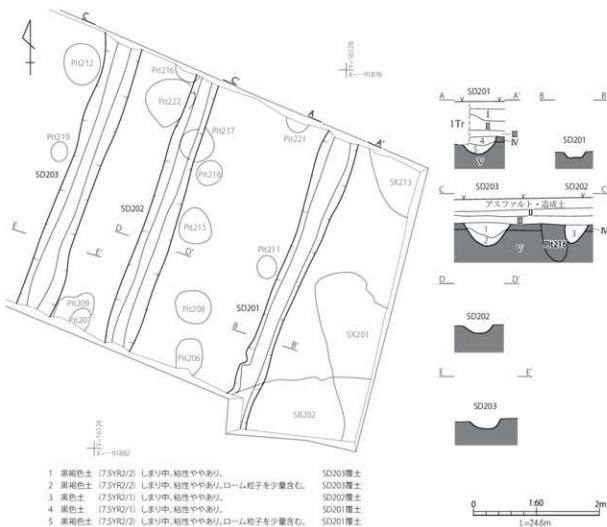
主軸方位 N-19°-E

残存状況 調査区を南北に縦断し、確認される部分で南北長4.40m、東西幅58cm、深さ28~37cmを測る。

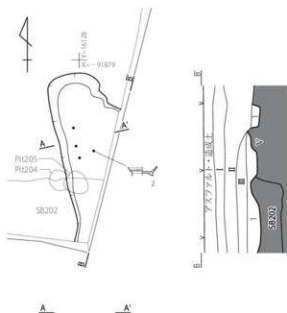
SD202から94cm西に位置する。

覆土 黒褐色土が堆積する。

所見 時期は不明である。

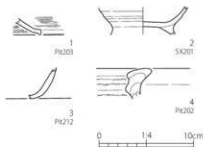


第136図 SD201・202・203 平面図・セクション図



1 黒褐色土(7.5YR3/1) しまり弱、粘性なし、地山砂子を少量含む。
SX201覆土

第137図 SX201 平面図・セクション図



第138図 SX201およびピット 出土遺物実測図

第22表 SX201およびピット 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種類	細別	法量 (cm)	焼成	残存 率	内面色調	外面色調	備考
第138図1	R0016	PL.29	Pit203	土師器	坏蓋	-	(1.7)	良好	2.5YR4/6 (赤陶)	2.5YR4/6 (赤陶)	
第138図2	R0012, 0017	PL.29	SX201	土師器	高台坏	-	(2.9)	良好	7.5YR8/6 (浅黄橙)	7.5YR8/6 (浅黄橙)	
第138図3	R0039	PL.29	Pit212	土師器	内湾坏	-	(3.2)	良好	7.5YR7/6 (橙)	2.5YR5/6 (明赤陶) 赤彩?	
第138図4	R0014	PL.29	Pit202	土師器	腹車型甕	-	(3.2)	良好	2.5YR4/3 (にぶい赤陶)	2.5YR3/2 (暗赤陶)	

性格不明遺構

SX201

位置 調査区の南東に位置する。

重複関係 (古) SB202、Pit204・205 → SX201 (新)
残存状況 東側は調査区外に位置する。確認される部分
は南北幅2.67m、東西幅1.08m、深さ20cmを測るが、
平面形は不定形で、床面の凹凸が激しく、北壁の立ち上
がりもはっきりしない。

覆土 黒褐色土が堆積する。

出土遺物 (第138図2) 土師器の足高台坏とされる
ものである。底部には回転糸切りの痕跡が若干観察され
る。色調は橙色を呈し、焼成があまり良くなく、もろい。
11世紀頃と考えられる。

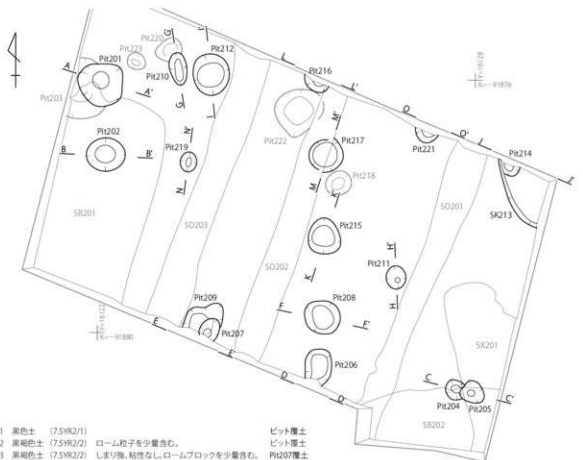
所見 (時期) 遺構の時期、性格は不明である。

土坑・ピット

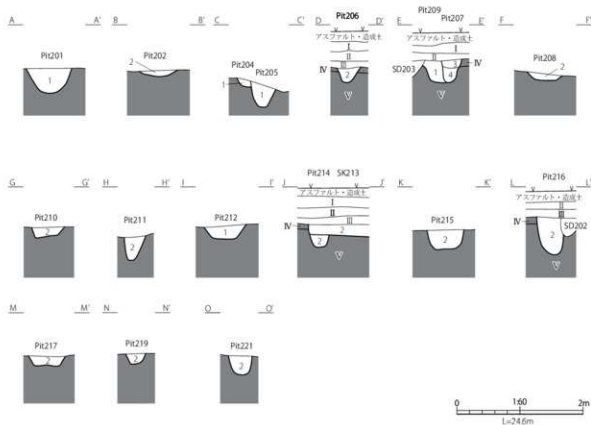
土坑1基 (SK213)、ピット22基 (Pit201～212・
214～223)を検出した。規模等の詳細は第23表に示す。
出土遺物 (第138図1・3・4) 1はPit203から出土
した坏蓋の破片である。内外面ともにヘラミガキが明瞭
に残る。9世紀前半と考えられる。3はPit212から出
土した坏である。底部はあまり残存しないが、丸底気味
になると考えられる。器面が荒れている為、調整等の観
察ができない。8世紀前半である。4はPit202から出
土した甕である。口唇部を強く意識して肥厚させている。

遺構外出土遺物 (第141図)

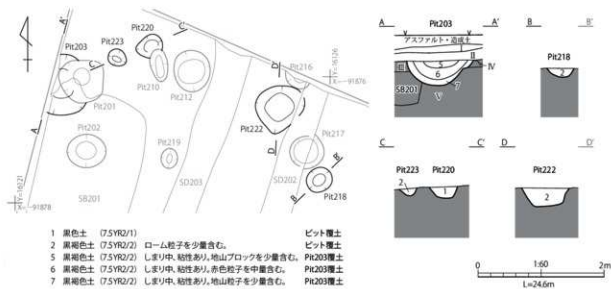
1は灰釉陶器の碗と考えられる。全体的に器壁が厚く
つくられている。口唇部は外反する。施釉方法は不明で
ある。10世紀頃のものである。2は須恵器の有台坏身、
3は口縁部を強くヨコナデする土師器坏である。ともに
8世紀前半のものである。4は底部削り出し高台とされ
る坏である。9世紀後半頃と考えられる。5は駿東型球
胴甕の口縁部片で8世紀代のもと考えられる。



- | | | |
|-------------------|-------------------------|----------|
| 1 黒色土 (7.5YR2/1) | ローム粒子を少量含む。 | ビット層土 |
| 2 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまり強、粘性なし。ロームブロックを少量含む。 | ビット層土 |
| 3 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまり強、粘性なし。ロームブロックを少量含む。 | Pit207層土 |
| 4 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまり強、粘性なし。ロームブロックを多量含む。 | Pit207層土 |



第139図 土坑・ビット 平面図・セクション図①



第140図 土坑・ピット 平面図・セクション図②

第23表 土坑・ピット 遺構概要一覧表

遺構番号	遺構種別	規模 (cm)		断面形	出土遺物 (探検番号)	土層	切り合い (古→新)	備考
Ph201	ピット	67	67	40	進台形 R0013	A	SB201 → Ph203 → Ph201	
Ph202	ピット	60	51	10	進台形 R0014 (第000図4)	B	SB201 → Ph202	SB201 覆土中で検出
Ph203	ピット	97	(59)	28	進台形 R0016 (第000図1)	B	SB201 → Ph203 → Ph201	
Ph204	ピット	30	(27)	15	進台形 A	A	SB202 → Ph204 → Ph205 → SX201	
Ph205	ピット	36	33	48	U字形 A	A	SB202 → Ph204 → Ph205 → SX201	
Ph206	ピット	(53)	41	15	進台形 R0021	B		
Ph207	ピット	(30)	30	27	U字形 R0022	C	Ph200 → Ph207	
Ph208	ピット	55	50	11	進台形 R0023	B		
Ph209	ピット	(54)	56	26	進台形 R0024	A	Ph209 → Ph207	
Ph210	ピット	50	24	15	進台形 R0032	B	Ph220 → Ph210	
Ph211	ピット	34	30	41	U字形 B	B		
Ph212	ピット	61	52	24	進台形 R0039 (第000図2)	A		
SK213	土坑	(91)	(80)	17	進台形 B	B	Ph214 → SK213	
Ph214	ピット	(33)	(20)	20	進台形 R0036	B	Ph214 → SK213	
Ph215	ピット	56	49	30	進台形 R0041	B		
Ph216	ピット	45	(17)	58	進台形 R0040	B	Ph216 → SD202	
Ph217	ピット	55	51	17	進台形 R0042	B	Ph217 → SD202	
Ph218	ピット	40	36	14	進台形 B	B		
Ph219	ピット	28	24	16	進台形 R0043	B		
Ph220	ピット	41	28	20	進台形 R0044	A	Ph220 → Ph210	
Ph221	ピット	36	(17)	25	進台形 R0045	B		
Ph222	ピット	78	64	32	進台形 R0046	B	Ph222 → SD202	
Ph223	ピット	28	20	12	進台形 B	B		

土層 A 黒色土 (7.5YR2/1)

土層 B 黒褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒子を少量含む。

土層 C 黒褐色土 (7.5YR2/2) ロームブロックを多量含む。



第141図 遺構外 出土遺物実測図

第24表 遺構外 出土遺物観察表

探検番号	R番号	写真 図版	出土 場所	種類	細部	法長 口径 底径 高さ	焼成	残存 率	内面色調	外面色調
第141図1	R0002	PL-29	表土	灰陶片	碗	- - (2.7)	良好	-	5Y6/2 (灰オリーブ)	2.5Y7/1 (灰白)
第141図2	R0037	PL-29	II層	須恵器	有台坏身	- - (1.7)	良好	-	2.5Y6/1 (黄灰)	2.5Y7/1 (灰白)
第141図3	R0002	PL-29	表土	土師器	内湾坏	- - (2.8)	良好	-	7.5YR7/4 (にぶい赤褐)	2.5YR6/4 (にぶい橙)
第141図4	R0002	PL-29	表土	土師器	坏 (傾り出し高台)	- - (3.3)	良好	-	2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	5YR5/4 (にぶい赤褐)
第141図5	R0002	PL-29	表土	土師器	瓶東型埴輪	- - (4.8)	良好	-	2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	7.5YR3/1 (黒褐)

第6章 資料報告

はじめに

本稿の目的は、富士市立博物館が所蔵する考古資料のうち、未報告遺物を資料化することである。

富士市立博物館は富士市伝法に所在し、昭和56年4月25日の開館以来「富士に生きる一紙のまちの歴史と文化」をメインテーマに掲げ、岳南地域の歴史と文化、製紙に関する調査研究・資料収集・保管・展示・教育普及を行ってきた。平成28年4月29日には、「富士山かぐや姫ミュージアム」の愛称のもと、富士山に帰るかぐや姫物語を展示する世界でただひとつの博物館としてリニューアルしている。

本稿で紹介する考古資料は、昭和30年代後半から市内において急増した開発などにより偶然発見され、博物館に収蔵されているものである。出土位置が明確ではないものなどもあるが、報告することにより資料的価値がある程度定まるものもあり、今回紹介することとした。

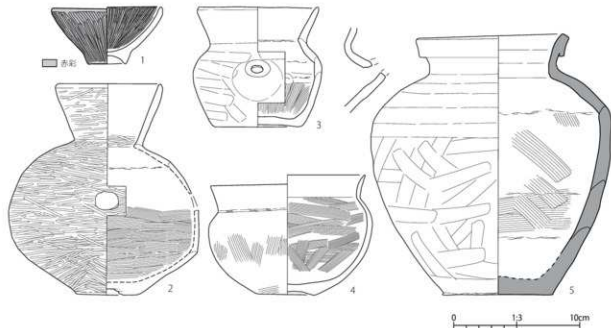
資料紹介

Iは「中里 長学寺前(南)出土 H3」と遺物に注記のある土師器の小型鉢である。長学寺とは富士市比奈に所在する「本門法華宗蓮池山 長学寺」のことと推測

されることから祢宜ノ前遺跡出土と考えられる。

口径8.5cm、器高4.5cm、底径2.9cmと小型の鉢で、底部は上げ底で端部がやや尖る。底部よりやや内湾しながら口縁部にいたる。内外ともに赤彩。調整はハケ目調整の後、丁寧なヘラミガキが施される。

大和など畿内の土器とも考えられるが底部が高台のように突出しないこと、上げ底にもかかわらず底部外面に指頭圧痕が巡らない点など相違点がある(山本亮氏の教示)。そのため、本来、平底の小型鉢の東日本における模倣の際に小型丸底土器のように上げ底化させたものか、上げ底の小型鉢の形體的模倣の際に指頭圧痕や底部の突出が失われたもの、など複数の可能性が考えられる。いずれにしても在地系土器ではなく時期決定が明確には出来ないが、弥生時代終末期(庄内式併行期)、大塚式前半(渡井1996・1998)から古墳時代前期前半(布留式古段階から中段中相)、大塚式後半の時間幅が考えられる。祢宜ノ前遺跡からは大塚Ⅱ式から中見代Ⅰ式の遺構が見つかった。その中でも第15号住居址や第25号住居址からは外来系土器を含む大塚Ⅱ式の遺構も複数見つかっており(富士市教育委員会2008)、本資料も同時代の資料の可能性が高い。



第142図 資料報告遺物実測図

2は「中里1丁目神社ウラ」と遺物に注記された土師器壺である。土師の内部には出土時の状況を示した紙片が入っており、それによると「昭和37年8月9日吉原市中里1丁目天神社裏地先に於いて国鉄新幹線工事盛土用の土運搬中のトラック上より落下したものを拾い上げたもの 拾得者吉原三丁目小林寛三」とある。これが、拾得された場所から出土したものであるとすれば現在の包蔵地「天念寺遺跡」からの出土と考えられる。

土器は胴部中央に穿孔が認められる土師器の直口壺である。底部はドーナツ状の作りの為、上げ底となっている。胴部下半に明確な乾燥工程をおき、若干立ち上がりながらカーブを描きながら頸部にいたる。頸部の屈曲はきど鋭く直線的に口縁部にいたる。口唇部の調整は弱いナデ調整でその他はヘラミガキが施される。胴部中央の焼成後穿孔は長軸1.8cm、短軸1.4cmを測る。

時期は古墳時代前期前半（大塚Ⅲ・Ⅳ式）のものと考えられる。穿孔の存在から周溝墓などに伴う可能性が考えられる。天念寺遺跡にはTK47からMT15型式併行期に築造されたとされる天神塚古墳が存在する。天神塚古墳は51.5mに復元される前方後円墳の可能性が指摘されており（藤村2012）、墳丘下より古墳時代前期から中期の集落跡（天念寺遺跡）が見つかっており、時間的な連続はない。

3も中里において出土したとされる土師器ハソウである。土器が入っているビニール袋に「中里出土 土師器ハソウ」とマジックにて記入がある。また、土師の底部裏面にもマジックにて「中里」との注記があるが、それ以上の情報は無い。

胴部と口縁部の一部に石膏を入れた痕跡が認められる以外は良好に遺存している。全体的に稚拙なつくりで、小型壺に注口部を付けたような形態をしている。底部は平底の粘土板成形で胴部中央がやや膨れる。胴部最大径の部分には明確な乾燥工程が置かれていらく内面調整も胴下半までのハケ目からナデ調整に変化する。胴部の整形の後、注口部はやや上方にあげられる。頸部はやや窄まり直線的に口縁部にいたる。

類例に乏しく明確な年代は明らかではないが、小型壺をハソウにするという技法などから古墳時代中期中葉から後期頃のものと考えられる。出土地については「中里」以外の情報は無いが、古墳からの出土であれば、「中里1古墳群」から「中里4古墳群」が候補としてあげられ

る。集落であれば、前掲の天念寺遺跡や兎森遺跡が考えられるが、時間的には天念寺遺跡の可能性が高い。

4は三新田遺跡において採集されたとされる土師器の鉢である。土器自体に注記はなくビニール袋及び紙ラベルに「寄贈資料 三新田 site 工事中採集 H7.10.20」とある。このことから平成7年10月20日に工事関係者から博物館に寄贈された三新田遺跡出土の鉢であると考えられる。

底部はやや上げ底気味で肩が張り、頸部にいたる。頸部は緩やかに湾曲しながらやや外反しながら口縁部にいたる。三新田遺跡A地区で見つかった古墳時代前期前半（大塚Ⅲ・Ⅳ式）の資料と考えられる。

5は常滑産の甕である。遺物や収納していた袋などに注記がなく出土地不明とされるが、今回報告する他の遺物とともに保管されていたことから富士市内における出土であるとされる。全体的に器壁が厚い。底部は平底で胴部は肩が緩やかに屈曲する。15世紀後半頃の生産と考えられる。富士市内では類例の多くない時期の遺物であり、出土地が明らかでないのは残念である。

おわりに

本稿では富士市立博物館に収蔵されて考古資料の中から、未報告となっている資料の一部の資料化を行なった。それぞれの遺物の歴史的位置付けについて若干触れたのみだが、このような作業の蓄積が地域史復元の重要な基礎作業と考えている。今後も引き続き、地道な基礎作業を継続していく必要がある。

参考文献

- 富士市教育委員会 2008 『柘原ノ前遺跡』
 藤村 理 2012 「古墳時代後期初頭における二つの首長墳とその評価」『富士市内遺跡発掘調査報告書—平成11・12年度—』富士市教育委員会
 渡井 英吾 1996 「東駿河における古留式併行期の様相（前）—土器様式の設定—」『静岡県考古学』No.28
 渡井 英吾 1996 「大塚式土器小考」『庄内式時研究』XVI 庄内式土器研究会

第7章 総括

中古原宿遺跡第10地区 第2章において報告した中古原宿遺跡（古原宿）とは、原宿と蒲原宿の間に位置する東海道14番目の宿場である。ただし、駿河湾に面して営まれたため、台風の高潮の影響・被害を絶えず受け、40年ごとに2回の移転を余儀なくされた。包蔵地名としては古い順に、元古原宿遺跡、中古原宿遺跡、新古原宿遺跡と呼称している。新古原宿遺跡は現在の古原の中心地と一致しており、現在もその面影を残している。

中古原宿遺跡は寛永16年から延宝8年（1639年～1680年）の約40年間に限って営まれた宿場跡であり、平成11年に行った詳細調査においても17世紀中葉の良好な資料を得ることができた。今回報告する第10地区はかつて調査した地点の東100m程度の箇所にあたる。その結果、確認調査という限定された範囲ながら、17世紀中葉の陶磁器を含む遺構を検出し、宿場の東側の境についても明らかにすることができた。遺構を検出した面は円礫を含む暗灰黄色砂質土層に覆われており、調査所見からはこの土層が延宝8年（1680年）閏8月6日に襲来した江戸時代最大級の台風による被害痕跡と判断した。

また、出土した陶磁器98点はすべて18世紀以前のものに限られており、年代的相違はない。陶磁器は皿、碗などの食器や鉢、甕といった調理具や貯蔵具などの日常生活用具が全体の約8割程度を占め、宿場としての性格を明確に表しているといえる。

舟久保遺跡第58地区 第3章において報告した舟久保遺跡は、古墳時代から平安時代まで継続する集落で、奈良時代に入り、富士郡家である東平遺跡とともにその規模を大きくした遺跡である。昭和34年3月、市立古原第二中学校校庭での採土工事の際に、大量の土器が出土し、その中には「倉」と墨書されたものも含まれていたことから、このあたりに富士郡家と関連する公的な施設が存在した可能性が指摘できる。

第58地区の調査では平安時代前期から中初期頃に該当する9世紀から10世紀前半の竪穴建物跡4軒を検出した。特にSB3004からは10世紀前半の灰軸陶器、駿東型土器、甲斐型土器の良好な一括資料を得ることができた。

宇東川遺跡W地区 第4章において報告した宇東川遺跡は縄文時代から平安時代まで継続する遺跡である。縄文時代の主体は、中期後葉から後期前葉（曾利式後半から軀之内1式）である。弥生時代は前期、中期の遺構は認められず、後期から集落活動が認められる。古墳時代は弥生時代後期からの継続で集落が営まれ、途中、空白期間をはさみながら、飛鳥時代、奈良時代、平安時代まで集落が継続する。奈良時代では、前述の舟久保遺跡と同じように富士郡家である東平遺跡から東へ続く街道沿いに展開する遺跡である。

W地区の調査では、限られた面積の調査ながら、縄文時代では、曾利IV式から曾利V式の遺物包含層を検出した。弥生時代では、確認調査において後期の壺1点の出土が認められる。奈良時代の調査では8世紀の竪穴建物跡10軒を検出した。特にSB2003、SB2010のカマド前面からは土器集中が認められた。これらの土器はカマドからの出土よりも、カマドに向かって右前からの出土傾向が高いのが特徴といえる。

東平遺跡第83地区 第5章において報告した東平遺跡は、これまで述べてきたように駿河国富士郡家とされる遺跡である。古墳時代後期の遺構も若干認められるが、東平遺跡における竪穴建物跡のピークは8世紀後半にある。

第83地区の調査では、8世紀の竪穴建物跡2軒を検出した。その中でSB201から出土した見込み部にヘラミガキによる丁寧な螺旋暗文をもつ畿内産土師器と考えられる土器が注目される。富士市内では、同様の土器が駿河湾沿いの三新田遺跡でも認められている。今後は、甲斐を含めてその流入経路について、検討する必要がある。

写真図版

PLATE

中古原宿遺跡 第10地区



1. 3Tr (北西から)

PL.2

中吉原宿遺跡 第10地区



1. 3Tr (SX06・SX07・SX08) (南西から)



2. 3Tr (SA01・SX05) (西から)

中古原宿遺跡 第10地区



1. 3Tr (SA01・SX07) (北から)



2. 3Tr 土層堆積 (南西から)

PL.4

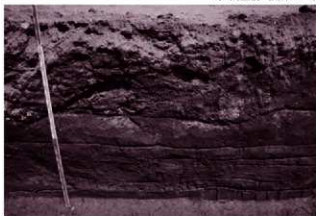
中吉原宿遺跡 第10地区



1. 調査前 (南東から)



2. 重機稼働 (南西から)



3. 1Tr 土層堆積 (南から)



4. 2Tr (SX01) (東から)



5. 2Tr 完掘 (南東から)

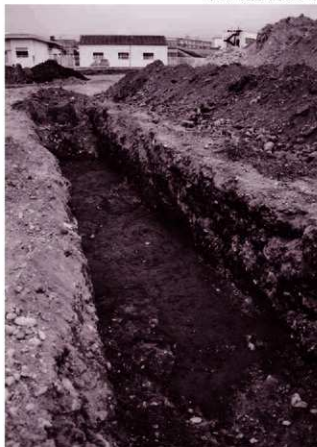
中古原宿遺跡 第10地区



1. 9Tr 完掘 (南東から)



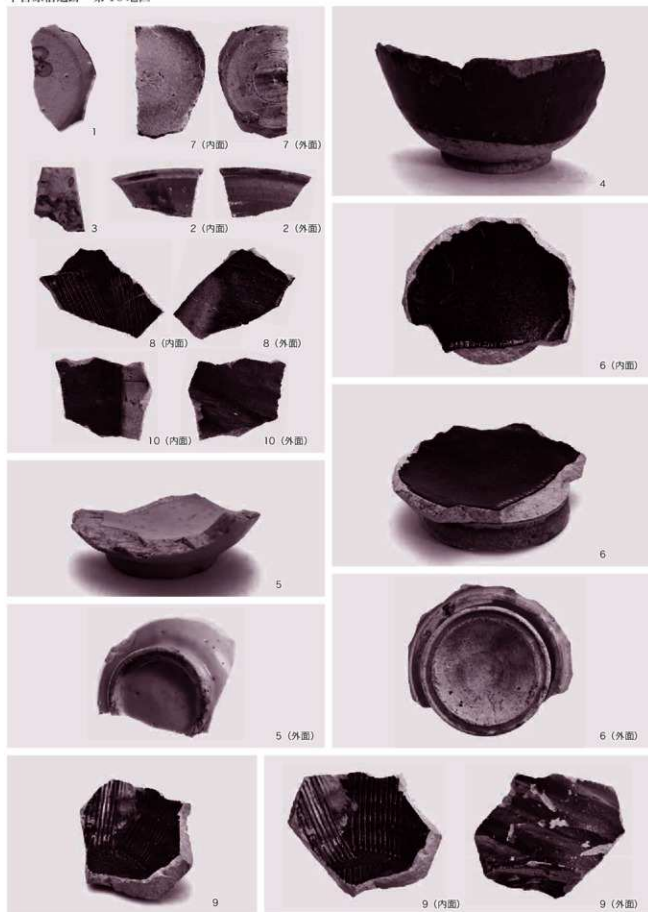
2. 8Tr 完掘 (北から)



3. 6Tr 完掘 (南から)



4. 7Tr 完掘 (南から)



舟久保遺跡 第58地区



1. 確認調査 重機稼働



2. 1Tr東壁土層 (西から)



3. 3Tr完掘 (西から)



4. 6Tr東壁SK03断面 (西から)



5. 6Tr完掘 (南西から)



6. 第60地区1Tr完掘 (南西から)



1. 1工区全景 (南西から)

舟久保遺跡 第58地区



1. SB3001 (西から)



2. SB3001 遺物出土 (北から)



3. SB3002・SB3003 (南東から)

PL.10

舟久保遺跡 第58地区



1. 1工区北側(南西から)

舟久保遺跡 第58地区



1. SB3003 (南東から)



2. SB3001 カマド (南東から)

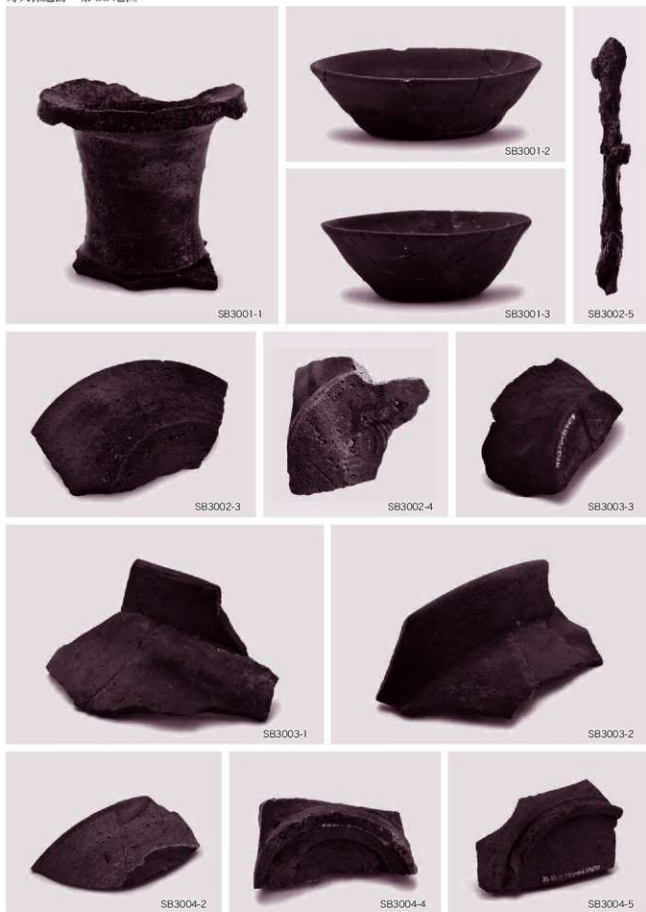
PL.12

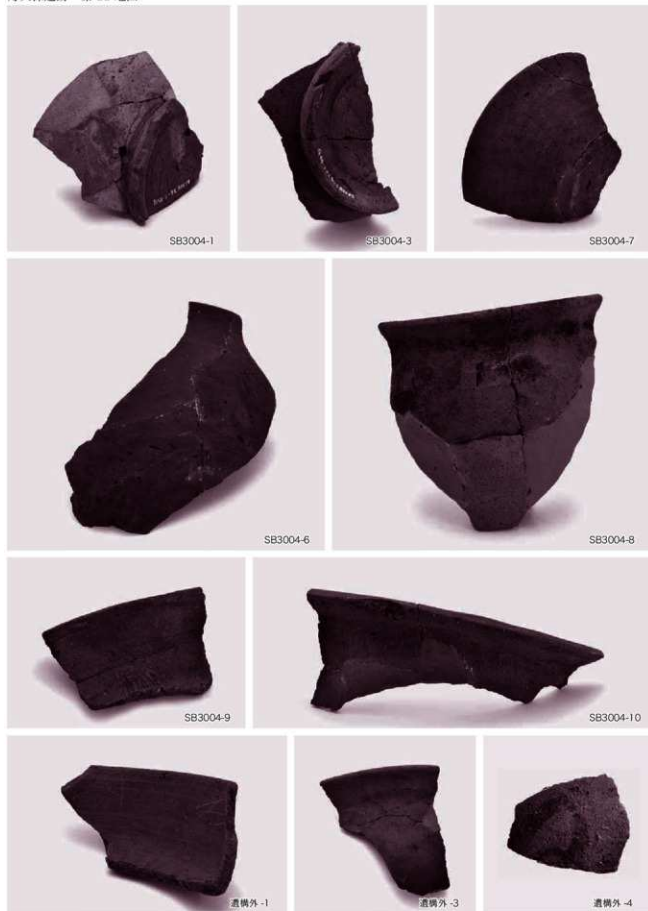
舟久保遺跡 第58地区



出土遺物集合

舟久保遺跡 第58地区





宇東川遺跡 W 地区



1. 1 工区全景 (東から)



1. 1 工区遺構検出 (東から)



2. SB2002 カマド (東から)



3. SB2003 カマド周辺 (東から)



4. SB2010 カマド周辺 (東から)

宇束川遺跡 W地区



1. SB2010 遺物 (4) (北東から)



2. SB2001 (東から)



1. 2工区から5工区全景 (南東から)

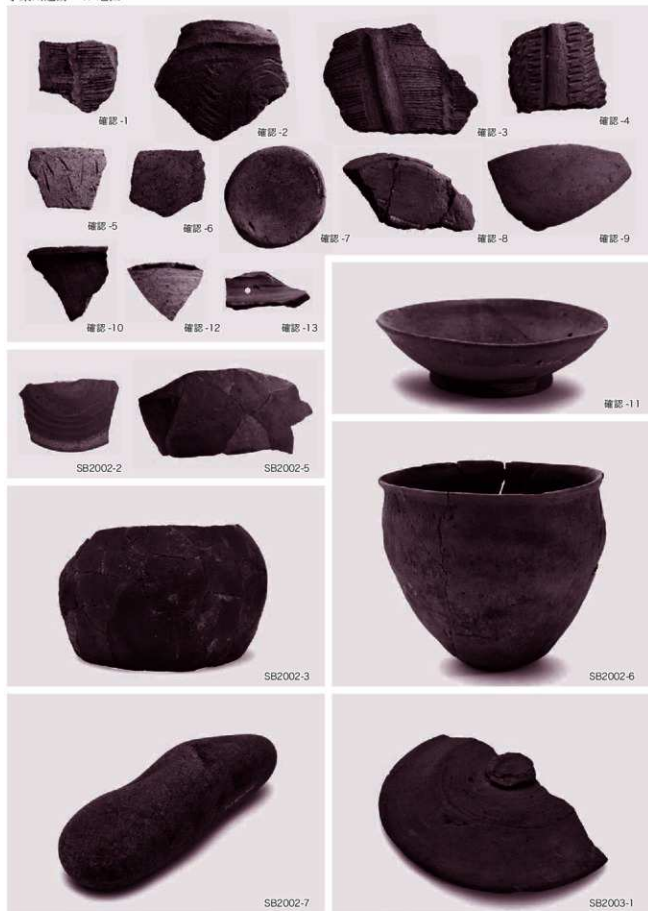


2. SB2006カマド (南から)



3. 5工区遺物出土 (南東から)





宇束川遺跡 W地区



SB2003-3



SB2003-7



SB2003-9



SB2010-3



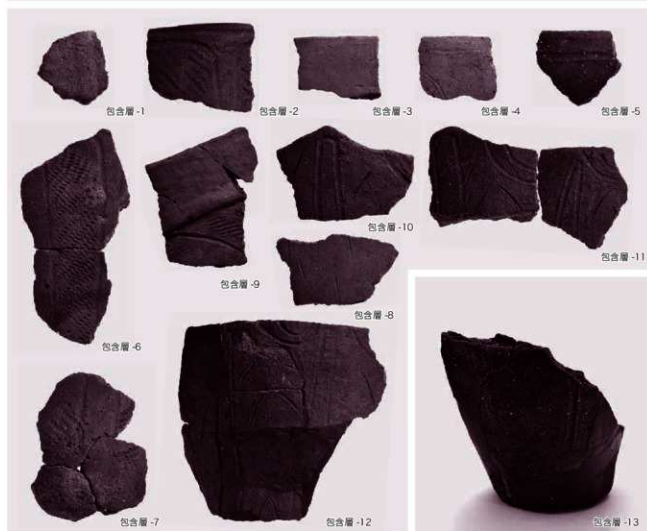
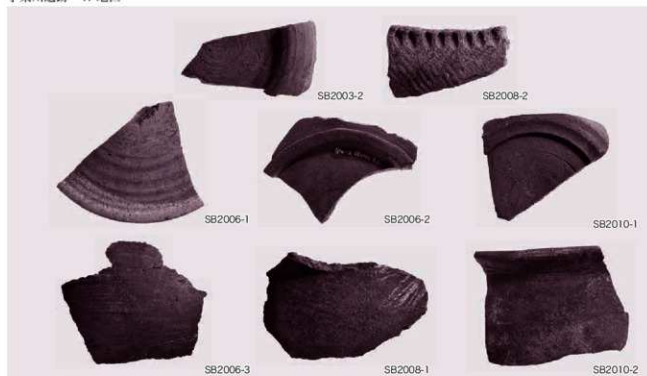
SB2003-5



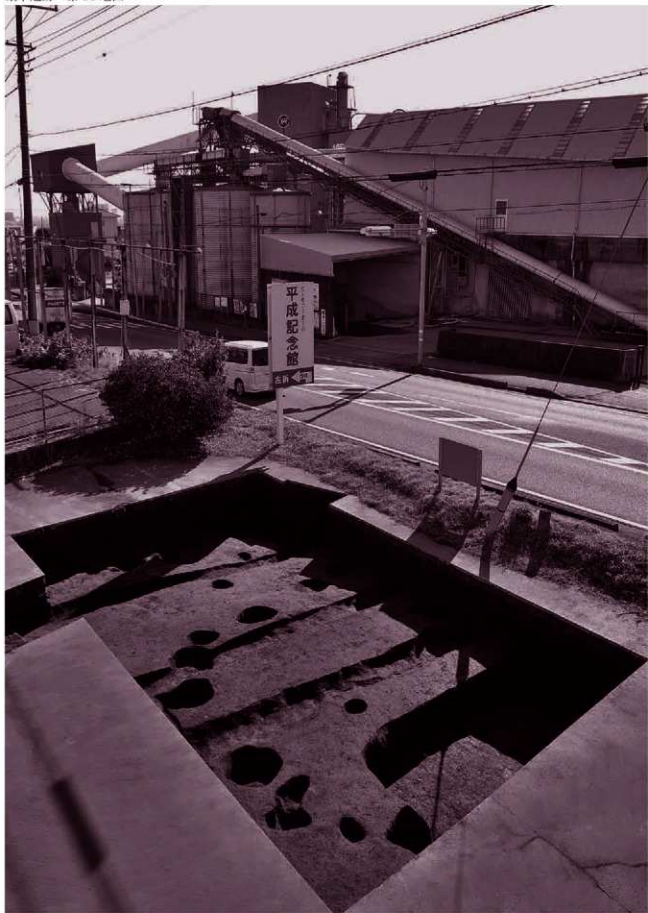
SB2003-6



SB2010-4



東平遺跡 第83地区



1. 調査区全景（北西から）

PL.24

東平遺跡 第83地区



1. SB201 全景 (南東から)



2. SB201 全景 (北東から)

東平遺跡 第83地区



1. SB201 カマド (南東から)



2. SB201 カマド遺物出土状況 (南東から)



3. SB202 全景 (西から)

PL.26

東平遺跡 第83地区



1. SB202 全景 (北西から)



2. SD201 全景 (北西から)

東平遺跡 第83地区



1. SD202・203 全景 (南西から)



2. SX201 全景 (北西から)



1. Pit201・203 (東から)



3 (内面)



4 (内面)



3

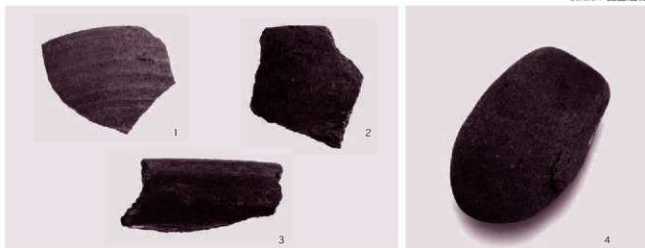


4

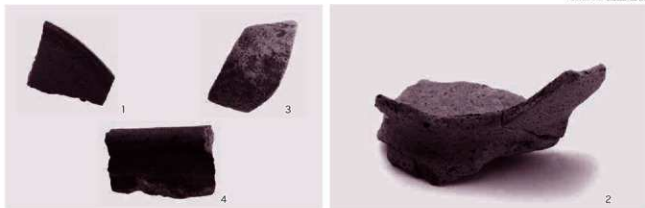
東平遺跡 第83地区



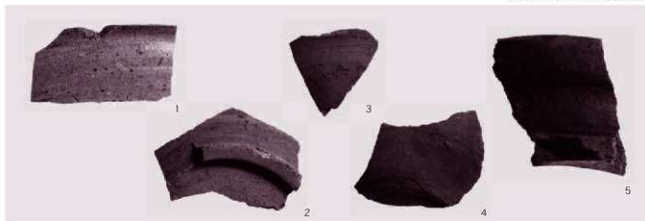
SB201 出土遺物



SB202 出土遺物



SX201 およびビット出土遺物



遺構外出土遺物



報告書抄録

ふりがな	ふじしないせきはつつちょうきほうこくしょ		
書名	富士市内遺跡発掘調査報告書		
調査年度	平成28年度		
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告		
シリーズ番号	第62集		
編者名	佐藤祐樹(編著)・若林美希・伊藤 愛(著)		
編集機関	富士市教育委員会(担当課:市民部文化振興課)		
所在地	〒417-8601 静岡県富士市永田町1丁目100番地 Tm 0545-55-2875		
市町村コード	22210		
発行年月日	平成29年10月1日		

調査番号	所収遺跡名 地区名	所在地		種別	遺構
		調査区画	調査期間		
H28-102	第3章 丹久尾遺跡 第58地区 3次調査 146.179㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-1 8.5第 35°10'07.43" 138°41'29.02"	市遺跡番号	特記事項
		本調査	20160006 ~ 20160701	46	埋穴建物跡、ピット 土器類・須恵器・灰槌陶器
H28-103	第4章 W地区 2次調査 70.739㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°10'11.06" 138°42'5.272"	種文・奈良・平安	埋穴建物跡
		本調査	20160719 ~ 20160818	50	縄文土器・土器・土師器・須恵器・灰槌陶器
H28-104	第5章 第83地区 2次調査 37.369㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°10'18.283" 138°40'37.219"	奈良・平安	埋穴建物跡・溝・土坑、ピット・性格不明遺構 土師器・須恵器・灰槌陶器・石器・鉄製品
		本調査	20161122 ~ 20161207	42	
H28-01	第1章 第1章 第1章 丹田遺跡 第154次調査地点 1次調査 30.629㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°9'18.329" 138°42'16.956"	その他遺跡、その他の遺	なし
		確認調査	20160404	53	なし
H28-02	第1章 第2章 第7地区 1次調査 18.331㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°7'11.055" 138°39'27.871"	敷布地	なし
		確認調査	20160406	12	なし
H28-03	第4章 W地区 1次調査 201.018㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°10'11.06" 138°42'5.272"	種文・奈良・奈良・平安	埋穴建物跡・ピット
		確認調査	20160411 ~ 20160413	50	縄文土器、石器、奈良土器、土師器、須恵器、灰槌陶器
H28-04	第1章 第2章 東平遺跡第79地区 1次調査 11.690㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°10'8.298" 138°40'40.011"	社寺跡	なし
		確認調査	20160421	43	なし
H28-05	第2章 第10地区 1次調査 409.692㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°9'18.045" 138°41'47.969"	集落跡	埋内・ピット・性格不明遺構
		確認調査	20160425 ~ 20160428	109	陶磁器
H28-06	第1章 第2章 第4地区 1次調査 31.659㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°7'23.026" 138°38'11.83"	敷布地	なし
		確認調査	20160418	5	なし
H28-07	第4章 第5章 東平遺跡第80地区 1次調査 17.681㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°10'7.753" 138°40'33.628"	社寺跡	なし
		確認調査	20160422	43	なし
H28-08	第1章 第2章 第4地区 1次調査 6.900㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°7'5.689" 138°41'5.579"	古墳	なし
		確認調査	20160509 ~ 20160510	153	なし
H28-09	第1章 第2章 中原遺跡 第30地区 1次調査 17.373㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°11'2.315" 138°40'30.060"	敷布地	なし
		確認調査	20160516	19	なし
H28-10	第1章 第8章 武家入道跡 第18次調査地点 1次調査 114.541㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°10'47.599" 138°38'40.199"	集落跡	ピット
		確認調査	20160518 ~ 20160520	33	土師器
H28-11	第1章 第8章 武家入道跡 第18次調査地点 2次調査 25.869㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°10'47.599" 138°38'40.199"	集落跡	なし
		確認調査	20160628	33	なし
H28-12	第1章 第2章 中島遺跡 第11地区 1次調査 21.743㎡	調査区画	調査期間 令和6(元)1634-2 外 35°10'22.48" 138°42'11.162"	集落跡	なし
		確認調査	20160713	49	なし

調査 番号	内収 番号	所在地 地区名 調査面積 調査原因	所在地 名称 面積 座標	種別 用途 市道番号	備考 備考
H28 13	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第11地区1次調査 57,864㎡	***** 野原 134.3 35°1'12.567" 138°39'11.195"	歩道 34	なし
	第2章 第11	***** 延平道歩 第81地区1次調査 18,846㎡	***** 野原 260.4 番3 35°10'11.487" 138°40'17.724"	歩道 42	なし
H28 14	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第81地区1次調査 76,152㎡	***** 野原 211.2126 番1 外 6 番 35°10'13.113" 138°40'58.704"	歩道 45	短六建物跡・土坑
	第2章 第12	***** 延平道歩 第5地区2次調査 20,120㎡	***** 野原 211.2126 番1 外 6 番 35°10'13.113" 138°40'58.704"	歩道 45	土留跡、湧出跡
H28 15	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第9地区1次調査 23,146㎡	***** 野原 217.1、229 35°8'55.562" 138°44'58.326"	歩道 97	なし
	第2章 第13	***** 延平道歩 第9地区1次調査 23,146㎡	***** 野原 217.1、229 35°8'55.562" 138°44'58.326"	歩道 97	なし
H28 16	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第9地区1次調査 23,146㎡	***** 野原 217.1、229 35°8'55.562" 138°44'58.326"	歩道 97	なし
	第2章 第13	***** 延平道歩 第9地区1次調査 23,146㎡	***** 野原 217.1、229 35°8'55.562" 138°44'58.326"	歩道 97	なし
H28 17	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第9地区1次調査 23,146㎡	***** 野原 217.1、229 35°8'55.562" 138°44'58.326"	歩道 97	なし
	第2章 第13	***** 延平道歩 第9地区1次調査 23,146㎡	***** 野原 217.1、229 35°8'55.562" 138°44'58.326"	歩道 97	なし
H28 18	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第9地区1次調査 23,146㎡	***** 野原 217.1、229 35°8'55.562" 138°44'58.326"	歩道 97	なし
	第2章 第13	***** 延平道歩 第9地区1次調査 23,146㎡	***** 野原 217.1、229 35°8'55.562" 138°44'58.326"	歩道 97	なし
H28 19	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第83地区1次調査 17,250㎡	***** 野原 2970.1 35°10'18.283" 138°40'37.239"	歩道 42	短六建物跡・溝・小穴
	第2章 第15	***** 延平道歩 第4地区1次調査 256,510㎡	***** 野原 282.1 外 35°11'16.538" 138°41'48.587"	歩道 169	なし
H28 20	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第4地区1次調査 256,510㎡	***** 野原 282.1 外 35°11'16.538" 138°41'48.587"	歩道 169	なし
	第2章 第15	***** 延平道歩 第4地区1次調査 256,510㎡	***** 野原 282.1 外 35°11'16.538" 138°41'48.587"	歩道 169	なし
H28 21	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第4地区1次調査 256,510㎡	***** 野原 282.1 外 35°11'16.538" 138°41'48.587"	歩道 169	なし
	第2章 第15	***** 延平道歩 第4地区1次調査 256,510㎡	***** 野原 282.1 外 35°11'16.538" 138°41'48.587"	歩道 169	なし
H28 22	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第19次調査地点1次調査 72,100㎡	***** 野原 1619 番地1 外 15 番 35°12'22.438" 138°39'55.902"	歩道 33	なし
	第2章 第17	***** 延平道歩 第19次調査地点1次調査 72,100㎡	***** 野原 1619 番地1 外 15 番 35°12'22.438" 138°39'55.902"	歩道 33	なし
H28 23	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第10地区1次調査 51,388㎡	***** 野原 1619 番地1 外 15 番 35°12'22.438" 138°39'55.902"	歩道 33	なし
	第2章 第18	***** 延平道歩 第10地区1次調査 51,388㎡	***** 野原 1619 番地1 外 15 番 35°12'22.438" 138°39'55.902"	歩道 33	なし
H28 24	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第10地区1次調査 496,558㎡	***** 野原 1619 番地1 外 15 番 35°12'22.438" 138°39'55.902"	歩道 33	なし
	第2章 第16	***** 延平道歩 第10地区1次調査 496,558㎡	***** 野原 1619 番地1 外 15 番 35°12'22.438" 138°39'55.902"	歩道 33	なし
H28 25	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第43地区1次調査 6,525㎡	***** 野原 590 番1 外 35°12'23.353" 138°38'27.183"	歩道 7	なし
	第2章 第19	***** 延平道歩 第43地区1次調査 6,525㎡	***** 野原 590 番1 外 35°12'23.353" 138°38'27.183"	歩道 7	なし
H28 26	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第155次調査地点1次調査 38,180㎡	***** 野原 643 番1 外 1 番 35°9'44.191" 138°42'51.37"	歩道 53	その他の遺跡、その他の墓
	第2章 第20	***** 延平道歩 第155次調査地点1次調査 38,180㎡	***** 野原 643 番1 外 1 番 35°9'44.191" 138°42'51.37"	歩道 53	養生・奈良・平安
H28 27	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第44地区1次調査 12,328㎡	***** 野原 1159 番1 外 35°12'21.917" 138°38'39.9"	歩道 7	なし
	第2章 第21	***** 延平道歩 第44地区1次調査 12,328㎡	***** 野原 1159 番1 外 35°12'21.917" 138°38'39.9"	歩道 7	なし
H28 28	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第3地区1次調査 31,648㎡	***** 野原 732.1 35°9'33.084" 138°45'10.56"	歩道 71	なし
	第2章 第22	***** 延平道歩 第3地区1次調査 31,648㎡	***** 野原 732.1 35°9'33.084" 138°45'10.56"	歩道 71	なし
H28 29	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第19次調査地点2次調査 43,000㎡	***** 野原 151.1 外 35°10'42.158" 138°38'47.036"	歩道 33	なし
	第2章 第17	***** 延平道歩 第19次調査地点2次調査 43,000㎡	***** 野原 151.1 外 35°10'42.158" 138°38'47.036"	歩道 33	なし
H28 30	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第84地区1次調査 15,906㎡	***** 野原 223 番1の内 外 35°10'20.611" 138°40'55.539"	歩道 42	なし
	第2章 第23	***** 延平道歩 第84地区1次調査 15,906㎡	***** 野原 223 番1の内 外 35°10'20.611" 138°40'55.539"	歩道 42	なし
H28 31	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第85地区1次調査 12,767㎡	***** 野原 223.3 35°10'8.732" 138°40'11.4"	歩道 42	なし
	第2章 第24	***** 延平道歩 第85地区1次調査 12,767㎡	***** 野原 223.3 35°10'8.732" 138°40'11.4"	歩道 42	なし
H28 32	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第156次調査地点1次調査 78,450㎡	***** 野原 227.1 35°9'42.329" 138°41'45.362"	歩道 53	その他の遺跡、その他の墓
	第2章 第25	***** 延平道歩 第156次調査地点1次調査 78,450㎡	***** 野原 227.1 35°9'42.329" 138°41'45.362"	歩道 53	養生・奈良・平安
H28 33	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第59地区2次調査 15,037㎡	***** 野原 1958.1 35°10'11.952" 138°41'31.428"	歩道 46	1区、ビッド
	第2章 第26	***** 延平道歩 第59地区2次調査 15,037㎡	***** 野原 1958.1 35°10'11.952" 138°41'31.428"	歩道 46	なし
H28 34	第1章 第10	***** 戸数日通歩 第61地区1次調査 36,100㎡	***** 野原 2096.1 35°10'10.869" 138°41'17.456"	歩道 46	なし
	第2章 第27	***** 延平道歩 第61地区1次調査 36,100㎡	***** 野原 2096.1 35°10'10.869" 138°41'17.456"	歩道 46	なし

調査番号	所収番号	所在地名		所在地		種別	遺構
		地区名		北緯	東経		
		調査面積	調査理由	調査期間		市道跡番号	特記事項
H28 35	第1章						
	第2章 第3地区1次調査						
	28	31.670㎡	確認調査	20170130～20170131		230	
H28 36	第1章						
	第2章 第11地区1次調査						
	29	6.874㎡	確認調査	20170201～20170206		97	
H28 37	第1章						
	第2章 開採地(第4地区1次調査)						
	30	8.154㎡	確認調査	20170222		8	
H28 38	第1章						
	第2章 第62地区1次調査						
	31	15.828㎡	確認調査	20170228		46	
H28 39	第1章						
	第2章 第16地区1次調査						
	32	225.068㎡	確認調査	20170306～20170308		192	

富士市埋蔵文化財発掘調査報告 第62集

富士市内遺跡発掘調査報告書
—平成28年度—

発行年月日 平成29年10月1日

編集・発行 富士市教育委員会
〒417-8601 静岡県富士市永田町一丁目100番地
TEL 0545-55-2875 FAX 0545-53-0789
E-mail: si-bunka@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本 文光堂印刷株式会社
〒410-0871 静岡県沼津市西間門68番地の1

(富士市行政資料登録番号 29-25)